資料編

１　子どもの読書活動の推進に関する法律

２　文字・活字文化振興法

３　計画の策定経過

４　子どもの読書活動についてのアンケート結果

５　中学生・高校生対象図書館アンケート結果

６　用語解説

１　子どもの読書活動の推進に関する法律

（平成１３年１２月１２日法律第１５４号制定）

（目的）

第一条　この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、 子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条　子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条　国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条　事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条　父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条　政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画 （以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

２　政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

３　前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条　都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、 当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

２　市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、 子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、 当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、 当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

３　都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
４　前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。
（子ども読書の日）
第十条　国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。
２　子ども読書の日は、４月２３日とする。
３　国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。
（財政上の措置等）
第十一条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附　則
この法律は、公布の日から施行する。

２　文字・活字文化振興法

（平成１７年７月２９日法律第９１号）

（目的）

第一条　この法律は、文字・活字文化が、人類が長い歴史の中で蓄積してきた知識及び知恵の継承及び向上、豊かな人間性の涵養並びに健全な民主主義の発達に欠くことのできないものであることにかんがみ、文字・活字文化の振興に関する基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、文字・活字文化の振興に関する必要な事項を定めることにより、我が国における文字・活字文化の振興に関する施策の総合的な推進を図り、もって知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。

（定義）

第二条　この法律において「文字・活字文化」とは、活字その他の文字を用いて表現されたもの（以下この条において「文章」という。）を読み、及び書くことを中心として行われる精神的な活動、出版活動その他の文章を人に提供するための活動並びに出版物その他のこれらの活動の文化的所産をいう。

（基本理念）

第三条　文字・活字文化の振興に関する施策の推進は、すべての国民が、その自主性を尊重されつつ、生涯にわたり、地域、学校、家庭その他の様々な場において、居住する地域、身体的な条件その他の要因にかかわらず、等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備することを旨として、行われなければならない。

２　文字・活字文化の振興に当たっては、国語が日本文化の基盤であることに十分配慮されなければならない。

３　学校教育においては、すべての国民が文字・活字文化の恵沢を享受することができるようにするため、その教育の課程の全体を通じて、読む力及び書く力並びにこれらの力を基礎とする言語に関する能力（以下「言語力」という。）の涵養に十分配慮されなければならない。

（国の責務）

第四条　国は、前条の基本理念（次条において「基本理念」という。）にのっとり、文字・活字文化の振興に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第五条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、文字・活字文化の振興に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（関係機関等との連携強化）

第六条　国及び地方公共団体は、文字・活字文化の振興に関する施策が円滑に実施されるよう、図書館、教育機関その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（地域における文字・活字文化の振興）

第七条　市町村は、図書館奉仕に対する住民の需要に適切に対応できるようにするため、必要な数の公立図書館を設置し、及び適切に配置するよう努めるものとする。

２　国及び地方公共団体は、公立図書館が住民に対して適切な図書館奉仕を提供することができるよう、司書の充実等の人的体制の整備、図書館資料の充実、情報化の推進等の物的条件の整備その他の公立図書館の運営の改善及び向上のために必要な施策を講ずるものとする。

３　国及び地方公共団体は、大学その他の教育機関が行う図書館の一般公衆への開放、文字・活字文化に係る公開講座の開設その他の地域における文字・活字文化の振興に貢献する活動を促進するため、必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

４　前三項に定めるもののほか、国及び地方公共団体は、地域における文字・活字文化の振興を図るため、文字・活字文化の振興に資する活動を行う民間団体の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

（学校教育における言語力の涵養）

第八条　国及び地方公共団体は、学校教育において言語力の涵養が十分に図られるよう、効果的な手法の普及その他の教育方法の改善のために必要な施策を講ずるとともに、教育職員の養成及び研修の内容の充実その他のその資質の向上のために必要な施策を講ずるものとする。

２　国及び地方公共団体は、学校教育における言語力の涵養に資する環境の整備充実を図るため、司書教諭及び学校図書館に関する業務を担当するその他の職員の充実等の人的体制の整備、学校図書館の図書館資料の充実及び情報化の推進等の物的条件の整備等に関し必要な施策を講ずるものとする。

（文字・活字文化の国際交流）

第九条　国は、できる限り多様な国の文字・活字文化が国民に提供されるようにするとともに我が国の文字・活字文化の海外への発信を促進するため、我が国においてその文化が広く知られていない外国の出版物の日本語への翻訳の支援、日本語の出版物の外国語への翻訳の支援その他の文字・活字文化の国際交流を促進するために必要な施策を講ずるものとする。

（学術的出版物の普及）

第十条　国は、学術的出版物の普及が一般に困難であることにかんがみ、学術研究の成果についての出版の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

（文字・活字文化の日）

第十一条　国民の間に広く文字・活字文化についての関心と理解を深めるようにするため、文字・活字文化の日を設ける。

２　文字・活字文化の日は、十月二十七日とする。

３　国及び地方公共団体は、文字・活字文化の日には、その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めるものとする。

（財政上の措置等）

第十二条　国及び地方公共団体は、文字・活字文化の振興に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附　則

この法律は、公布の日から施行する。

３　計画の策定経過

実施日	内容
令和７年 ５月１５日	令和７年度第１回調布市立図書館協議会 ・「第５次調布市子ども読書活動推進計画」策定に向けたスケジュールについて
７月２４日	令和７年度第２回調布市立図書館協議会 ・「令和７年度子どもの読書に関するアンケート」実施について
９月８日～１０月１０日	子どもの読書活動についてのアンケート調査実施
令和８年 １月１５日	令和７年度第４回調布市立図書館協議会 ・「子どもの読書活動についてのアンケート」結果について（報告）
２月２５日	第１回第５次調布市こども読書活動推進計画連絡会※（関係者連絡会）
５月１４日	令和８年度第１回調布市立図書館協議会 ・「第５次調布市子ども読書活動推進計画」策定の進捗状況及びアンケート結果の分析について（報告）
５月２７日	第２回第５次調布市こども読書活動推進計画連絡会（関係者連絡会）
５月２７日～９月下旬	図書館及び関係部署において「第５次調布市こども読書活動推進計画（素案）」を作成
１０月１５日	令和８年度第３回調布市立図書館協議会へ素案提示、意見聴取
１１月２０日	令和８年調布市教育委員会第１１回定例会へ素案提示、意見聴取
１１月〇〇日～ １２月〇〇日	パブリックコメント実施 意見提出件数：〇件（〇人）
令和９年 １月〇〇日	令和８年度第４回調布市立図書館協議会へ最終案提示、意見聴取
２月〇〇日	令和９年調布市教育委員会第２回定例会　計画策定議案上程

※　調布市こども読書活動推進計画連絡会（関係部署）

子ども生活部子ども家庭センター、子ども生活部保育課、

子ども生活部児童青少年課、福祉健康部子ども発達センター、教育部指導室、

教育部社会教育課、教育部公民館、東京都立調布特別支援学校

4　子どもの読書活動についてのアンケート結果

●調査概要

・調査期間　令和７年９月８日（月）から１０月１０日（金）まで

・調査対象　市内関連施設を利用する乳幼児の保護者

市立小学校に通う小学１・３・５年生の保護者

市立中学校に通う中学２年生

市内都立高校に通う高校２年生

・調査件数　総数：９，１９３件

（乳幼児：１，２６１件、小学生：５，７１２件、

中学生：１，４３１件、高校生：７８９件）

・回答件数　総数：３，００５件

（乳幼児：２８５件、小学生：１，３１０件、

中学生：７０２件、高校生：７０８件）

●集計結果（令和７年度第４回調布市立図書館協議会資料）

・乳児（P.７０）　・幼児（P.７５）

・小学生１年生（P.８１）　・小学３年生（P.８８）　・小学５年生（P.９５）

・中学２年生（P.１０３）　・高校２年生（P.１１０）

●分析結果（令和８年度第１回調布市立図書館協議会資料）

・本を読むことの好ききらいと読書活動の相関性（P.１１７）

・学校図書館や児童館等の日常的な活動場所における環境整備の重要性（P.１１９）

・対象の年代に応じた広報・ＰＲの重要性（P.１２１）

・読書習慣に対する読み聞かせ経験の影響（P.１２２）

・身近な人との本を通したコミュニケーションや読書に結びつく活動・環境の重要性（P.１２３）

・電子図書について（P.１２６）

・図書館における居場所機能の重要性（P.１２７）

・図書館が開催するイベントの課題（広報・ニーズ把握）（P.１３０）

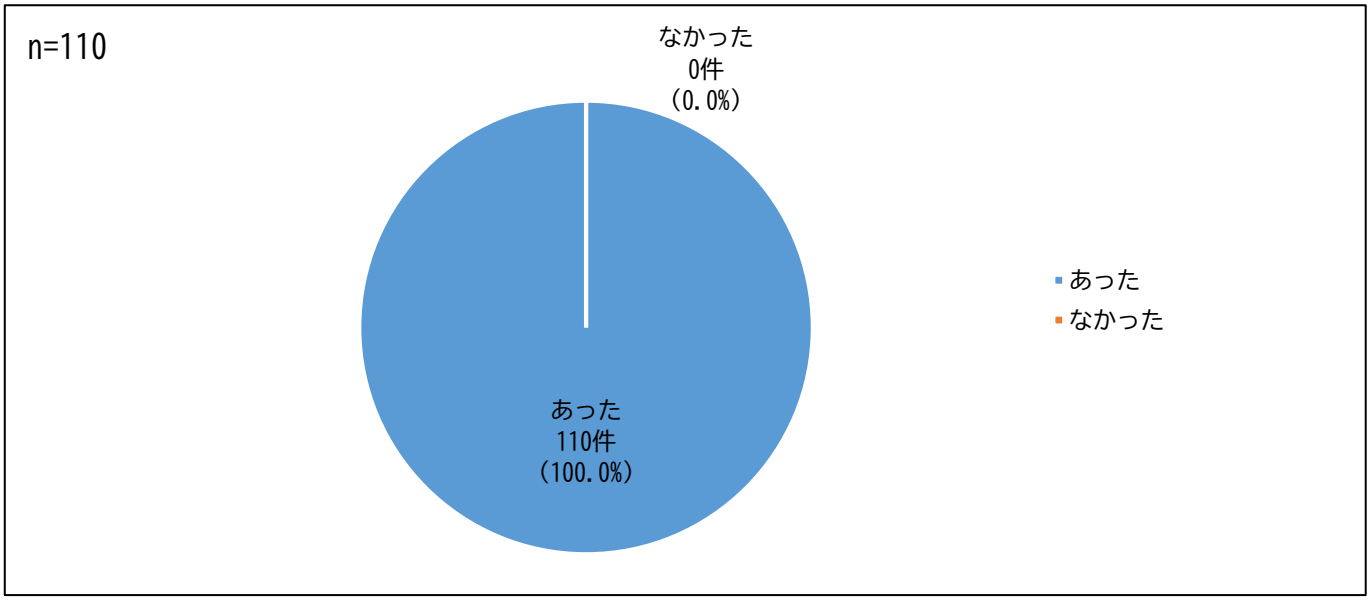
・調べものに対する情報収集手段の使い分け（P.１３２）

令和７年度　子どもの読書活動についてのアンケート集計結果（乳児）

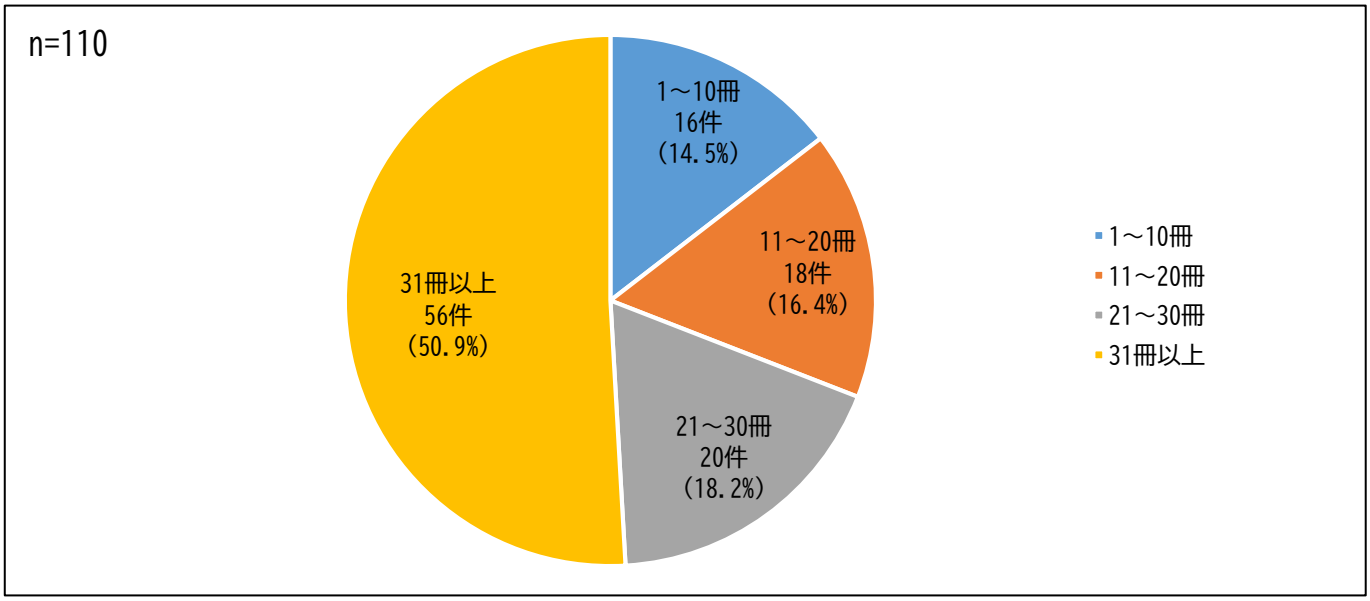
Q1　お子さんの年齢を選んでください。
※乳幼児のお子さんが複数いらっしゃる方は、どなたかお一人についての回答をお願いします。

乳児　110 人（配布部数　幼児含め 1,261 人）　回答率 8.7%

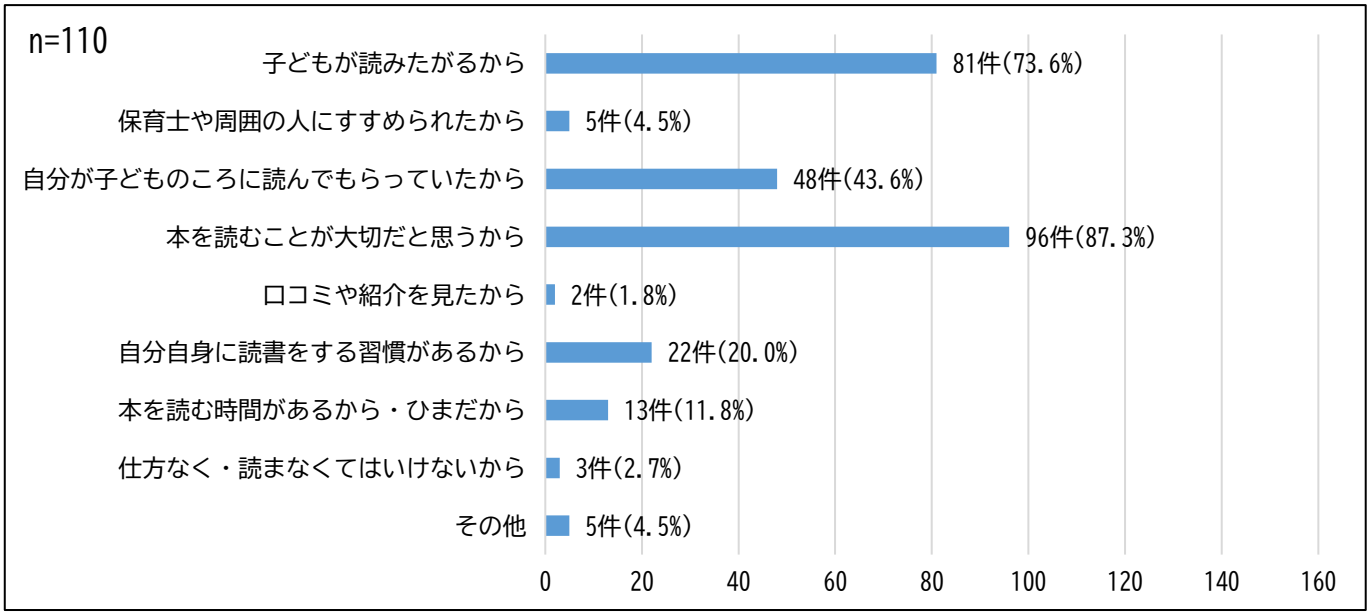
Q2　この１か月に、お子さんといっしょに本を読む機会はありましたか。



Q3　Q2 で「この１か月に、お子さんといっしょに本を読む機会があった」を選んだ方にお聞きします。
お子さんが読んだ本は、この１か月に何冊ありますか。
※同じ本を何度も読んだ場合は、読んだ回数を冊数としてカウントしてください。



Q4　Q2 で「この 1 か月に、お子さんといっしょに本を読む機会があった」を選んだ人にお聞きします。
お子さんと一緒に本を読むのはなぜですか。（最大 3 つまで）



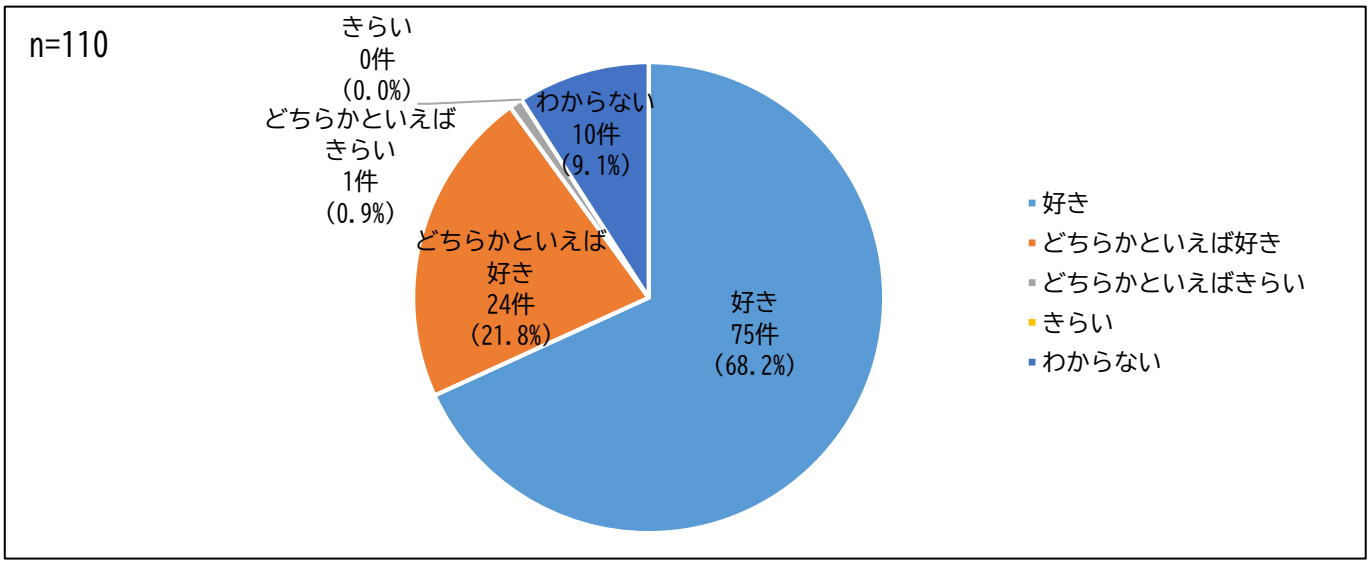
その他（自由記述）

・夜寝る前に読む　3 件
・子どもとのコミュニケーション　2 件

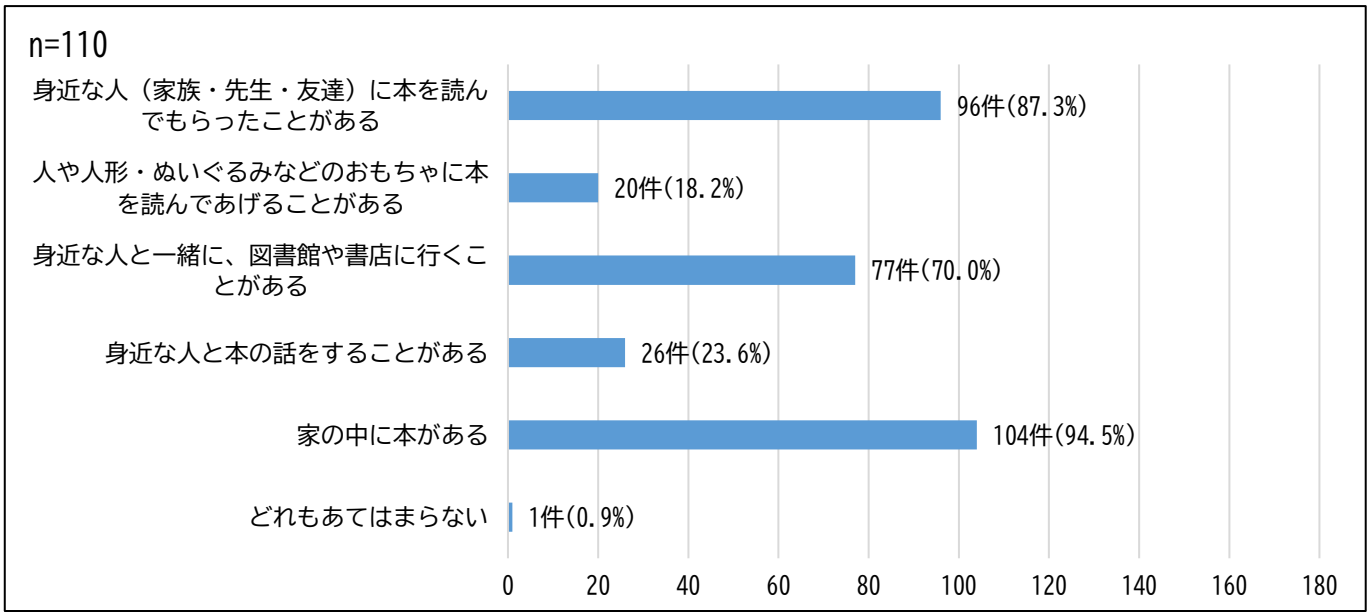
Q5　Q2 で「この 1 か月に、お子さんといっしょに本を読む機会がなかった」を選んだ人にお聞きします。
本を読まないのはなぜですか。最も大きい理由を 1 つ選んでください。

0 件

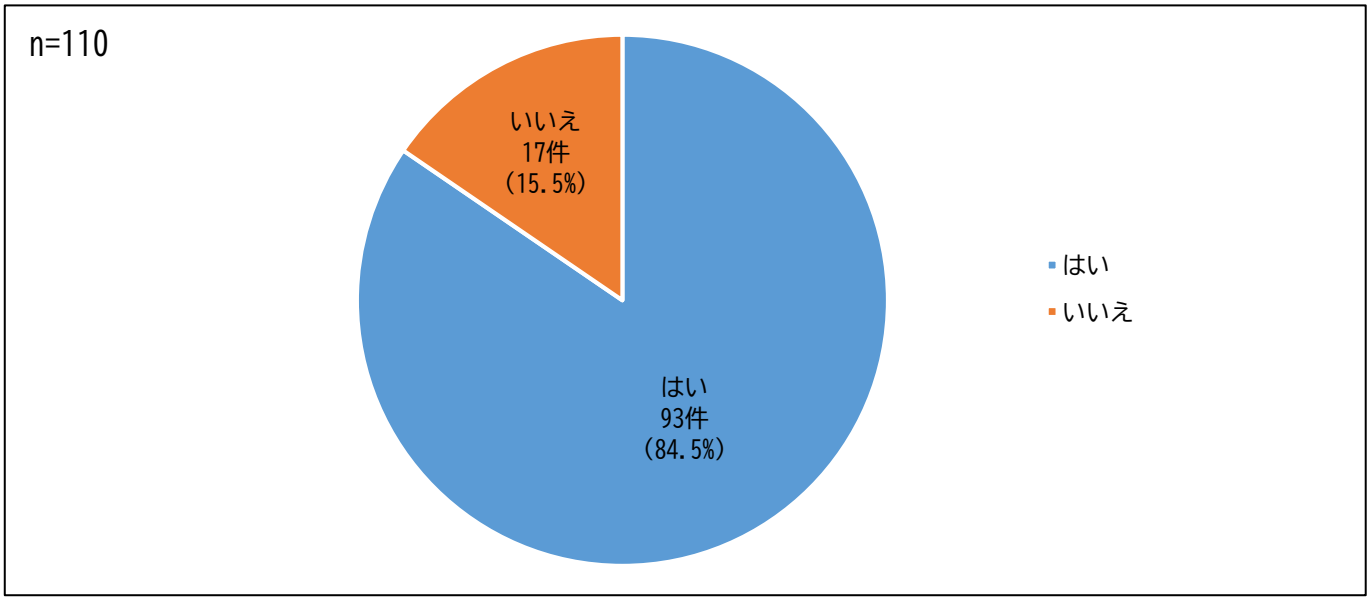
Q6　お子さんは本を読むことは好きですか。



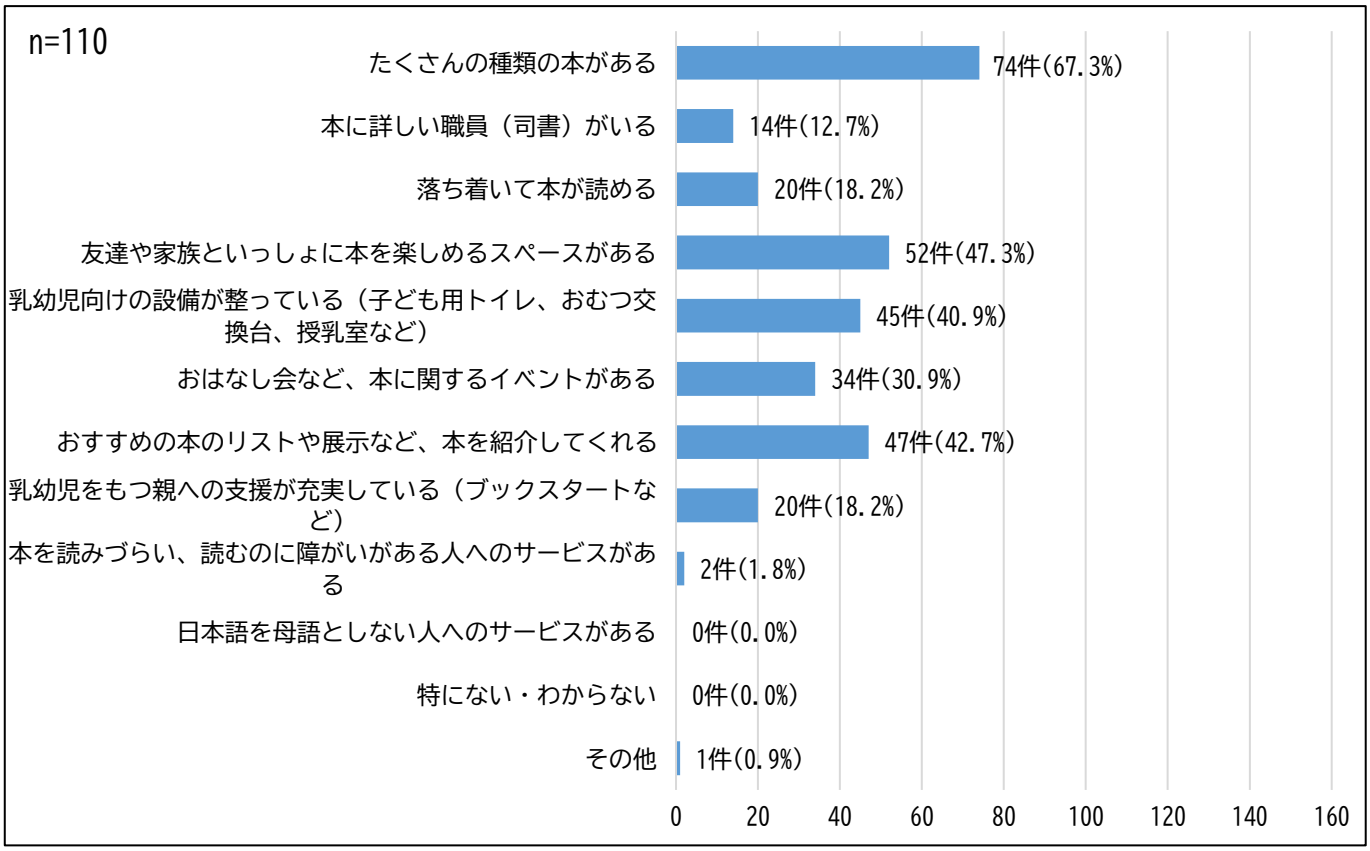
Q7　お子さんについて、あてはまるものを選んでください。（いくつでも）



Q8　お子さんは、4 月から今までの間に、市立図書館を利用しましたか。



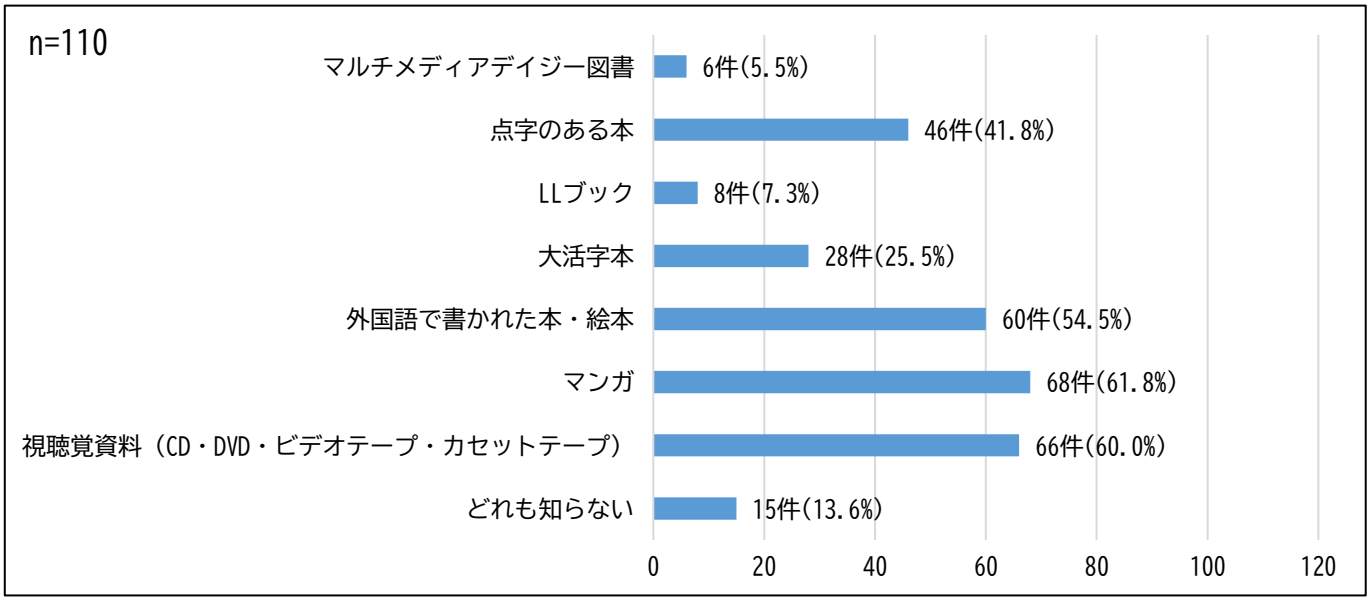
Q9　市立図書館に大事だと思うものは何ですか。
特に大事だと思うものを、最大３つまで選んでください。



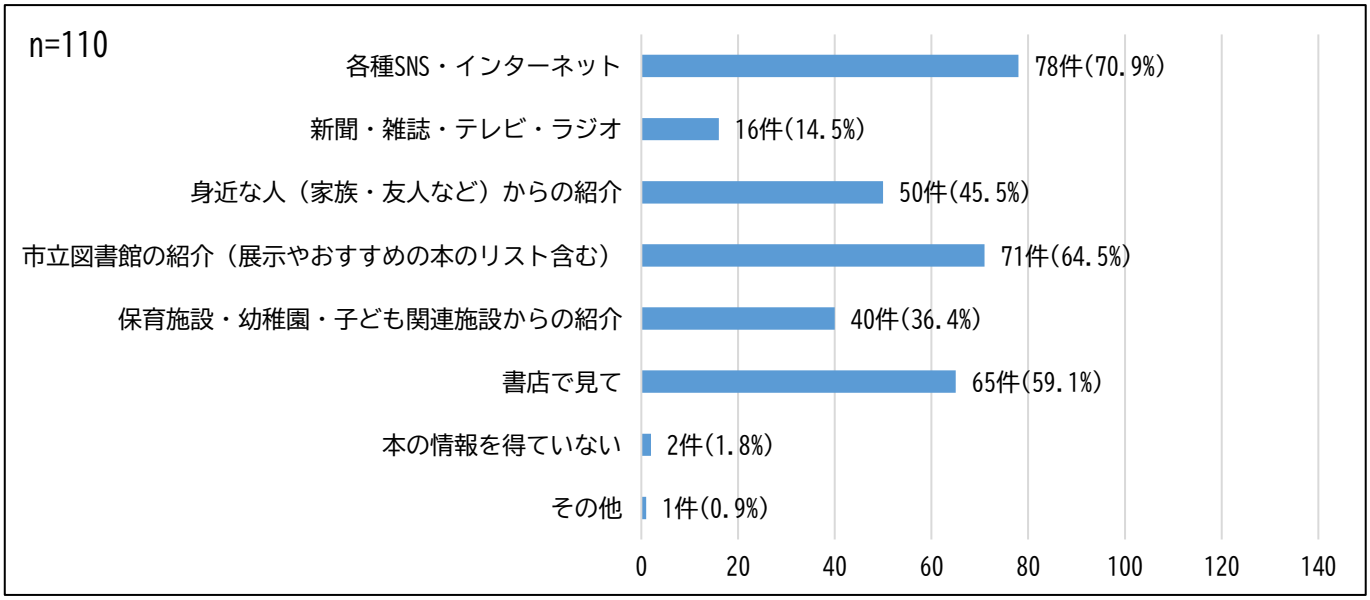
その他（自由記述）

・本を読むのに最適なスペースがある(机、椅子など)

Q10　市立図書館にあるだれでも利用できる資料の中で、知っているものを選んでください。（いくつでも）



Q11 子ども向けの本の情報をどこから得ていますか。（いくつでも）



その他（自由記述）

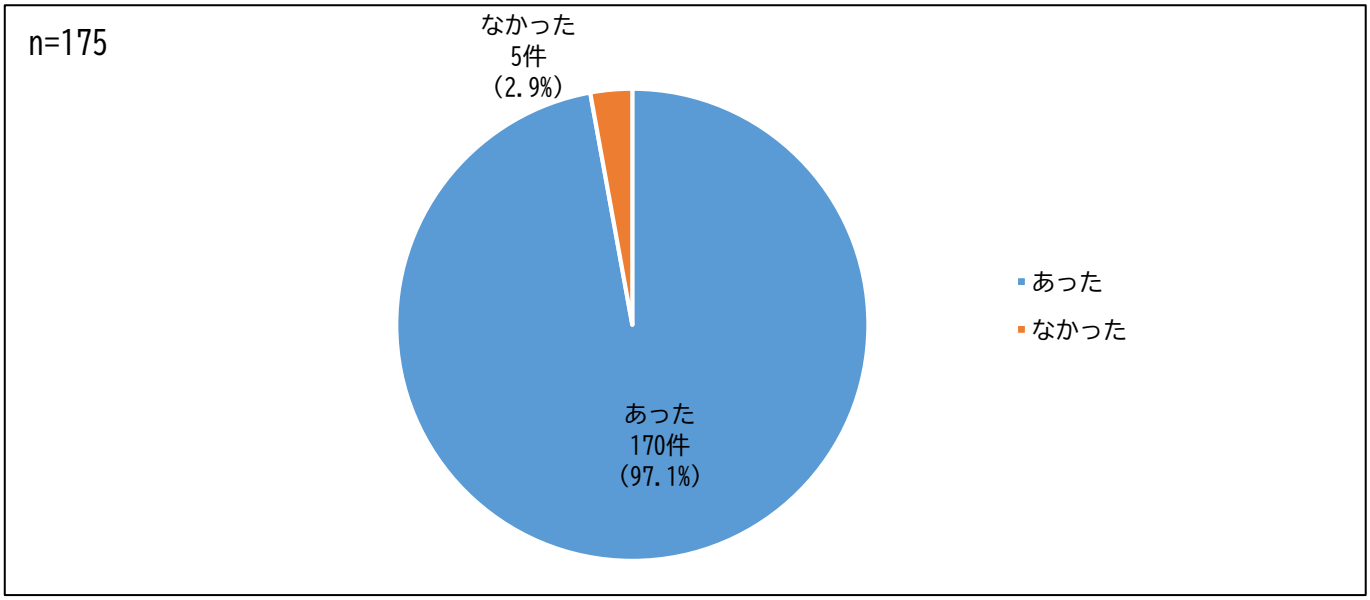
・くもんの推薦図書

令和７年度　子どもの読書活動についてのアンケート集計結果（幼児）

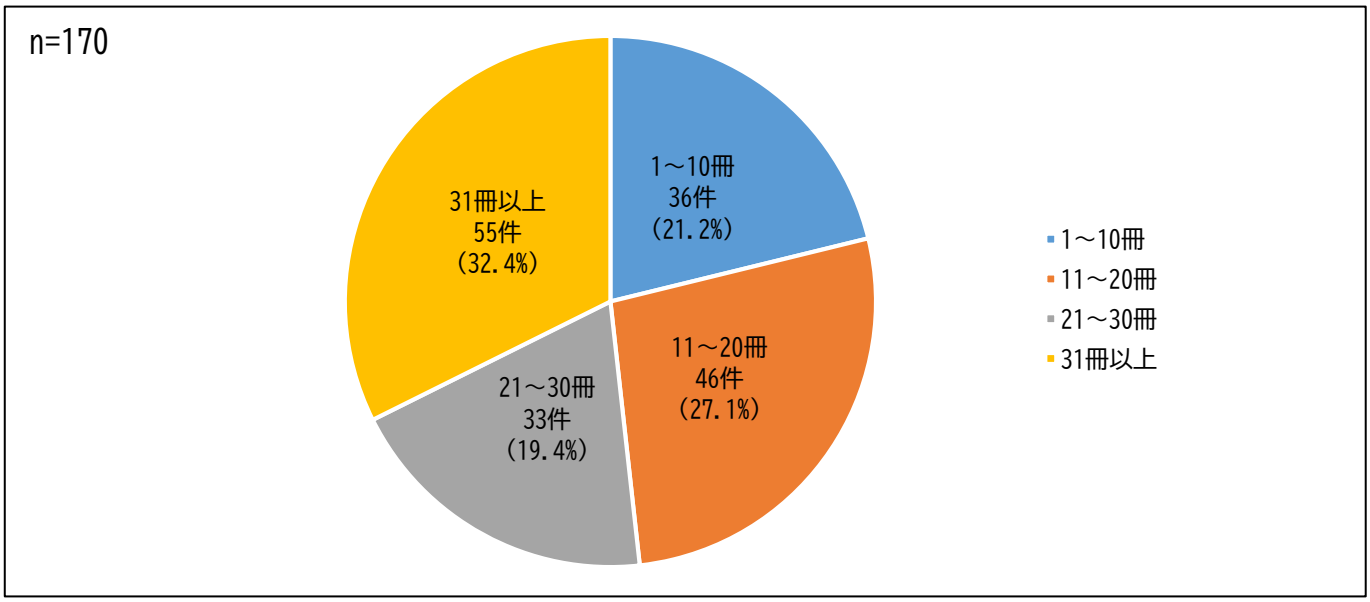
Q1　お子さんの年齢を選んでください。
※乳幼児のお子さんが複数いらっしゃる方は、どなたかお一人についての回答をお願いします。

幼児　175 人（配布部数　乳児含め 1,261 人）　回答率 13.8%

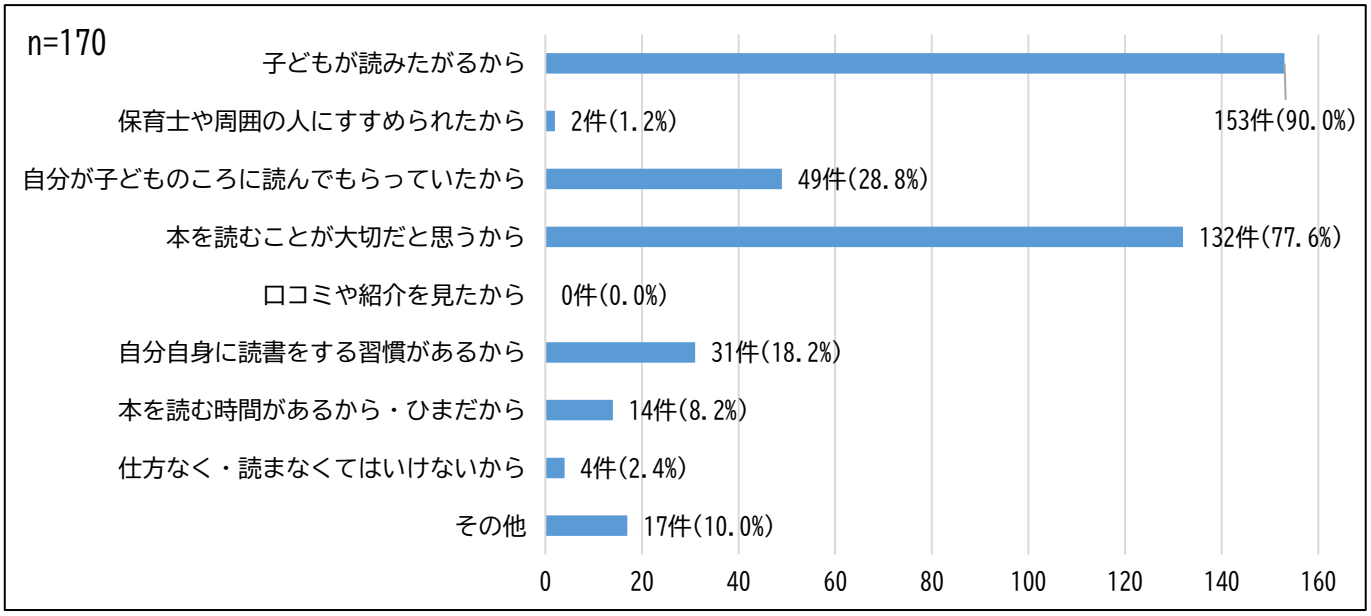
Q2　この１か月に、お子さんといっしょに本を読む機会はありましたか。



Q3　Q2 で「この１か月に、お子さんといっしょに本を読む機会があった」を選んだ方にお聞きします。
お子さんが読んだ本は、この１か月に何冊ありますか。
※同じ本を何度も読んだ場合は、読んだ回数を冊数としてカウントしてください。



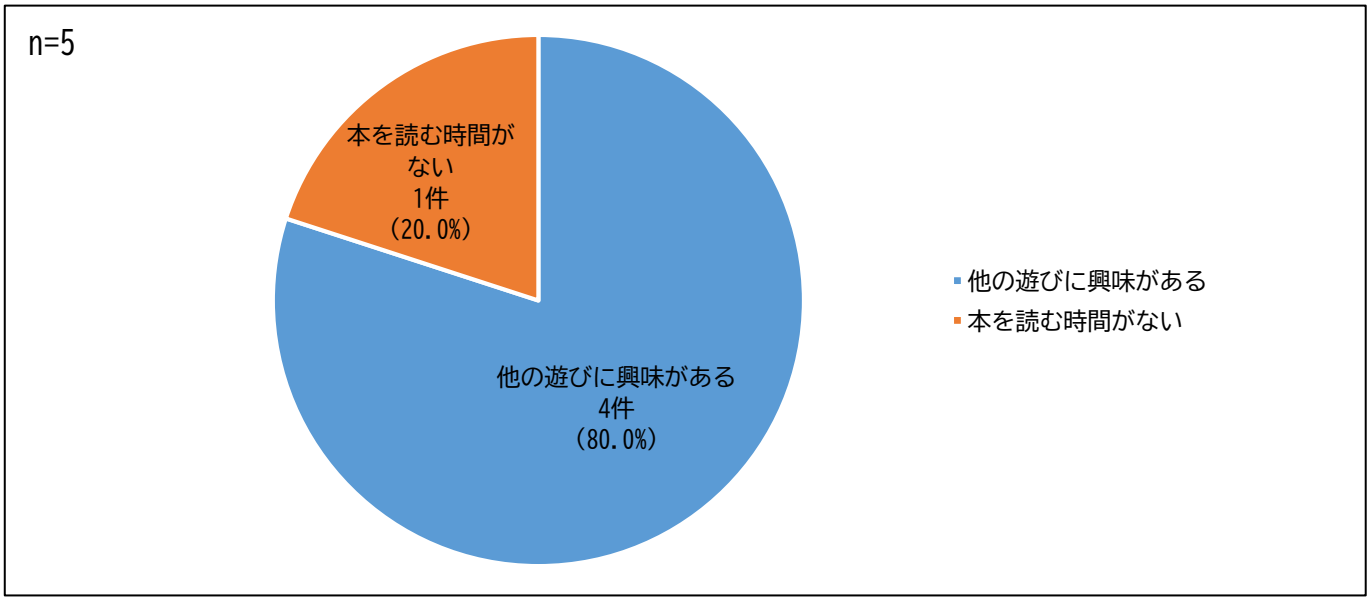
Q4　Q2 で「この 1 か月に、お子さんといっしょに本を読む機会があった」を選んだ人にお聞きします。
お子さんと一緒に本を読むのはなぜですか。（最大３つまで）



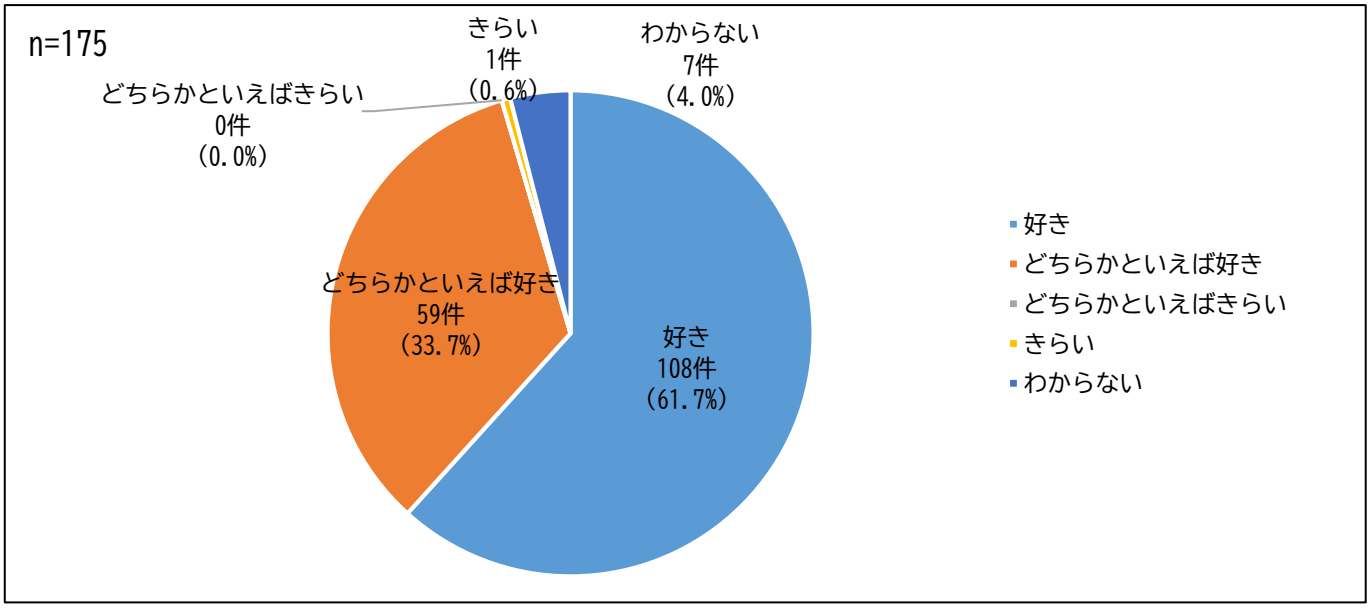
その他（自由記述）

・夜寝る前に読む　11 件
・絵本を読まないと寝ないから
・部屋での遊びのネタが尽きたから
・本を読むのが好きだから
・新しい言葉や新しいものを見たり覚えたりできるから
・コミュニケーションの一環として
・発達が遅いため、少しでも言葉や文を覚えてほしい、知らないものに触れてほしいから

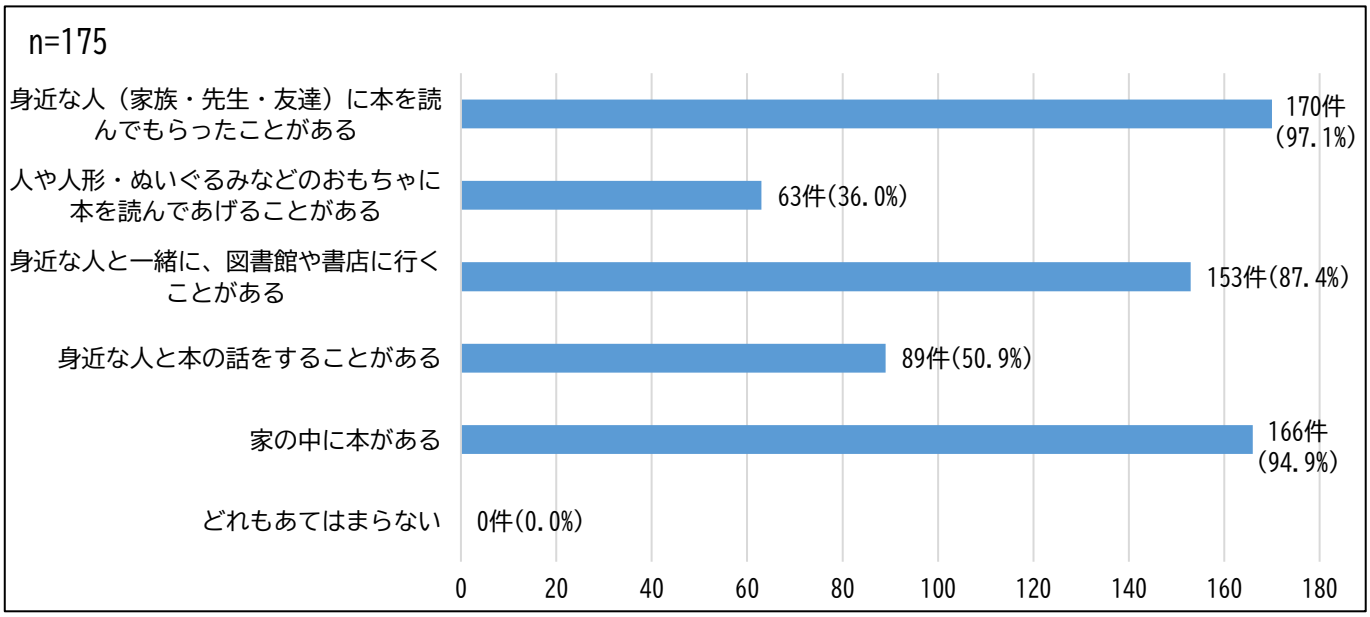
Q5　Q2 で「この 1 か月に、お子さんといっしょに本を読む機会がなかった」を選んだ人にお聞きします。
本を読まないのはなぜですか。最も大きい理由を 1 つ選んでください。



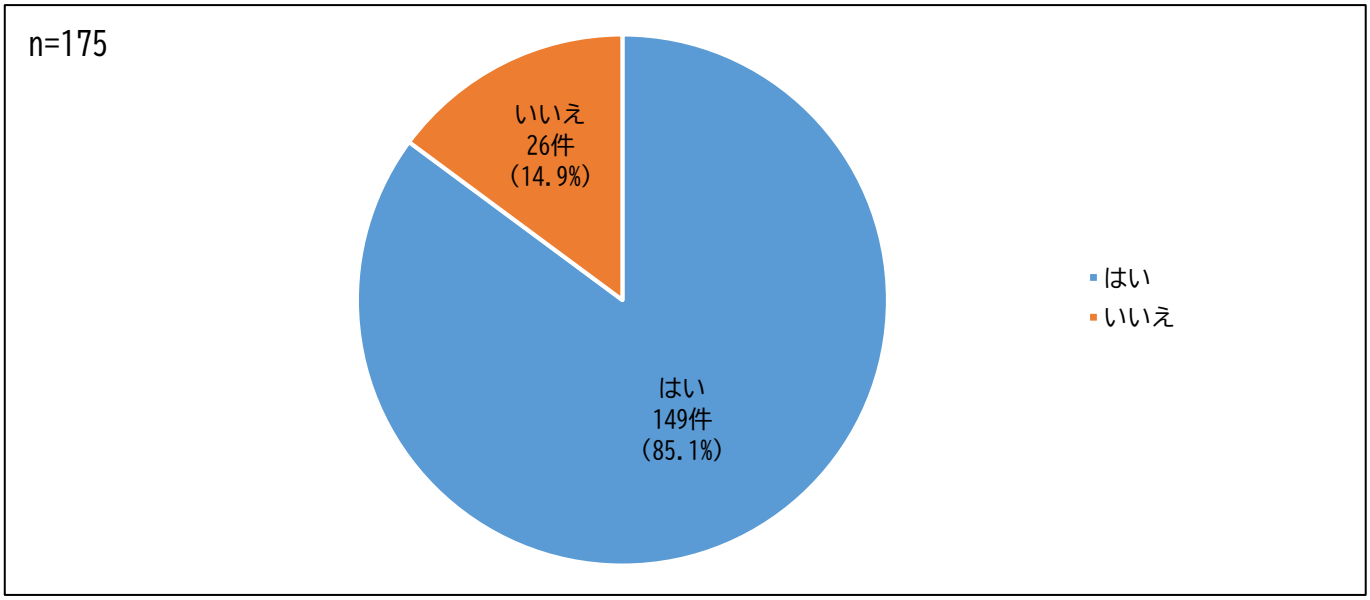
Q6　お子さんは本を読むことは好きですか。



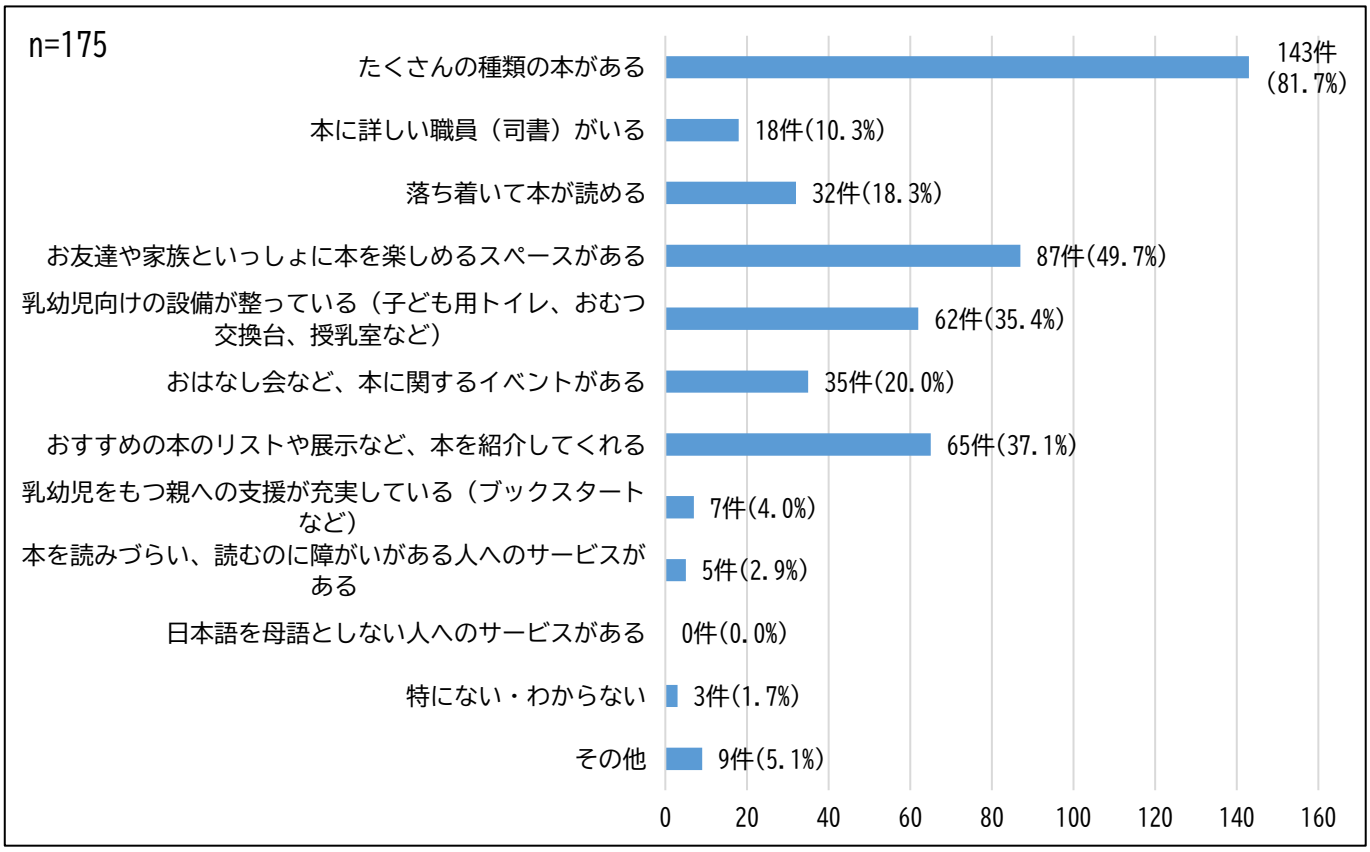
Q7　お子さんについて、あてはまるものを選んでください。(いくつでも)



Q8　お子さんは、4 月から今までの間に、市立図書館を利用しましたか。



Q9　市立図書館に大事だと思うものは何ですか。
特に大事だと思うものを、最大 3 つまで選んでください。

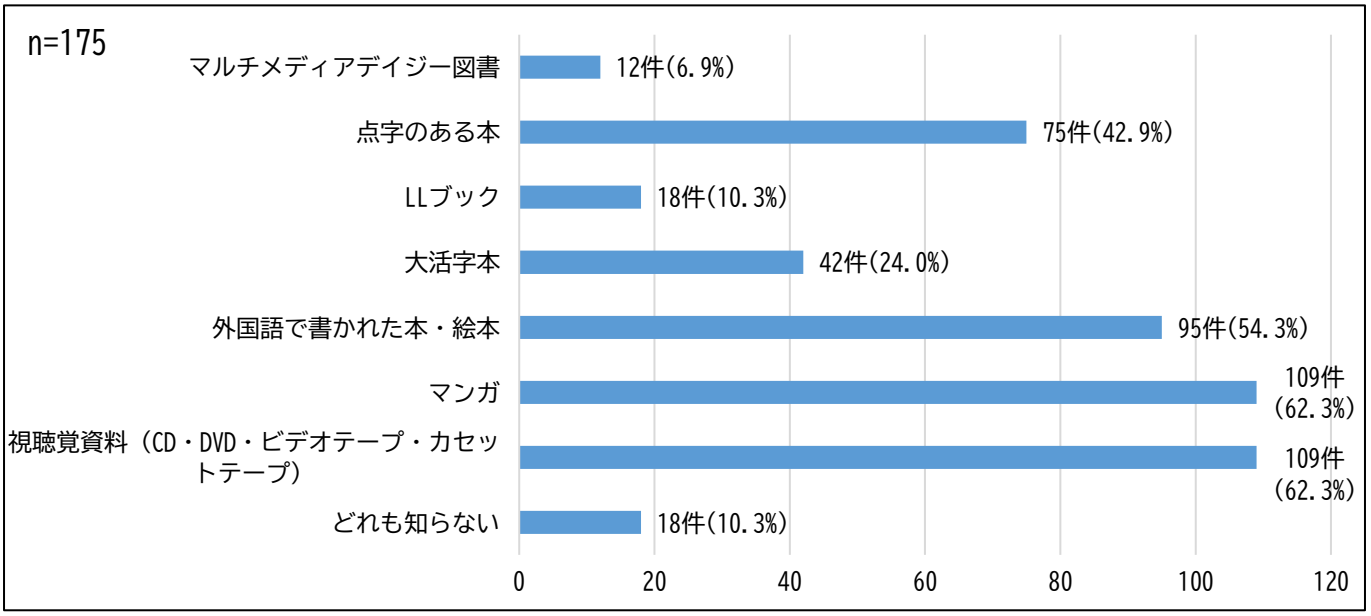


その他（自由記述）

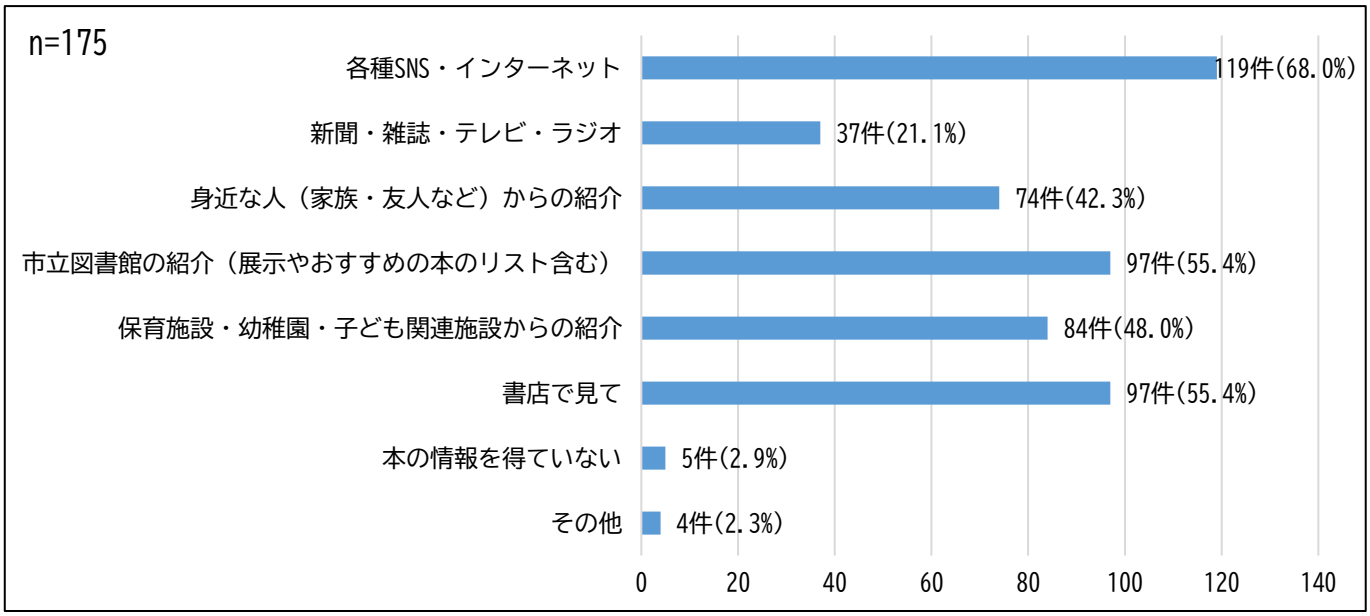
・私は図書館に行ったことないから、本の事はあまりわからない
・ベビーカーや抱っこ、大荷物を持っていても行きやすい

・明るい雰囲気や新しい本がある
・本が探しやすい、選びやすいこと
・障害児が、他の利用者の迷惑にならず、色々な本に安心して触れる事が出来る環境
・本の予約や取り寄せがしやすく、スムーズに借りられる
・いきやすいところにある
・テーマごとの分類？がわかりやすくされていること。まだあまり字を読めない子供にとって、好きそうな本が固まって置いてあるコーナーがあると、本を探しながら楽しめる。例えば、絵本でも「乗り物」や「ちしきえほん」など。過去に住んでいた自治体の図書館は広かったけどあいうえお順でしか分類されておらず、子供はうまく探せていなかったと思う。
・子どもが図書館に行きたい、図書館は楽しい場所と思えるものがある（我が子は中央図書館のジローのぬいぐるみや図書館のペーパー人形、奥の部屋のおもちゃが好きです）、障害があって騒いでしまっても良い時間帯・場所があるとありがたい

Q10　市立図書館にあるだれでも利用できる資料の中で、知っているものを選んでください。（いくつでも）



Q11 子ども向けの本の情報をどこから得ていますか。（いくつでも）



その他（自由記述）

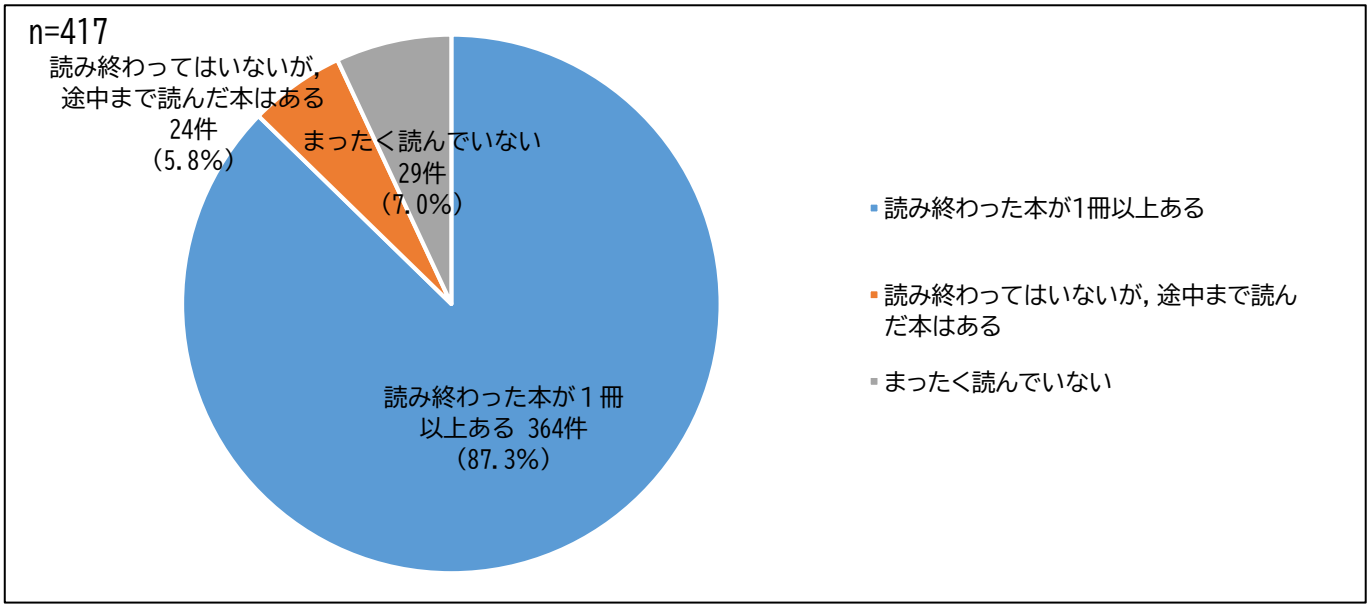
・えほん見るしかまた興味持ってないんです
・子供が保育園や図書館で読んでもらった絵本
・読書アプリなど。調布市は昔ながらの名作絵本は多いが新しい絵本は少ないので、SNS やアプリで紹介されていて気になった絵本が置いていなくて困っている。
・自分が子供の時に読んでいた本の記憶･図書館でジャケ借り

令和７年度　子どもの読書活動についてのアンケート集計結果（小学１年生）

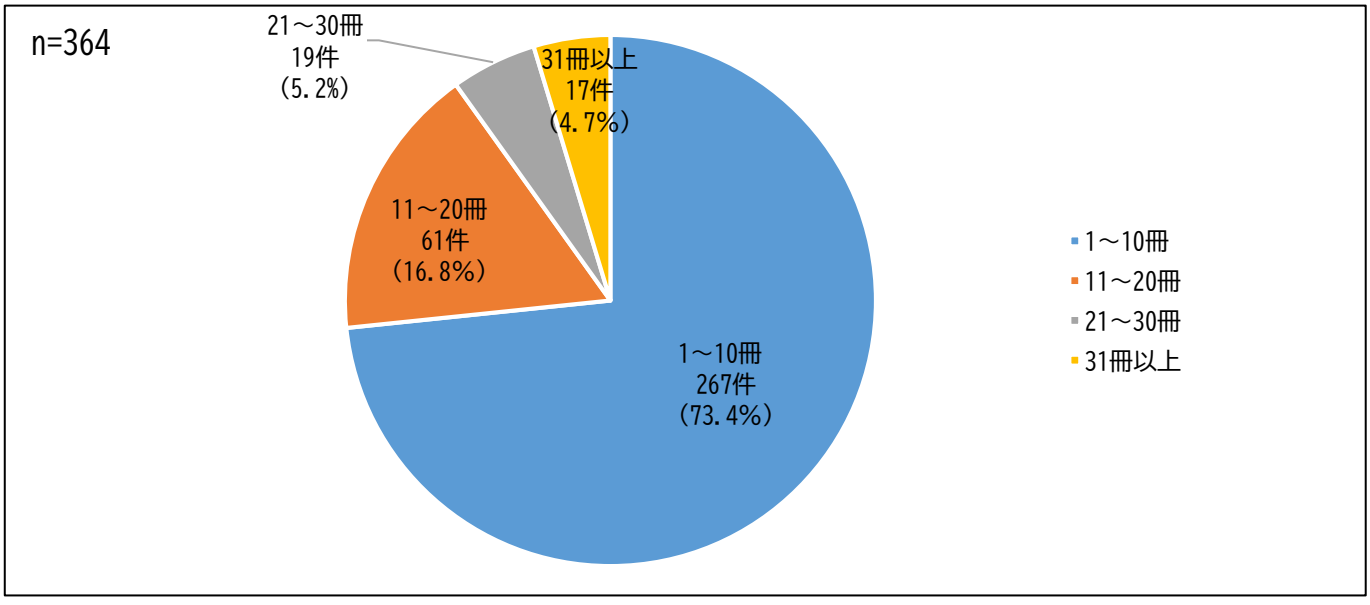
Q1　このフォームは、小学１年生のお子さんを対象にしています。
お子さんの意見を聞き取りながら回答いただくようお願いいたします。
※同じ学年に複数のお子さんがいらっしゃる方は、恐れ入りますが、それぞれ別の端末からご回答いただくか、図書館までお知らせください。

小学１年生　417人（調査対象児童数　2,089人）　回答率　19.9%

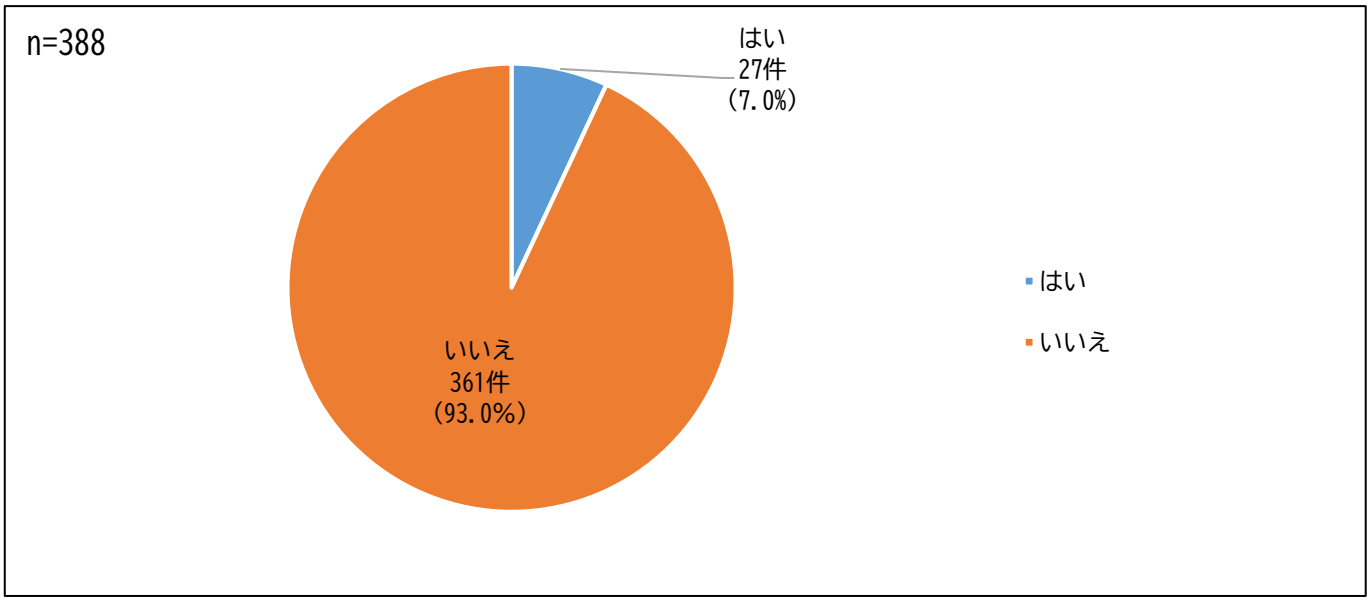
Q2　お子さんはこの１か月に本を読みましたか。
※雑誌・新聞・マンガ・電子書籍を含みます。
※授業の中で読んだ本・教科書・参考書は含みません。



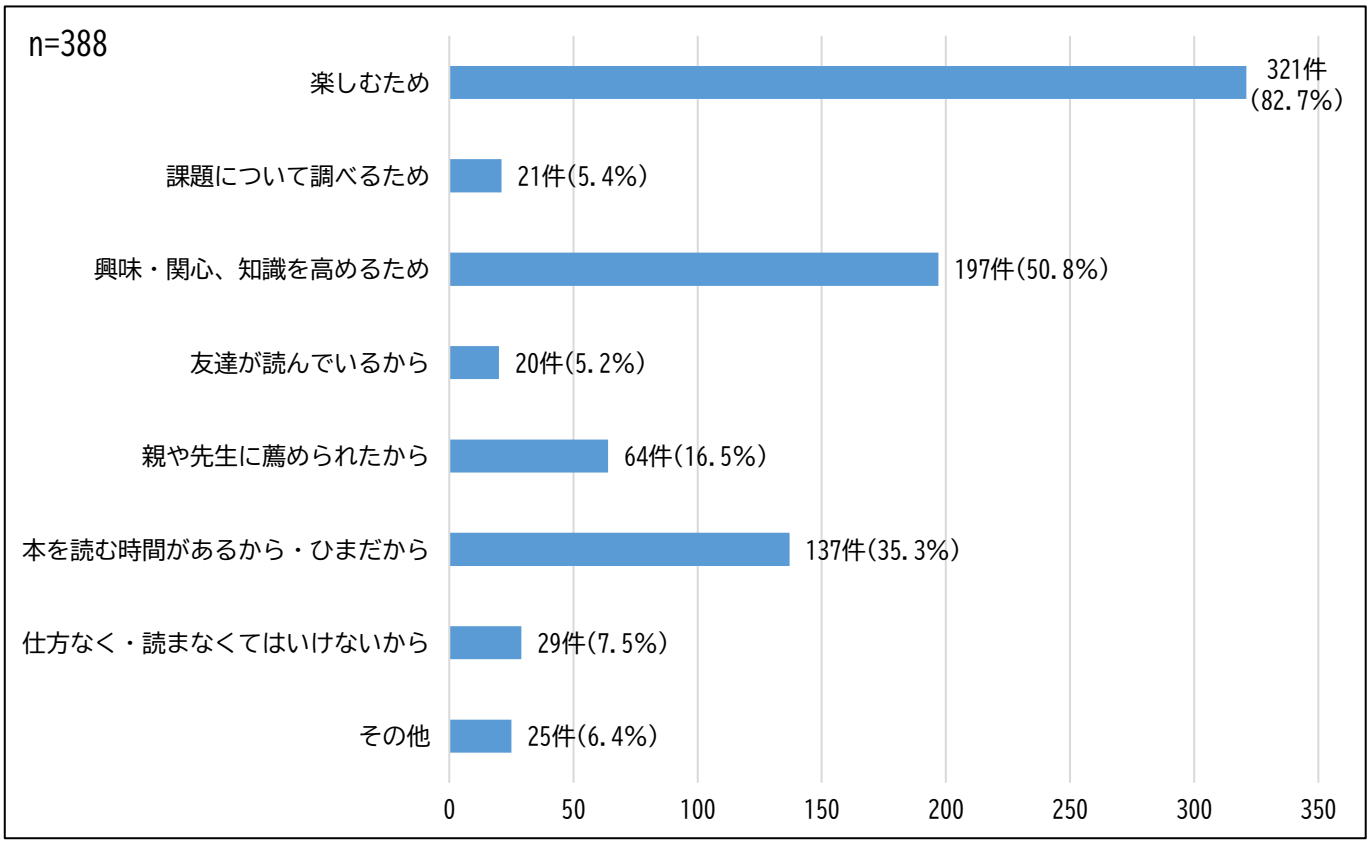
Q3　Q2で「読み終わった本が１冊以上ある」を選んだ方にお聞きします。
お子さんが読み終わった本は、この１か月に何冊ありますか。
※読みかけの本は数えません。



Q4　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はある」を選んだ人にお聞きします。読んだ本の中に電子書籍はありますか。



Q5　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はある」を選んだ人にお聞きします。
お子さんが本を読むのはなぜですか。（いくつでも）

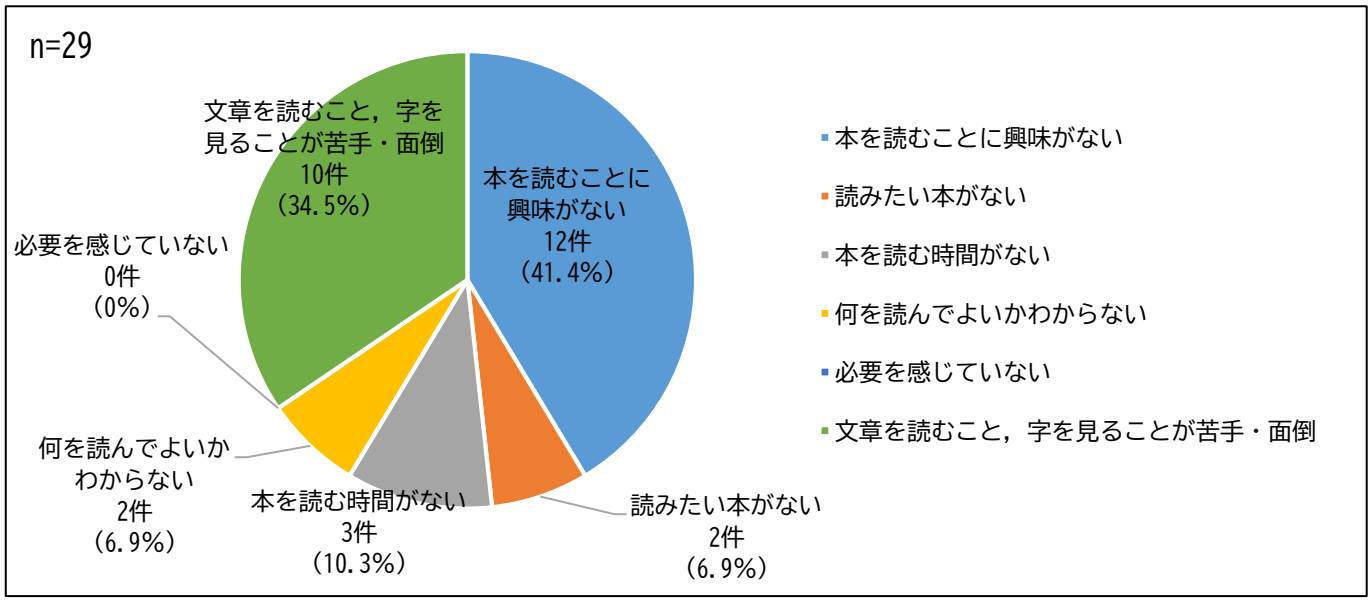


その他（自由記述）

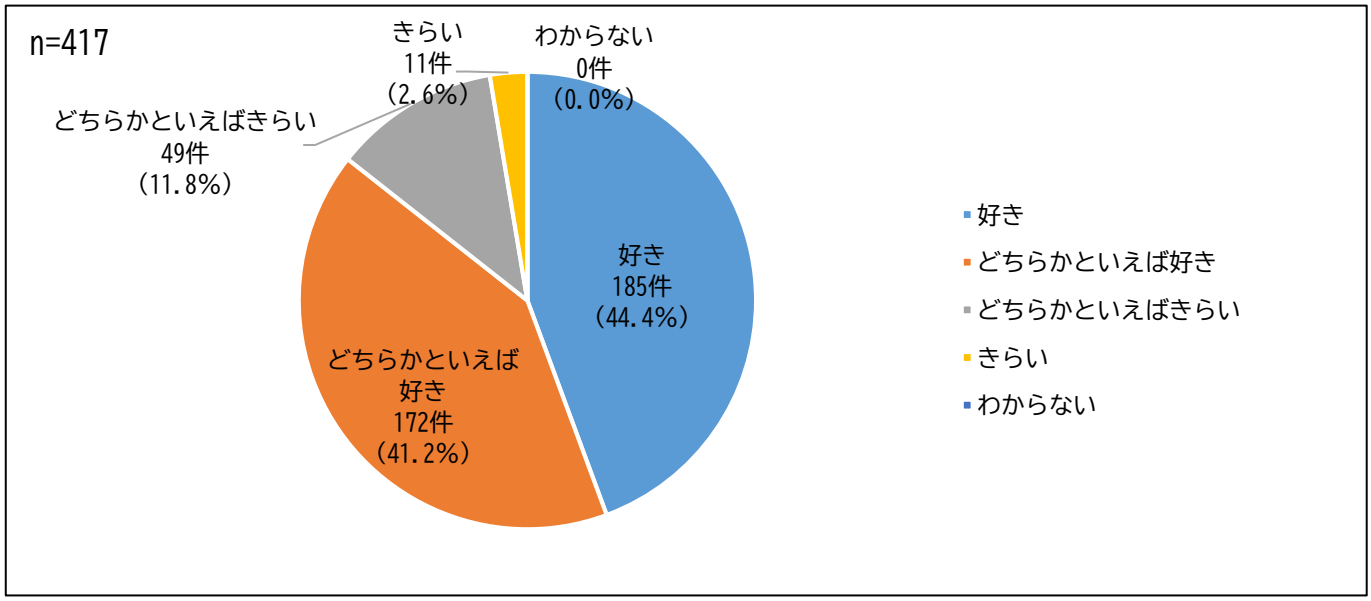
・学校の図書の時間に借りた本を家で読むことになっているから　5 件

・寝る前に本を読んでもらうのが好きだから　5 件
・読むのが楽しいから　4 件
・学校の宿題だったから　4 件
・母親に読み聞かせをしてほしいから　2 件
・読書カードに書きたいから
・兄が読んでいるから
・折り紙の本を見ながら折り紙を折るため
・文字を読むことに慣れてほしいので進めている

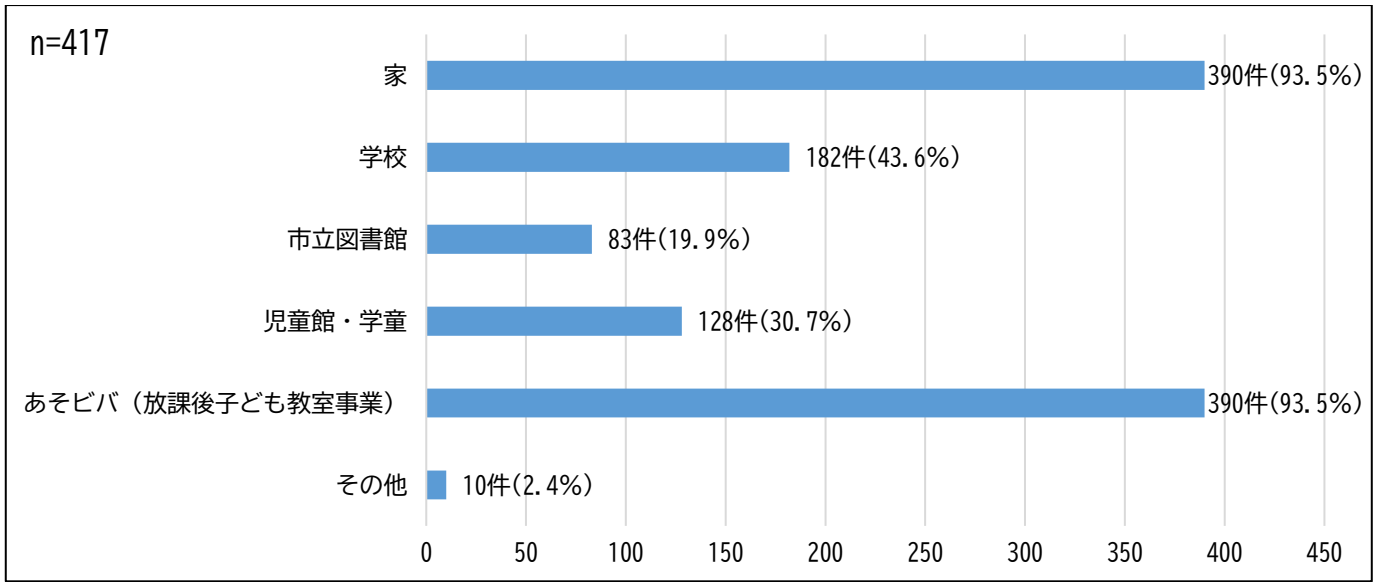
Q6　Q2 で「まったく読んでいない」を選んだ人にお聞きします。
本を読まないのはなぜですか。最も大きい理由を 1 つ選んでください。



Q7　お子さんは本を読むことは好きですか。



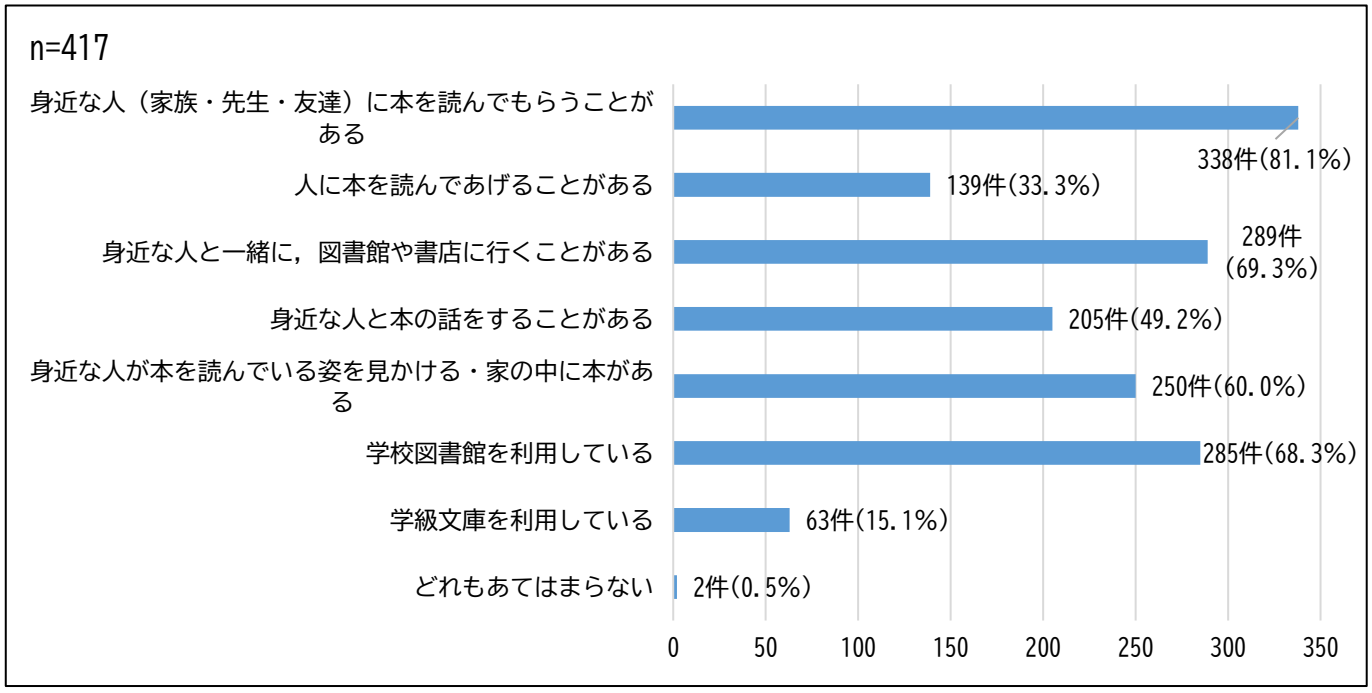
Q8　お子さんは、普段どこで本を読んでいますか。（いくつでも）



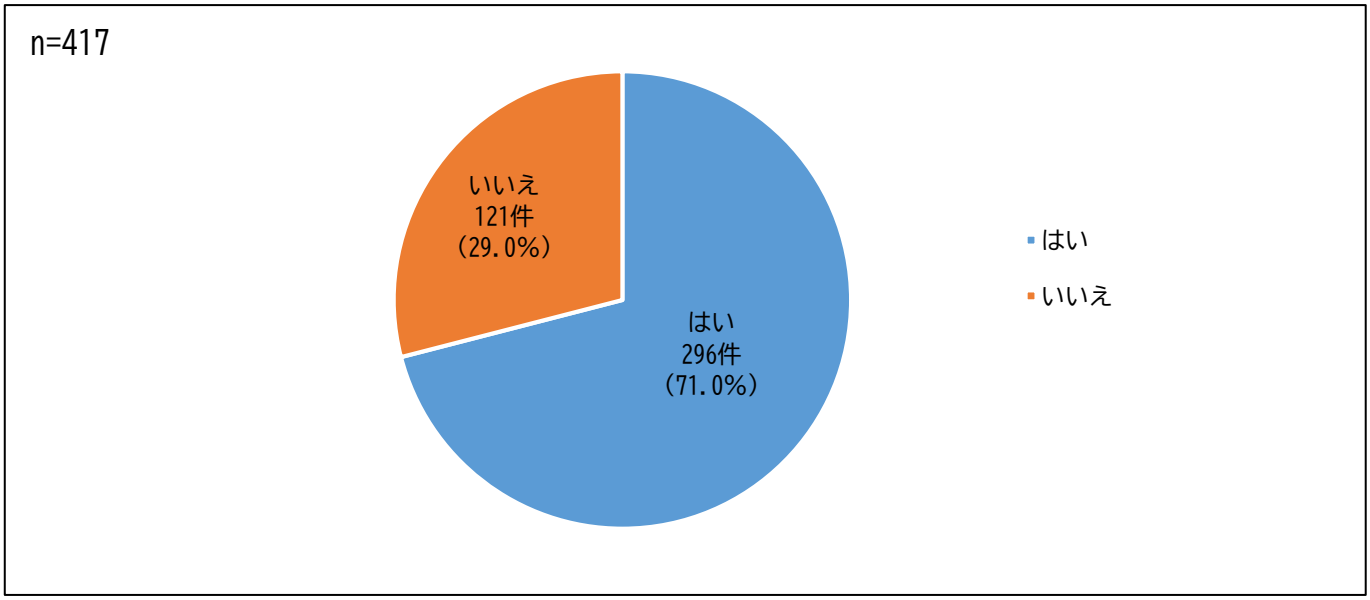
その他（自由記述）

・待ち時間　3 件
・移動時間　5 件
・お店　2 件

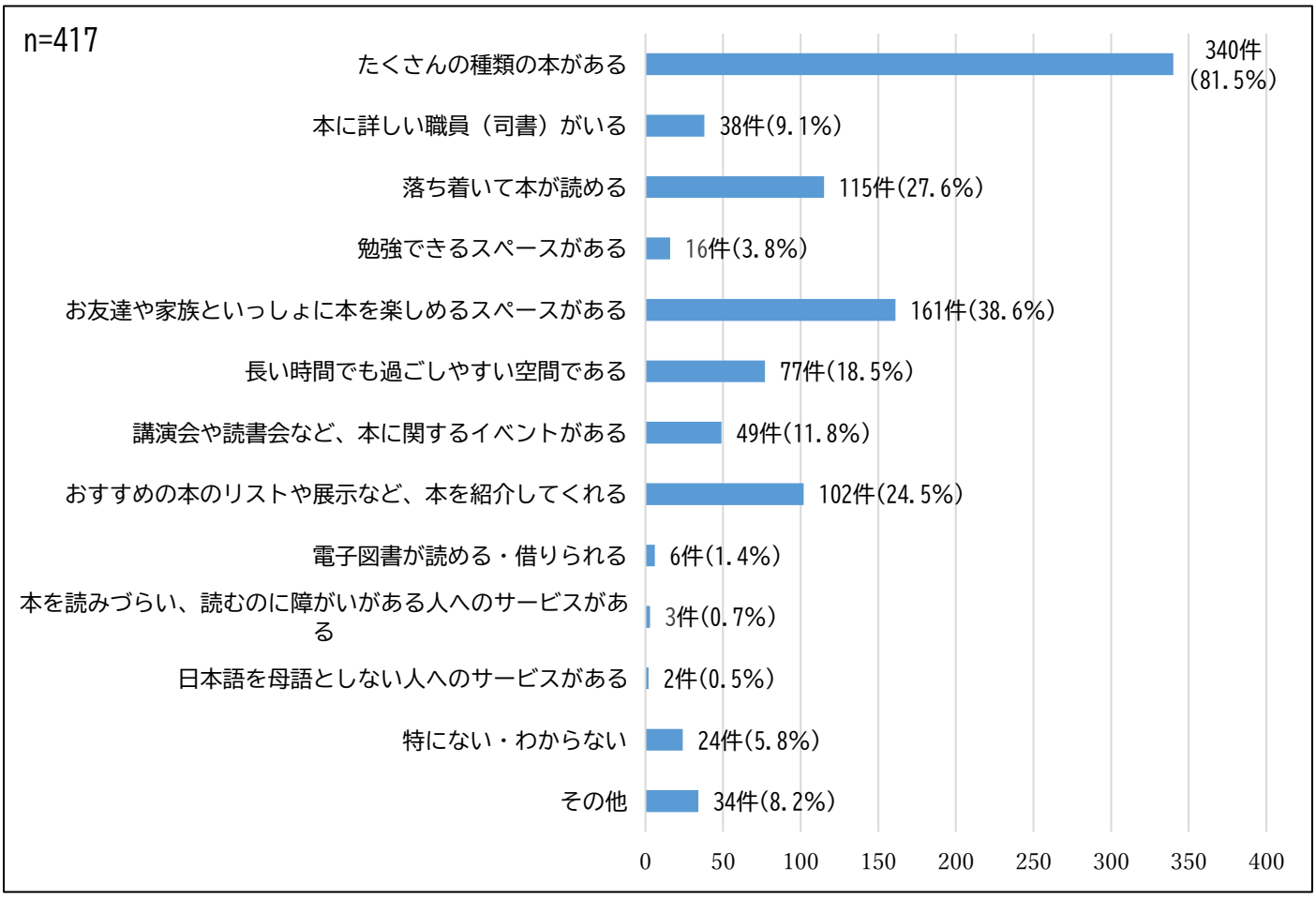
Q9　お子さんについて、あてはまるものを選んでください。（いくつでも）



Q10　お子さんは、4 月から今までの間に、市立図書館を利用しましたか。



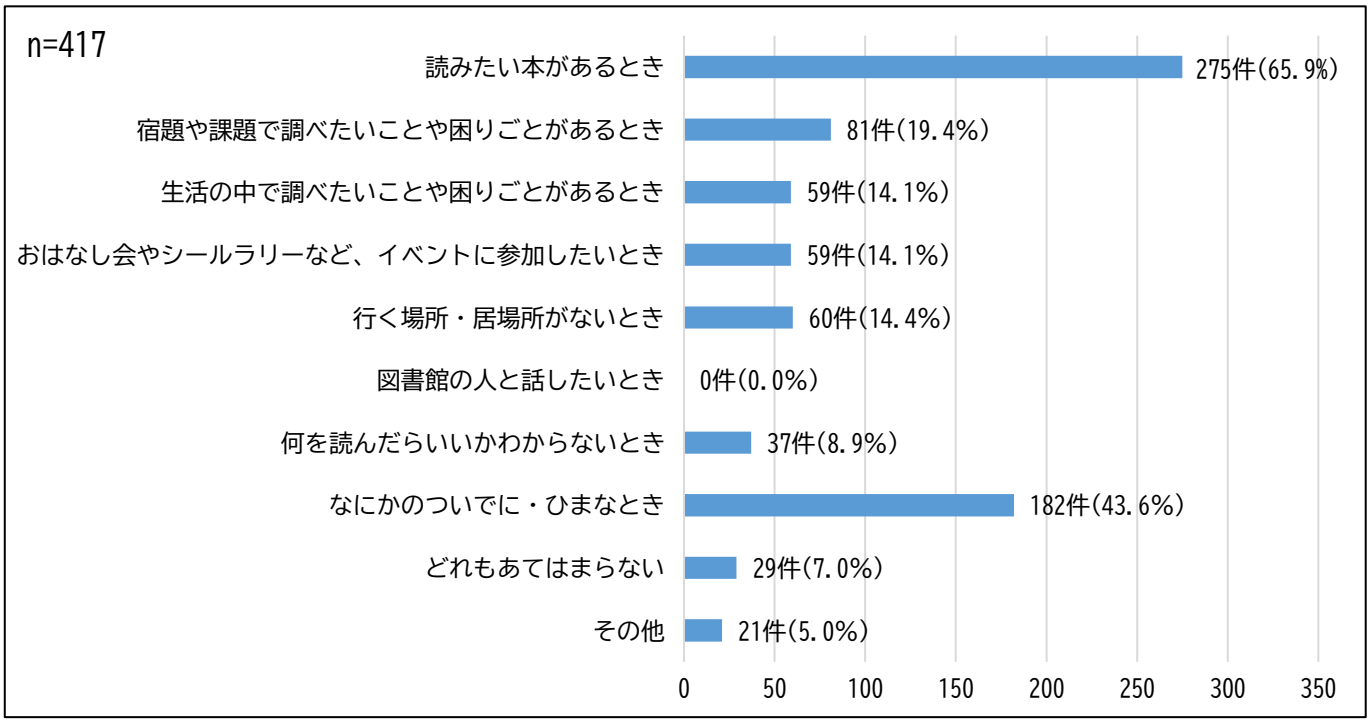
Q11　お子さんが、市立図書館に大事だと思うものは何ですか。特に大事だと思うものを、最大 3 つまで選んでください。



その他（自由記述）

・1 人で目的の本が探しやすい環境　2 件
・本が好きだから　2 件
・居心地が良い　2 件
・図書館の人が優しい
・紙芝居がある
・紙芝居が沢山あり、読む場所がある。中央図書館の紙芝居 box は最高です。
・夕方の時間帯も空いている
・パソコンで検索できる
・新しい本がある
・本が探しやすくなるといい。たくさんあるが、どれを読んでいいか、棚に入っているものは多すぎて、興味のある本を見つけるのに苦労し、どれを読むか決められないようです。

Q12　お子さんが、市立図書館を使いたいと思うのはどんな時ですか。（いくつでも）

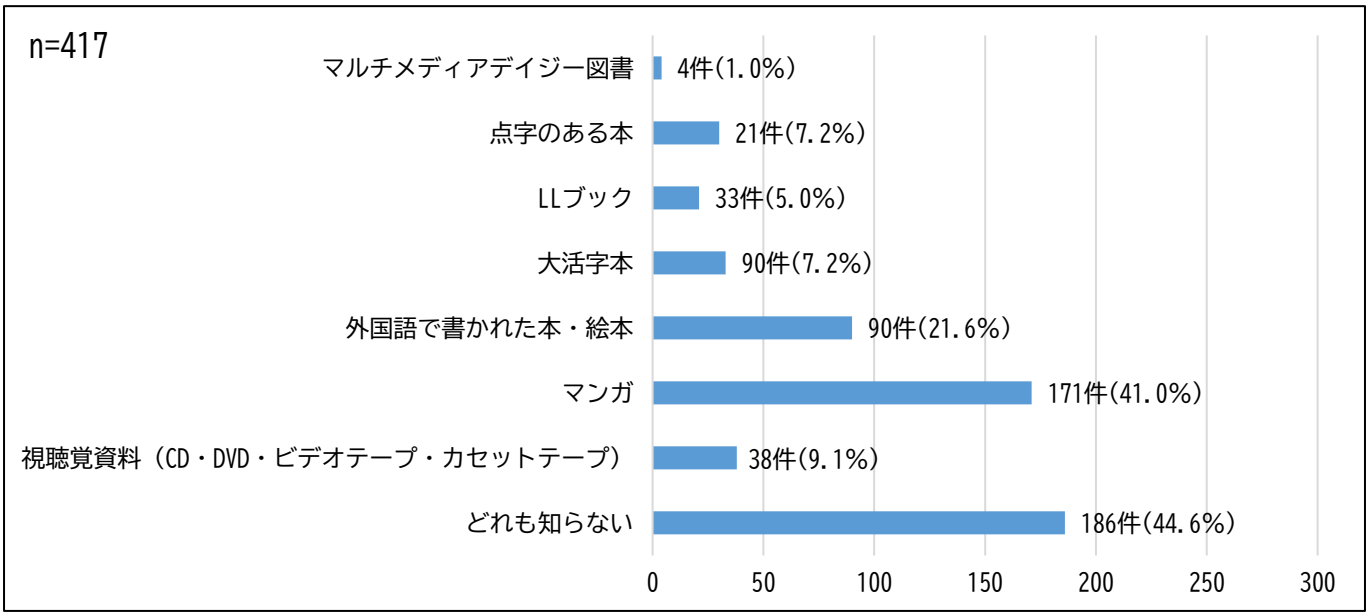


その他（自由記述）

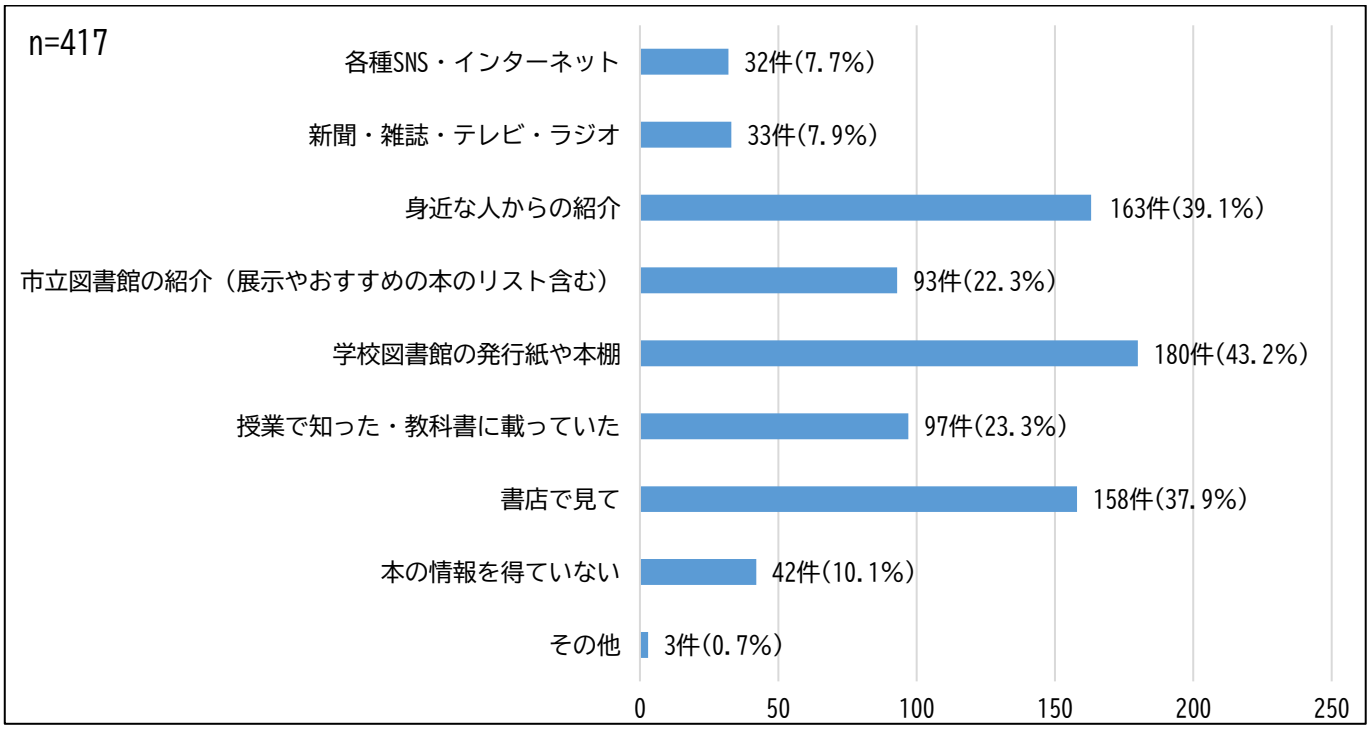
・読みたい本を探すため　4 件
・2 週間ごと、図書館へ行くことを習慣としているため　4 件
・家族が行くから　4 件
・予定のない日　2 件
・本が読みたいとき
・本が好きだから
・落ち着きたい時
・夏休み中に本を読まなければいけないから
・図鑑は同じシリーズの一つ前のバージョンがあり、本屋では買えないのでありがたいです

・気になる本は全て購入するため図書館に行くことがない。
・図書館へ一緒に行く時間がなかなか無く、本は好きだけど本屋に行ったり、定期購読している

Q13　市立図書館にあるだれでも利用できる資料の中で、お子さんが知っているものを選んでください。（いくつでも）



Q14　お子さんは、本の情報をどこから得ていますか。（いくつでも）
※調査方法に不備があったため、Q14 は参考値とします。



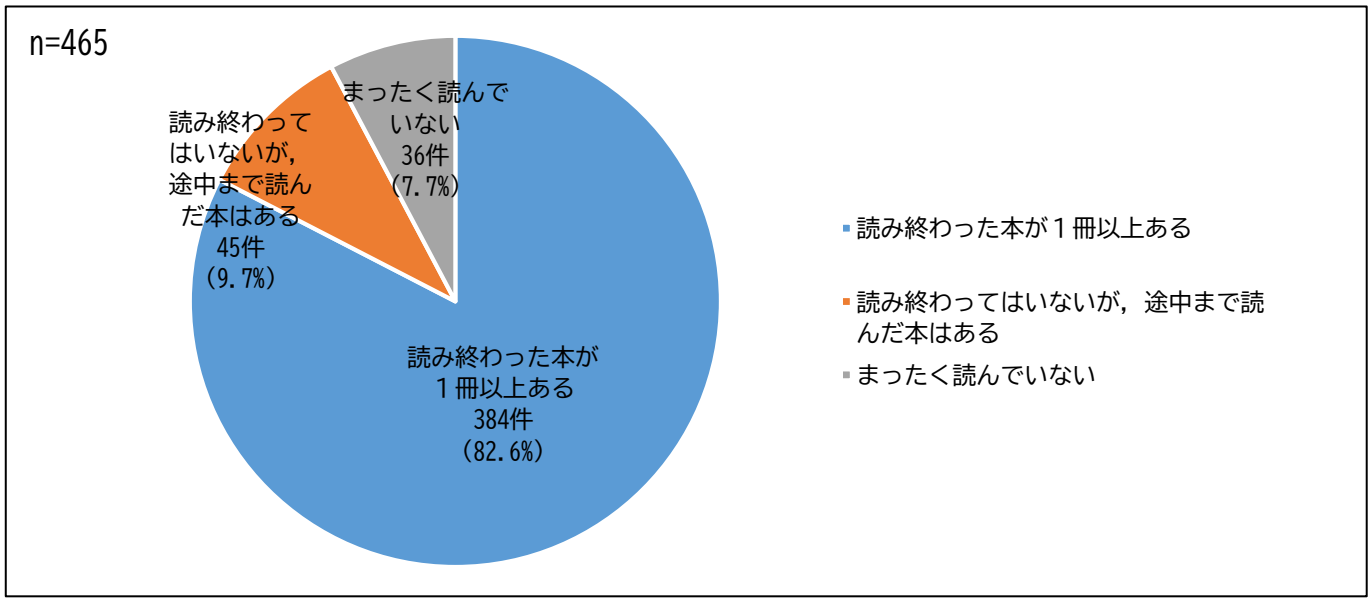
その他（自由記述）　なし

令和７年度　子どもの読書活動についてのアンケート集計結果（小学３年生）

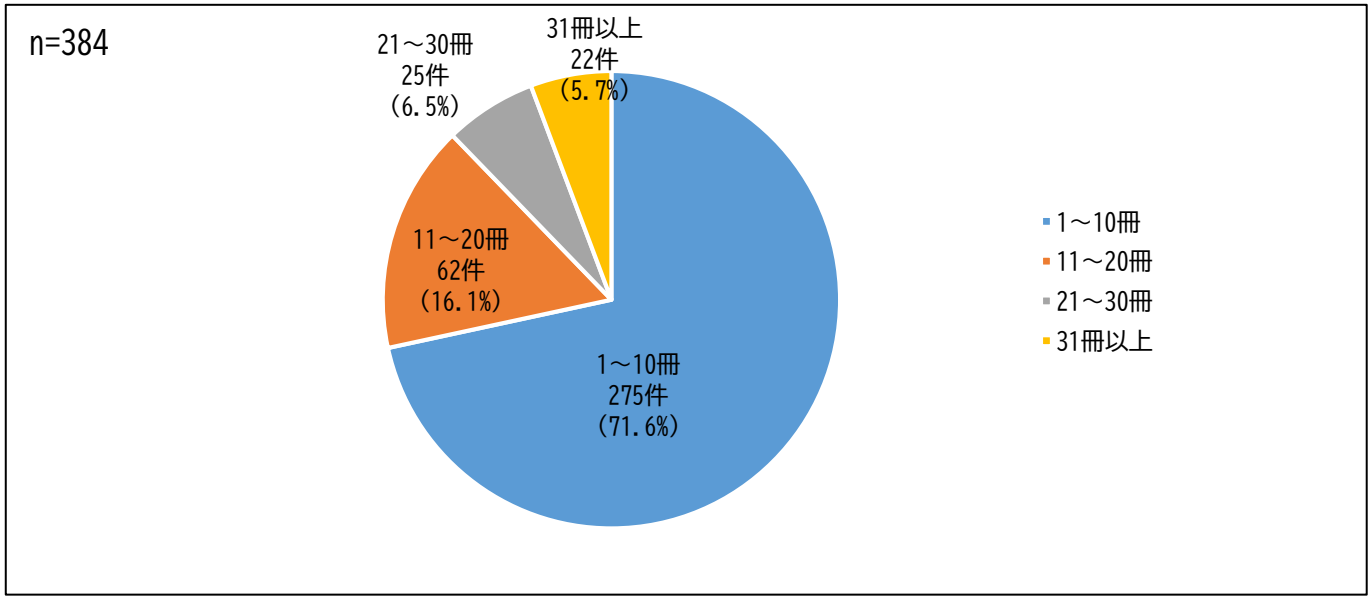
Q1　このフォームは、小学３年生のお子さんを対象にしています。
お子さんの意見を聞き取りながら回答いただくようお願いいたします。
※同じ学年に複数のお子さんがいらっしゃる方は、恐れ入りますが、それぞれ別の端末からご回答いただくか、図書館までお知らせください。

小学３年生　465 人（調査対象児童数　2,293 人）　回答率　20.2%

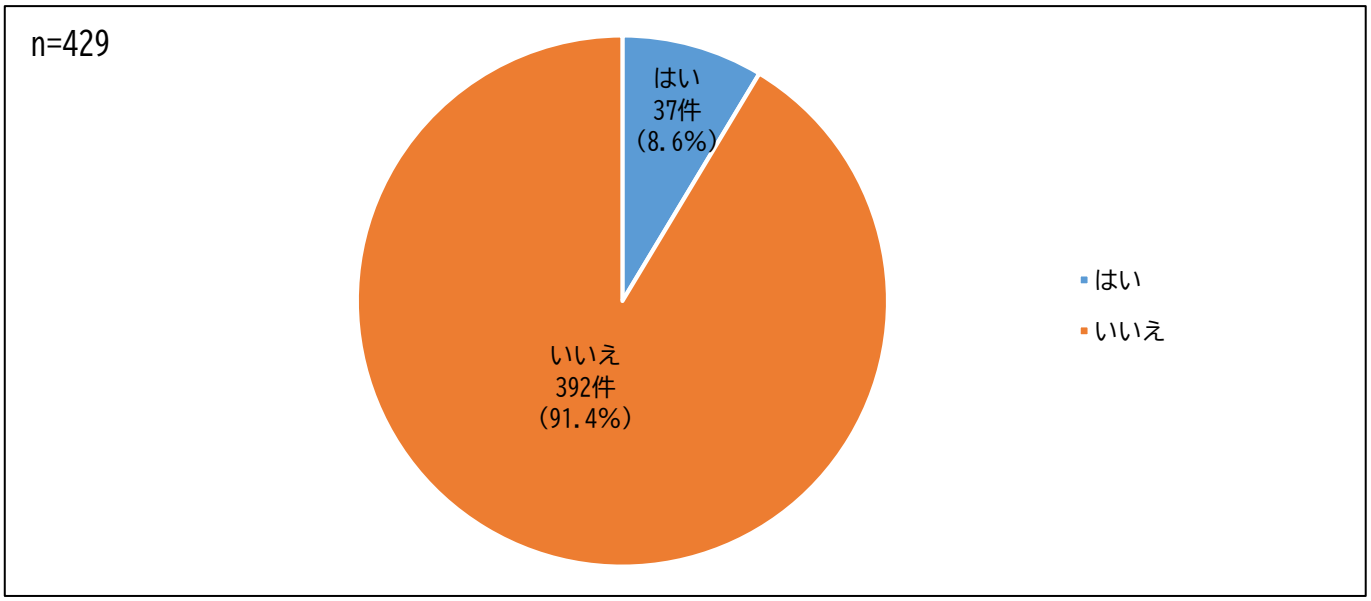
Q2　お子さんはこの１か月に本を読みましたか。
※雑誌・新聞・マンガ・電子書籍を含みます。
※授業の中で読んだ本・教科書・参考書は含みません。



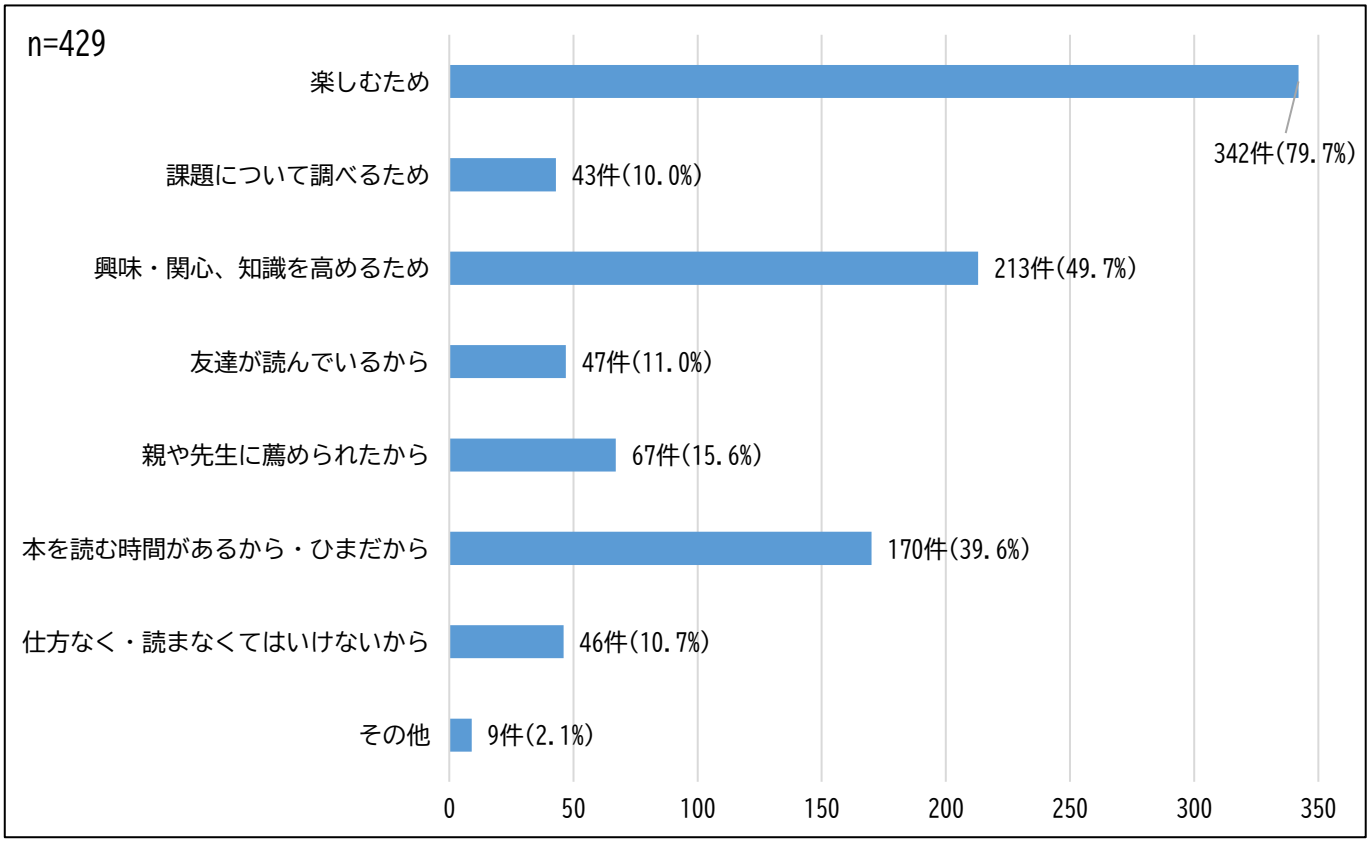
Q3　Q2 で「読み終わった本が１冊以上ある」を選んだ方にお聞きします。
お子さんが読み終わった本は、この１か月に何冊ありますか。
※読みかけの本は数えません。



Q4　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はる」を選んだ人にお聞きします。読んだ本の中に電子書籍はありますか。



Q5　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はある」を選んだ人にお聞きします。
お子さんが本を読むのはなぜですか。(いくつでも)

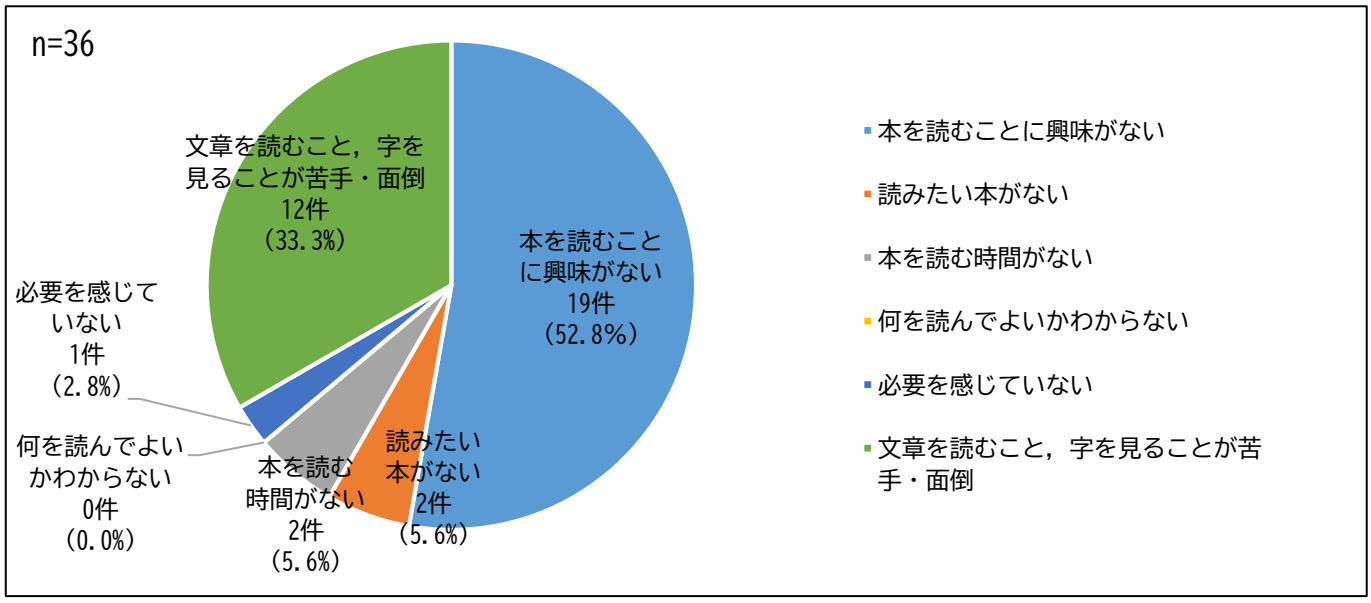


その他（自由記述）

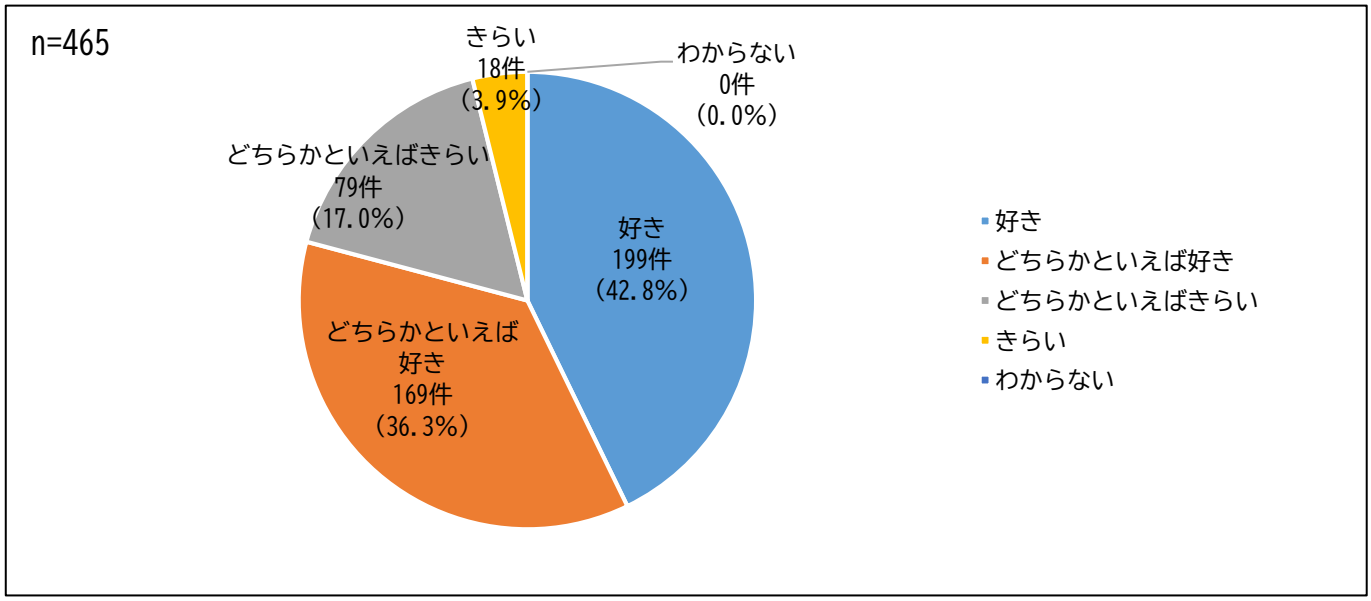
・夏休みの宿題でたくさん本を読む必要があったから　2 件

・本を読む事が好きだから
・図書館で借りたから
・本が身近にあるから
・図書の授業で借りてきたから
・国語の文章を読むのが苦手だから、頑張りたい
・学校で読んだ本の冊数を記録しているので、それを伸ばしたいから
・寝る前のルーティーンのため

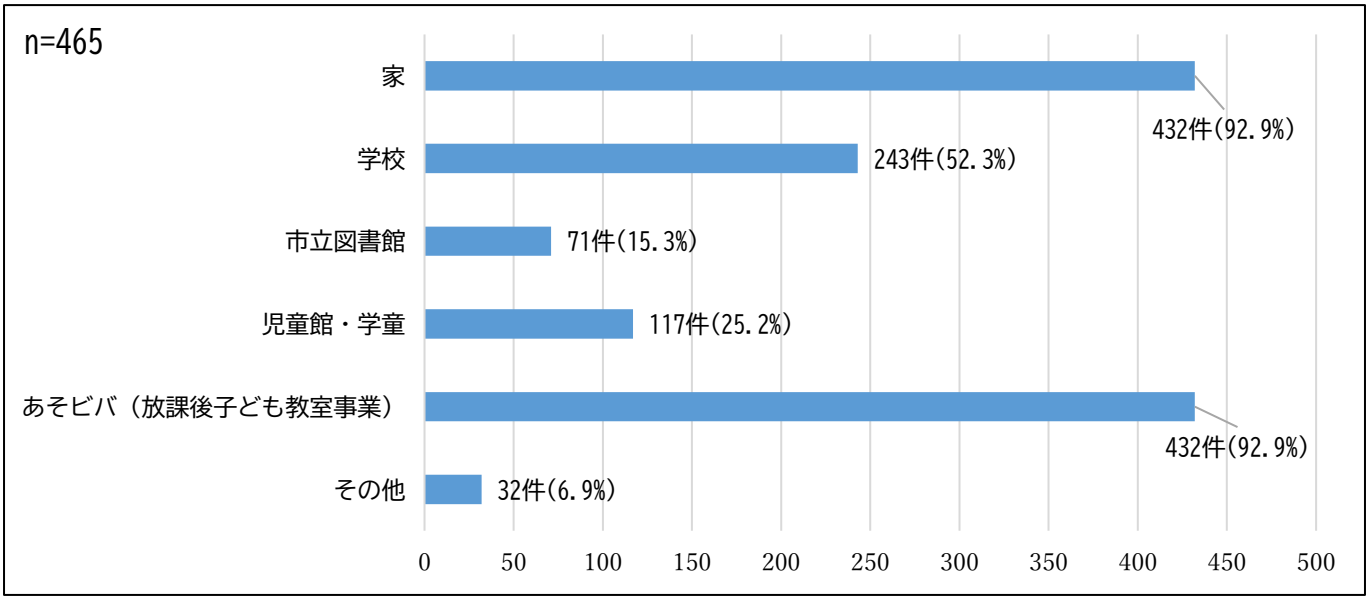
Q6 Q2 で「まったく読んでいない」を選んだ人にお聞きします。
本を読まないのはなぜですか。最も大きい理由を 1 つ選んでください。



Q7　お子さんは本を読むことは好きですか。



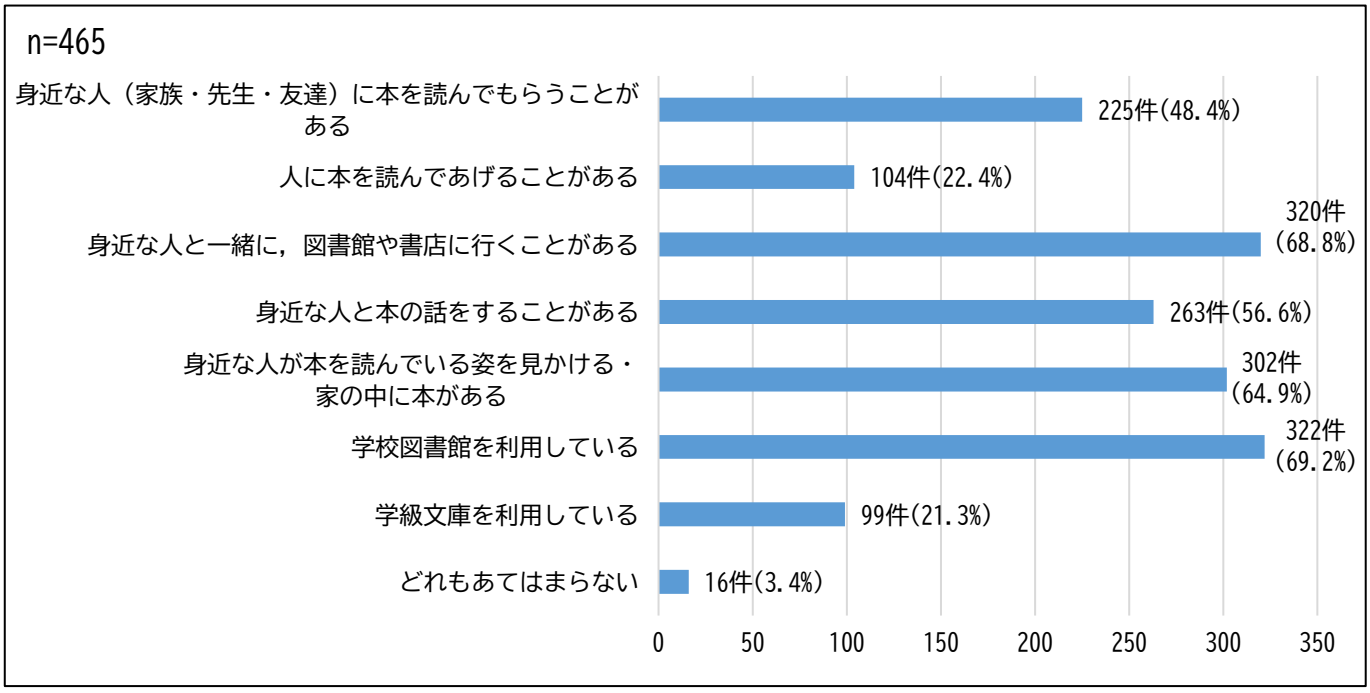
Q8　お子さんは、普段どこで本を読んでいますか。（いくつでも）



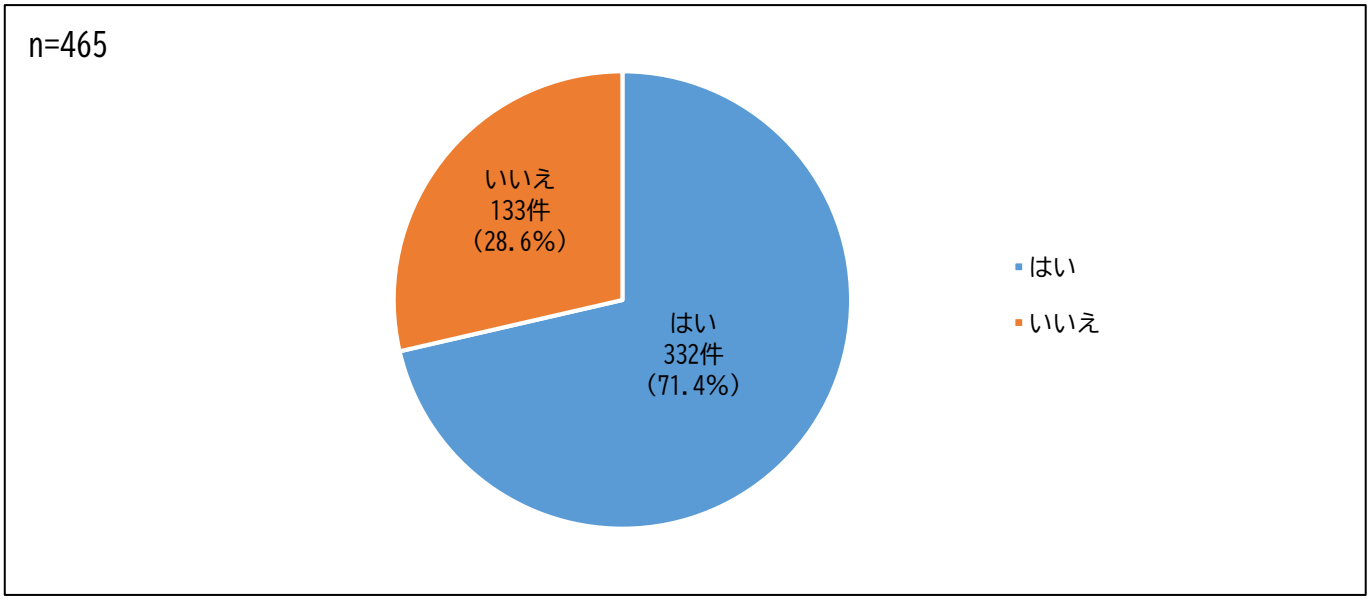
その他（自由記述）

・移動中の電車など　16 件
・飲食店や病院などの待ち時間　12 件
・本屋さん、祖父母の家、本が置いてあればどこでも
・漫画喫茶
・友達の家
・書店

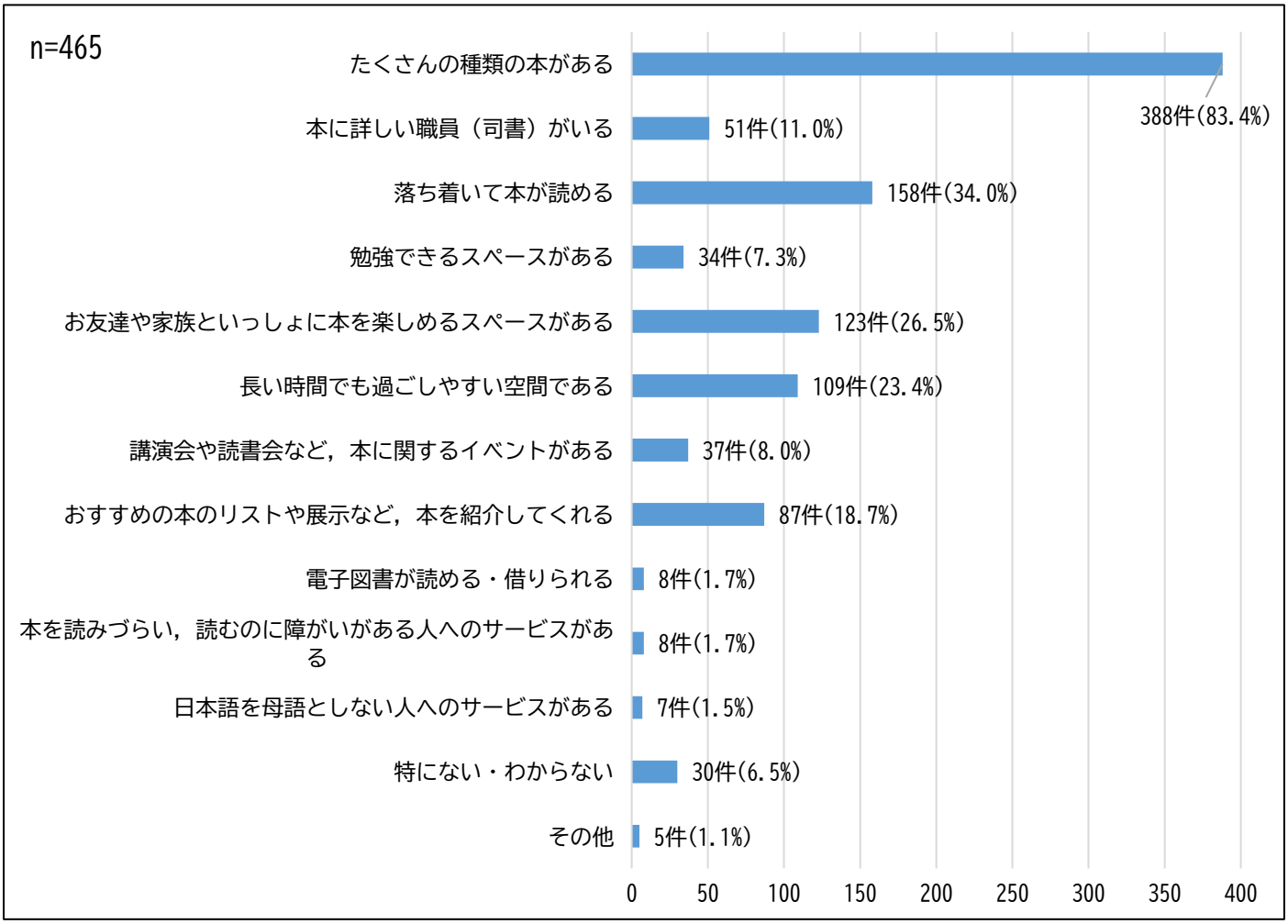
Q9　お子さんについて、あてはまるものを選んでください。（いくつでも）



Q10　お子さんは、4 月から今までの間に、市立図書館を利用しましたか。



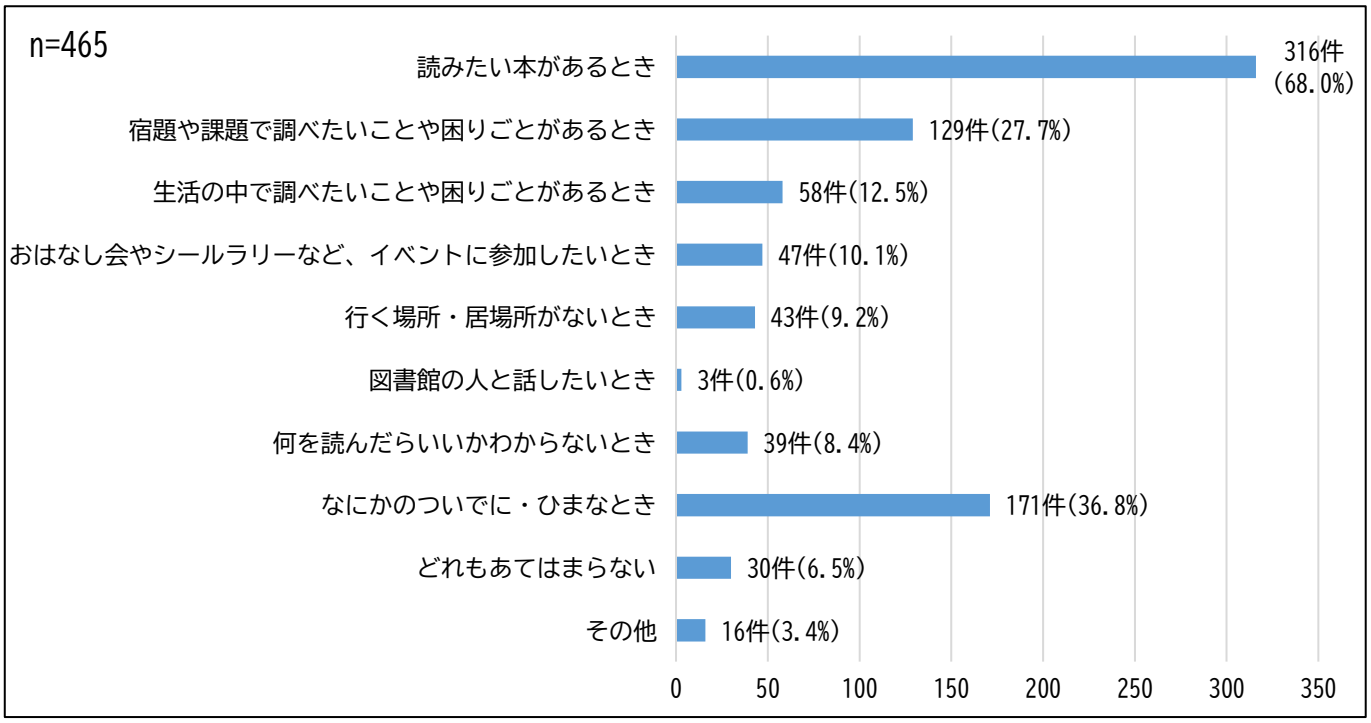
Q11　お子さんが、市立図書館に大事だと思うものは何ですか。特に大事だと思うものを、最大 3 つまで選んでください。



その他（自由記述）

・行きやすい
・涼しい空間である事
・最近出た本
・前に対応が悪くて行かなくなった
・予約できる、本の種類増やす

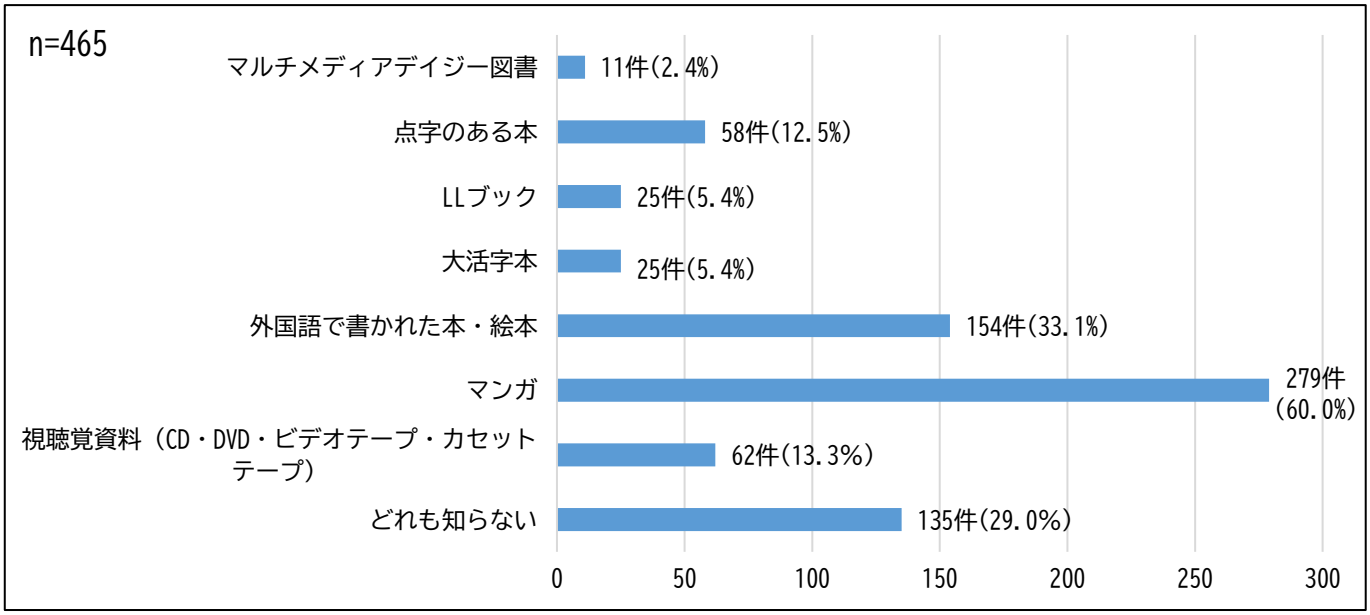
Q12　お子さんが、市立図書館を使いたいと思うのはどんな時ですか。（いくつでも）



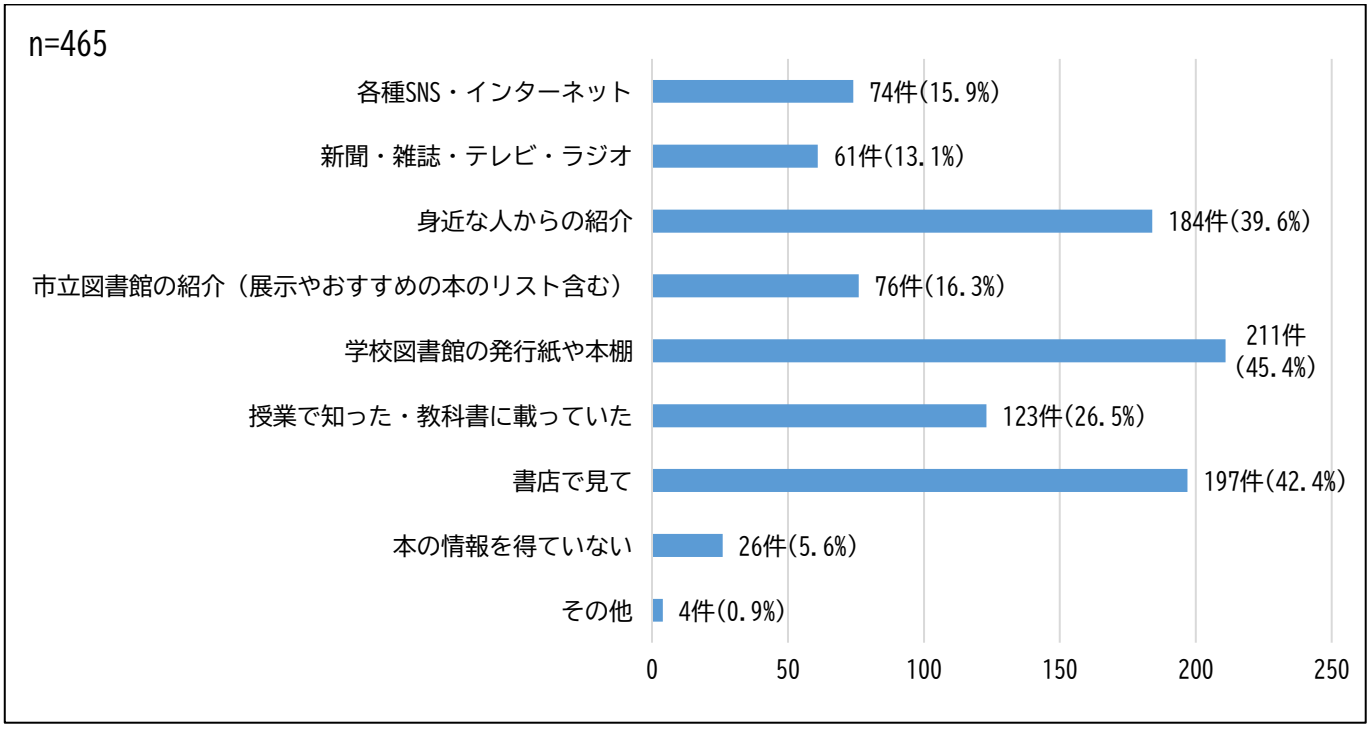
その他（自由記述）

・家族が行くから　4 件
・読みたい本を探すため　3 件
・図書館へ行くのが習慣になっているから　2 件
・お友達に誘われた時
・使いたいと思う時があまりない。
・時間があればいつでもいきたい
・本が好きだから
・心が悲しくなった時に、落ちつくために行きたい
・静かな活動がしたい時
・行きたいと言わなくなった

Q13　市立図書館にあるだれでも利用できる資料の中で、お子さんが知っているものを選んでください。（いくつでも）



Q14　お子さんは、本の情報をどこから得ていますか。（いくつでも）
※調査方法に不備があったため、Q14 は参考値とします。



その他（自由記述）

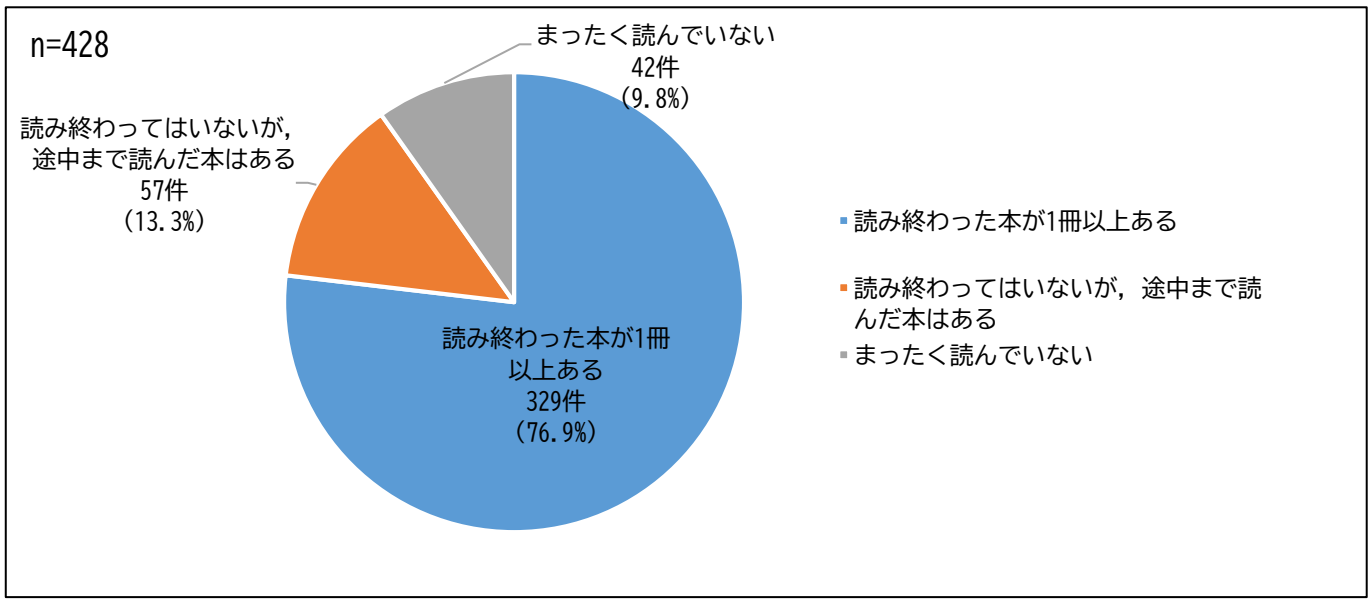
・自分で興味がわいたから
・公文の国語で推薦図書の問題があり、そこから興味を持ったりする
・学童でも本をたくさん置いてるので読んでいる
・テレビ

令和７年度　子どもの読書活動についてのアンケート集計結果（小学５年生）

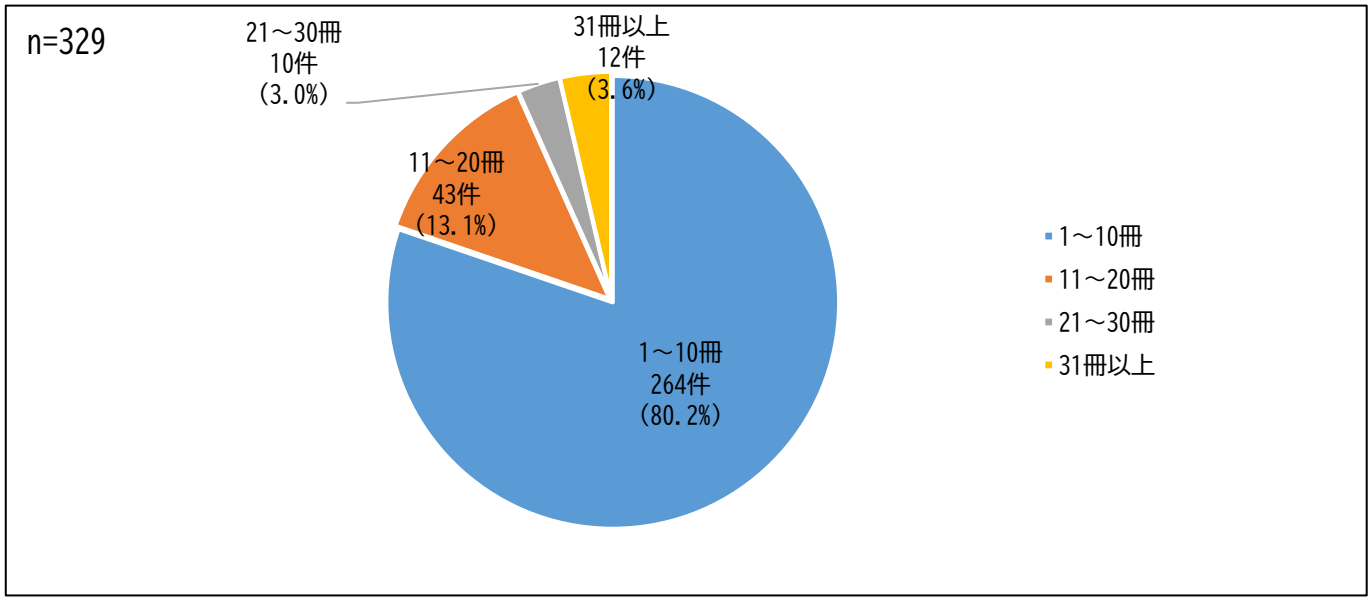
Q1　このフォームは、小学５年生のお子さんを対象にしています。 お子さんの意見を聞き取りながら回答いただくようお願いいたします。
※同じ学年に複数のお子さんがいらっしゃる方は、恐れ入りますが、それぞれ別の端末からご回答いただくか、図書館までお知らせください。

小学５年生　428 人（調査対象児童数 2,072 人）　回答率：20.7%

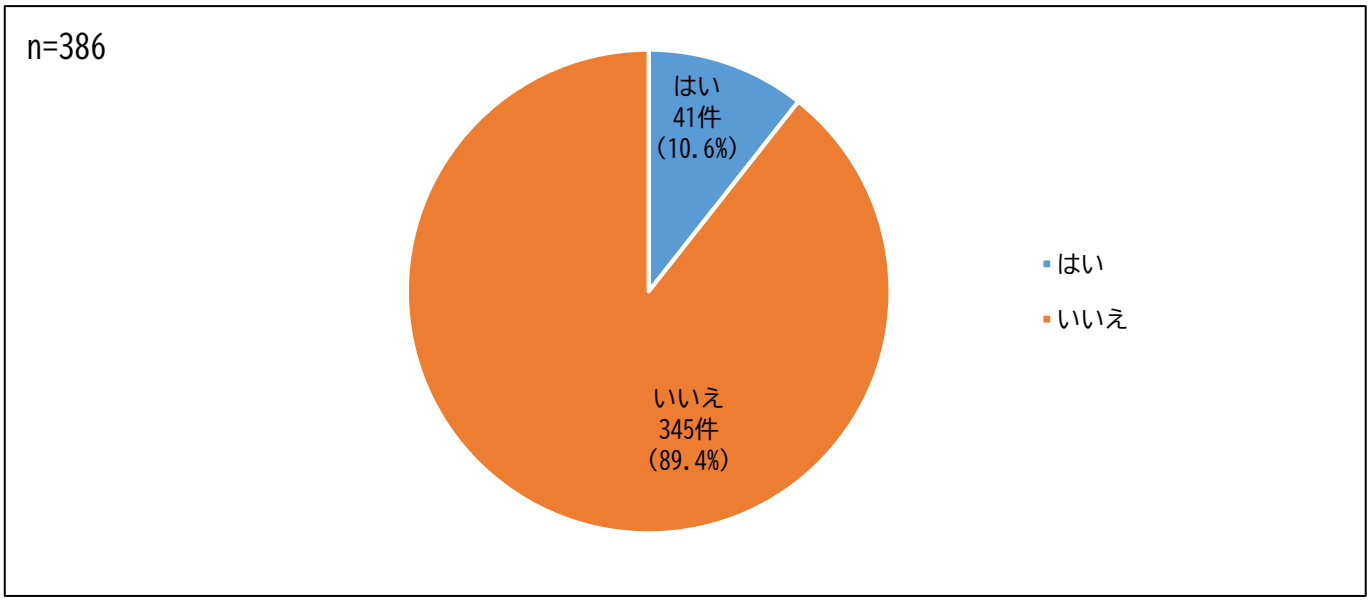
Q2　お子さんはこの１か月に本を読みましたか。
※雑誌・新聞・マンガ・電子書籍を含みます。
※授業の中で読んだ本・教科書・参考書は含みません。



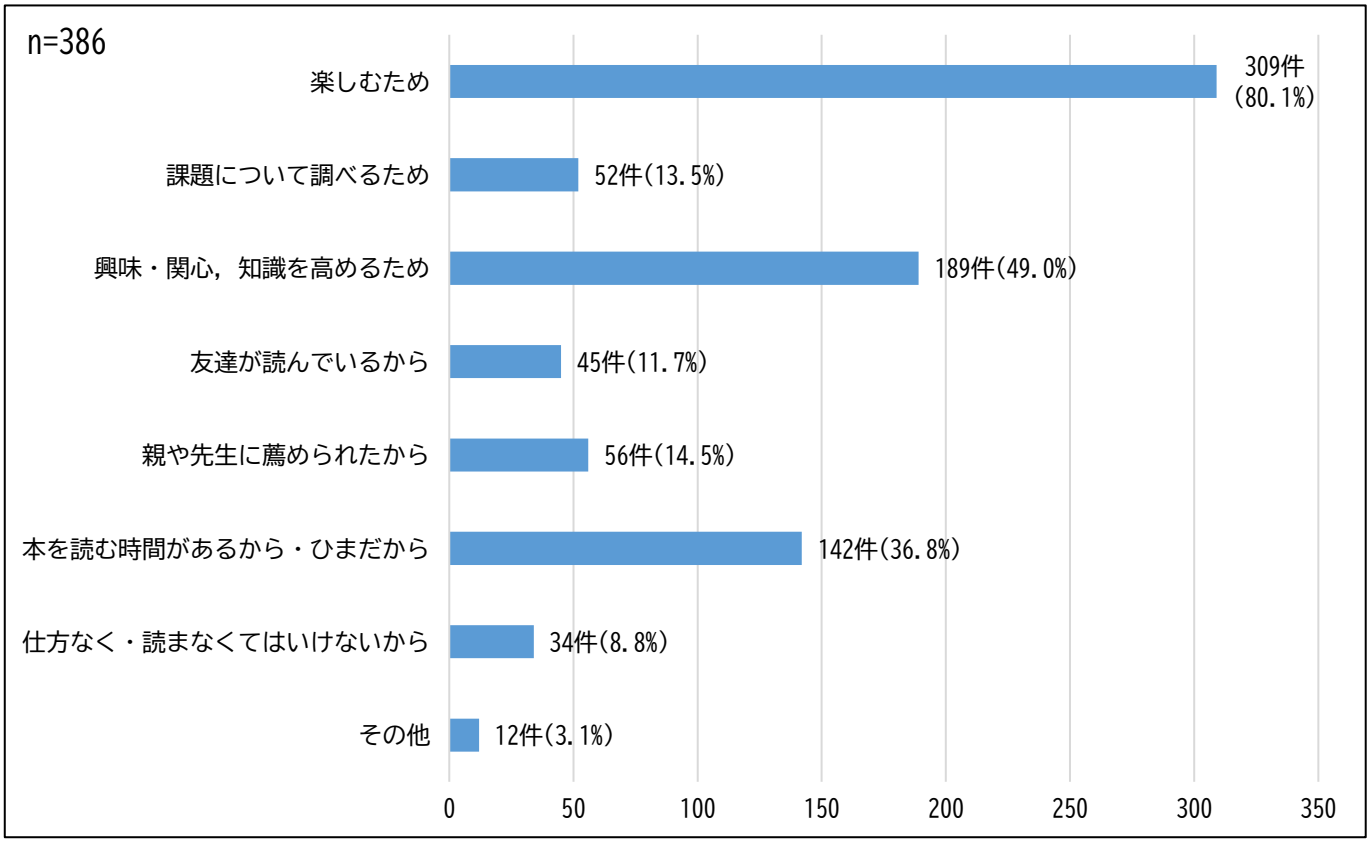
Q3　Q2 で「読み終わった本が１冊以上ある」を選んだ方にお聞きします。
お子さんが読み終わった本は、この１か月に何冊ありますか。



Q4　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はある」を選んだ人にお聞きします。読んだ本の中に電子書籍はありますか。



Q5　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はある」を選んだ人にお聞きします。お子さんが本を読むのはなぜですか。（いくつでも）

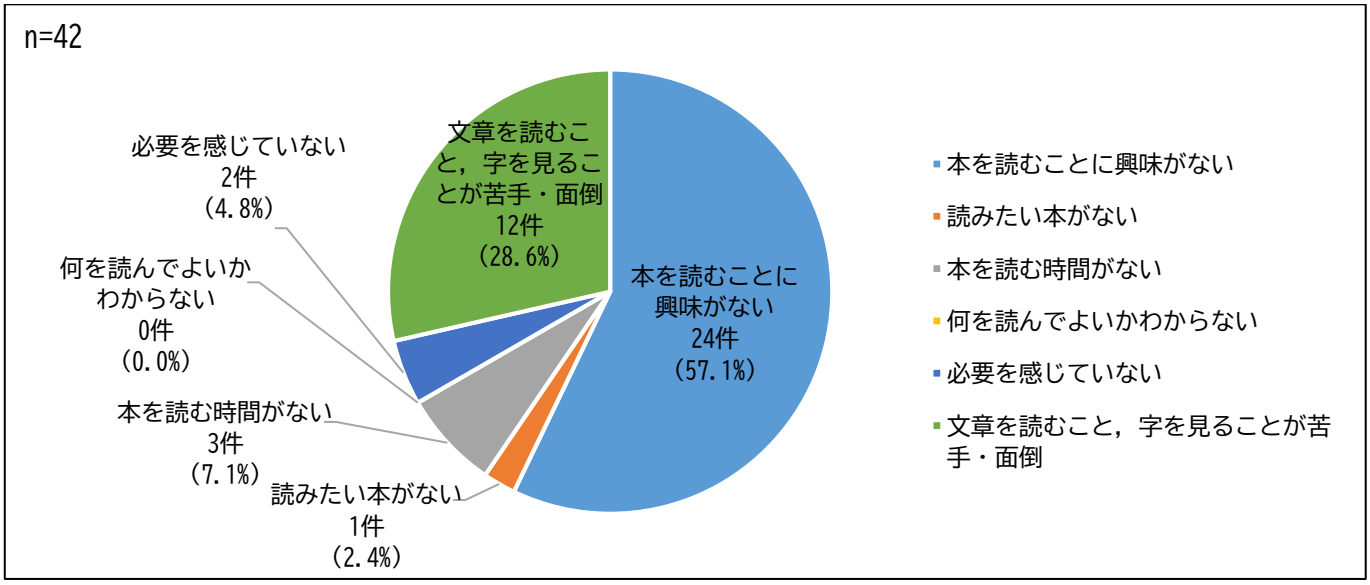


その他（自由記述）

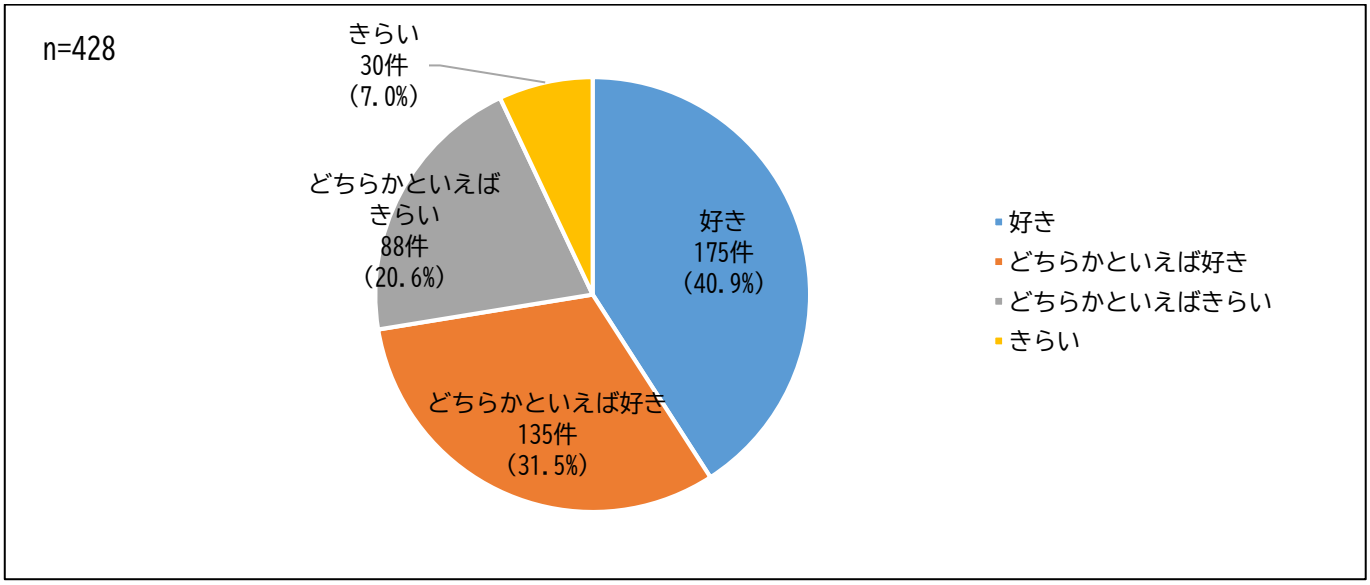
・宿題で、心に残った本について書く必要があったため

・本を読む時間が、安らぎになるから。続きが気になるから
・図書委員になり本を読む意識が出たため
・本を読むと楽しくてモヤモヤしている気持ちがなくなって、明るい気持ちになるから
・読書の習慣があまりないのでチャレンジ目的
・保育園のころに読みきかせた本を懐かしがって図書館で自分で読んでいた
・新しい発見があって面白いから
・親に言われて
・時間をつぶすため
・本を読むと漢字の勉強になるから
・とても好きな漫画家さんがいるから
・本を読むのが、勉強の間のリラックス時間になってます

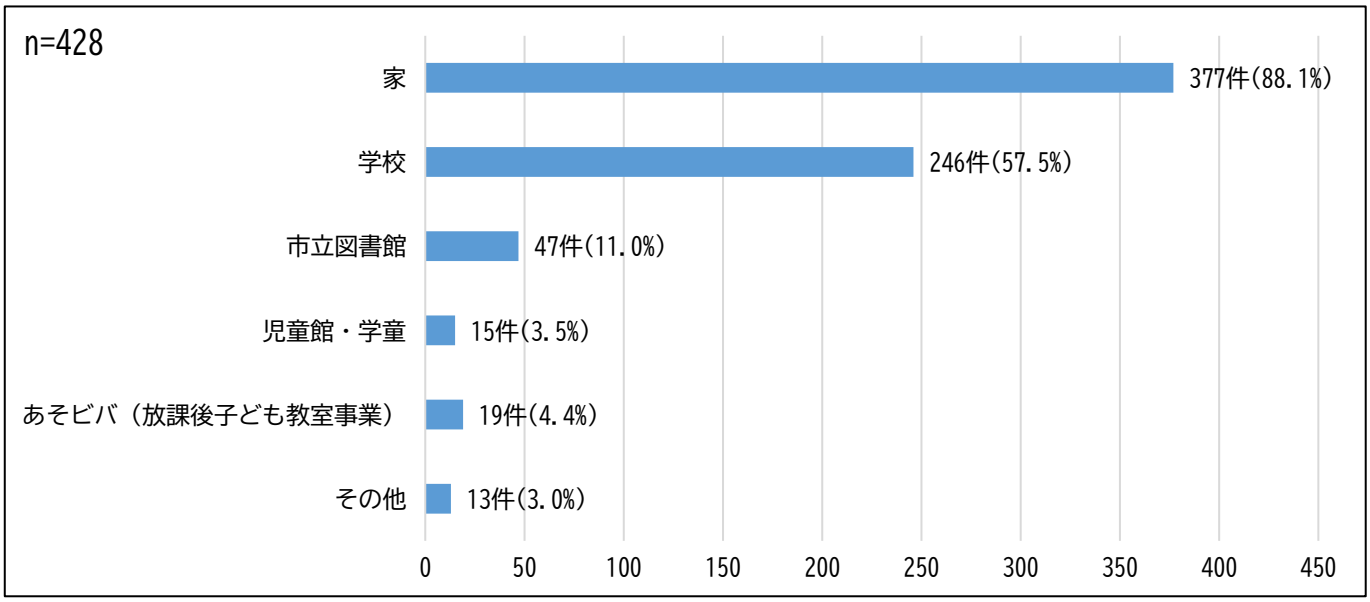
Q6　Q2 で「まったく読んでいない」を選んだ人にお聞きします。
本を読まないのはなぜですか。最も大きい理由を 1 つ選んでください。



Q7　お子さんは本を読むことは好きですか。



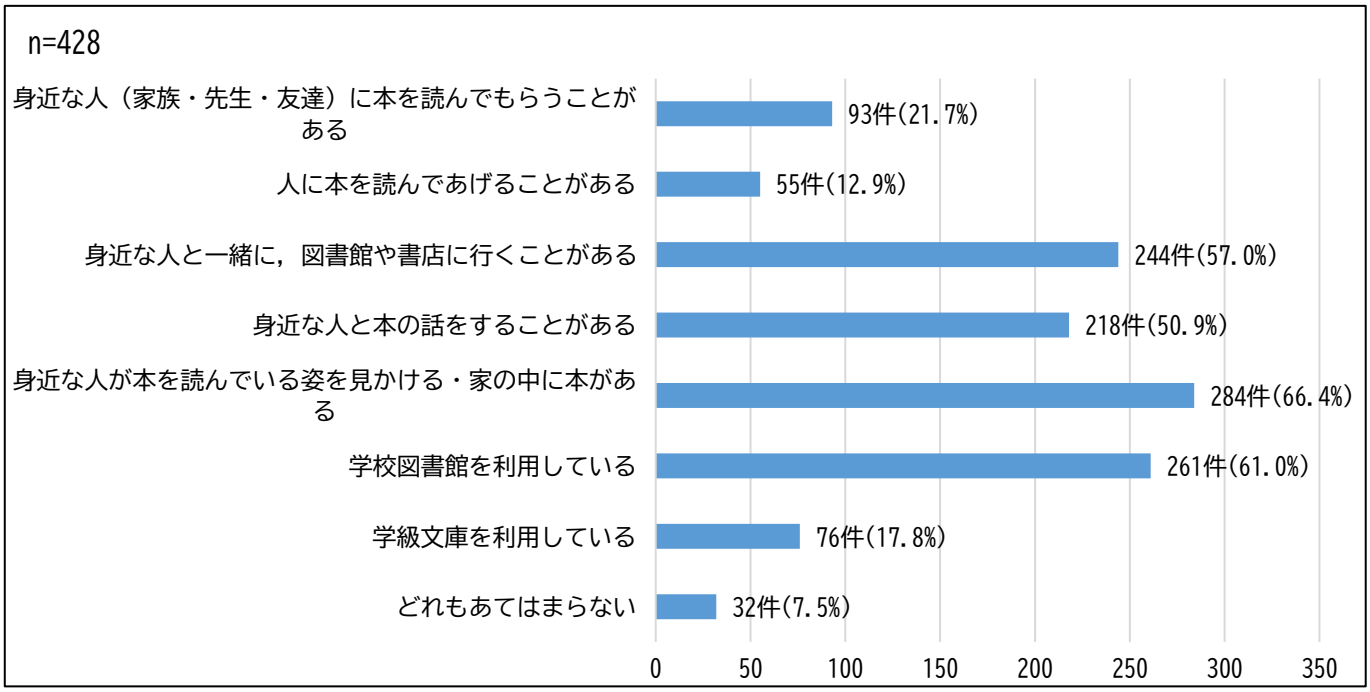
Q8　お子さんは、普段どこで本を読んでいますか。（いくつでも）



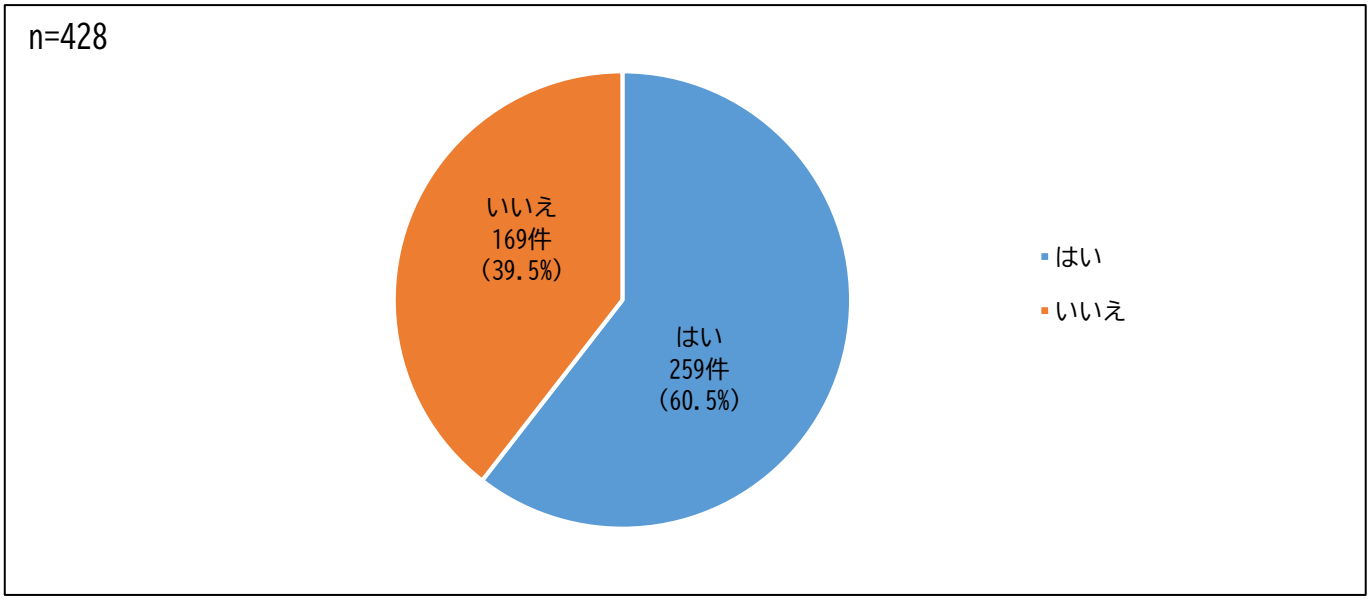
その他（自由記述）

・外出先への移動中　7 件
・（本屋、病院などの）外出先で読む　6 件

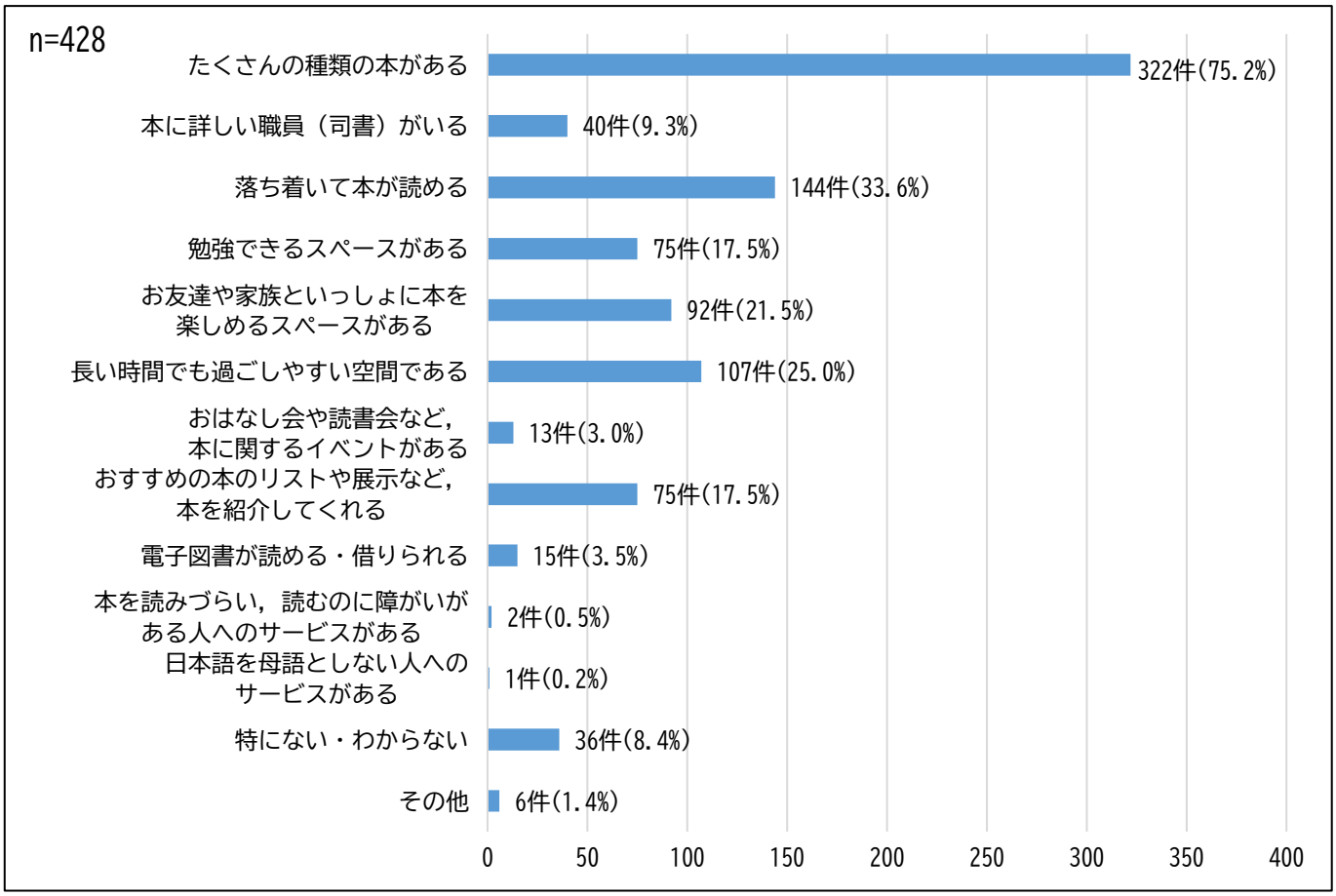
Q9　お子さんについて、あてはまるものを選んでください。（いくつでも）



Q10　お子さんは、4 月から今までの間に、市立図書館を利用しましたか。



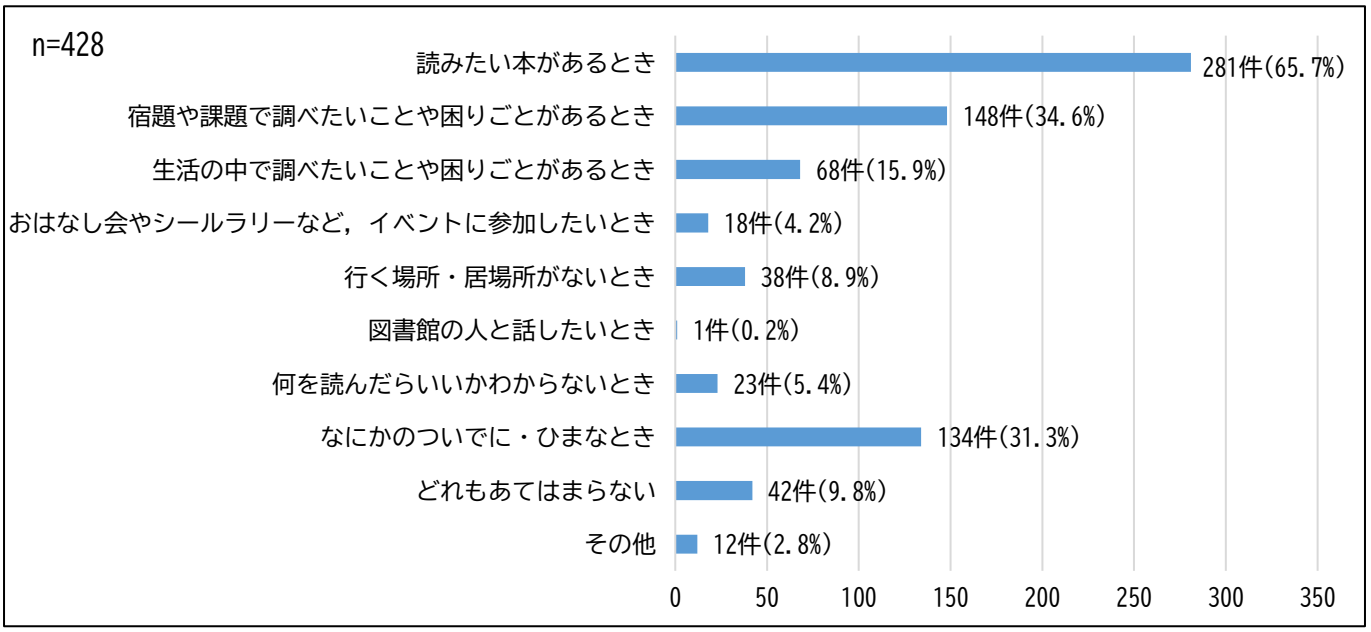
Q11　お子さんが、市立図書館に大事だと思うものは何ですか。特に大事だと思うものを、最大 3 つまで選んでください。



その他（自由記述）

・本屋になかったりしたときに、図書館で借りれることもあるため。
・もっと漫画も置いてほしい
・返却しやすい
・絵本はたくさんありますが、小学生が読む文庫や学習漫画が少ないように思います。子供は学習漫画からでも知識を増やすので、たくさん置いて欲しいです
・自宅から距離があり１人で行きにくいから
・人気の本が複数冊揃っている。最新版に更新されている。

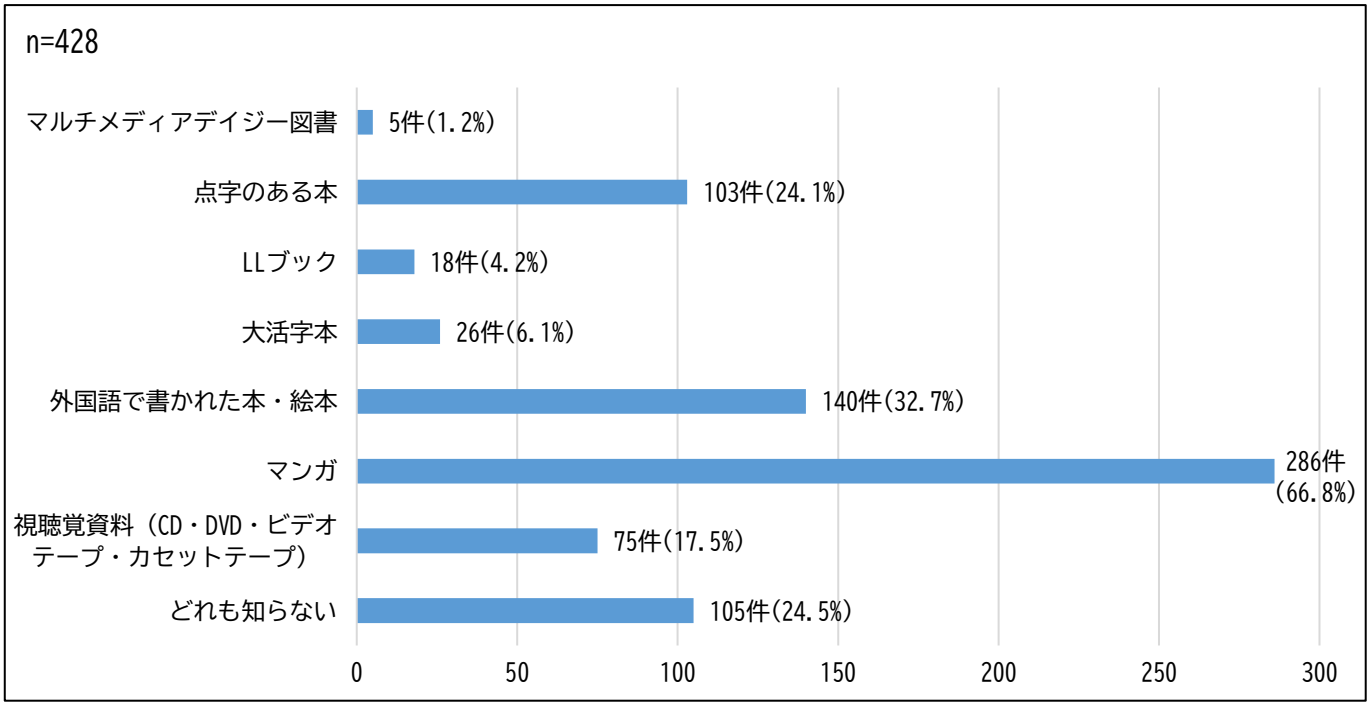
Q12　お子さんが、市立図書館を使いたいと思うのはどんな時ですか。（いくつでも）



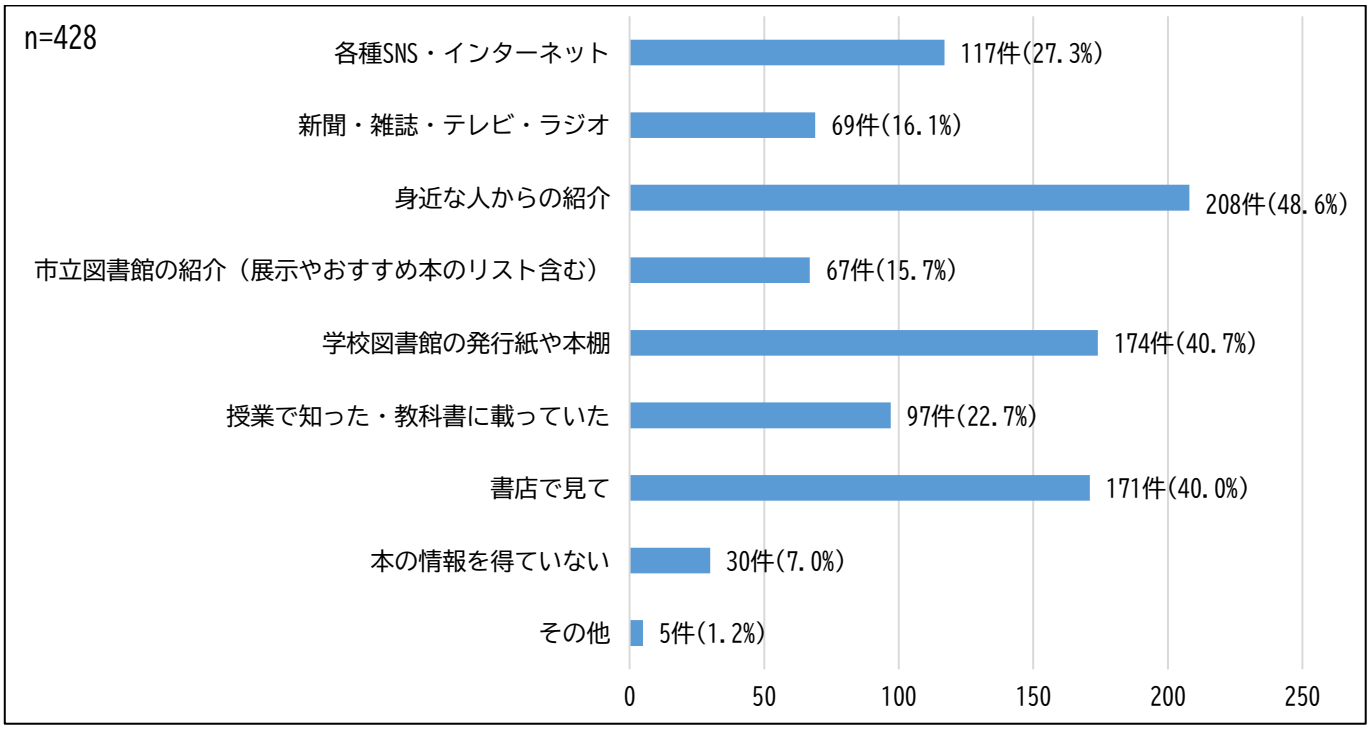
その他（自由記述）

・友達と一緒に行ける場所として利用している　２件
・図書館で本を借りる習慣がある　２件
・保護者と一緒に利用している　２件
・家の本に飽きたとき
・面白そうな本を探して読みたいとき
・勉強をする為
・本を借りる時
・使いたいと思わない
・学校の読書週間のとき

Q13　市立図書館にあるだれでも利用できる資料の中で、お子さんが知っているものを選んでください。（いくつでも）



Q14　お子さんは、本の情報をどこから得ていますか。（いくつでも）
※調査方法に不備があったため、Q14 は参考値とします。



その他（自由記述）

・広告など
・身近な人の家で見た
・題名を見て気になったら読む

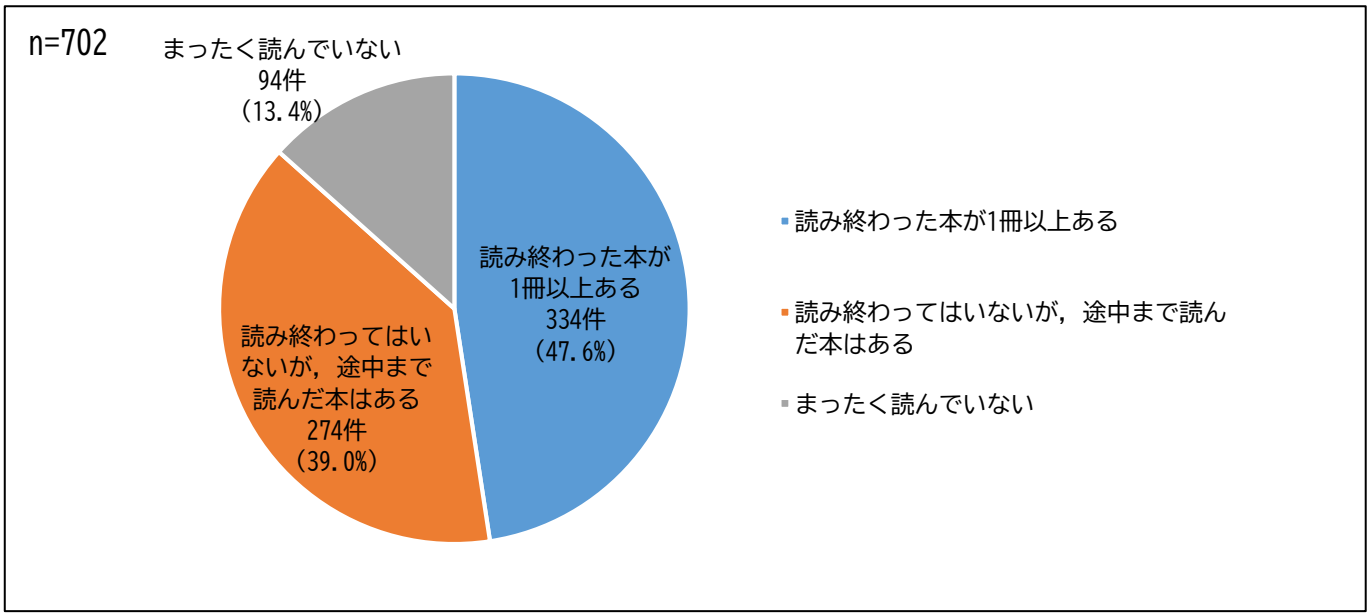
・図書館の本棚と書店
・図書館に行った時

令和７年度　子どもの読書活動についてのアンケート集計結果（中学２年生）

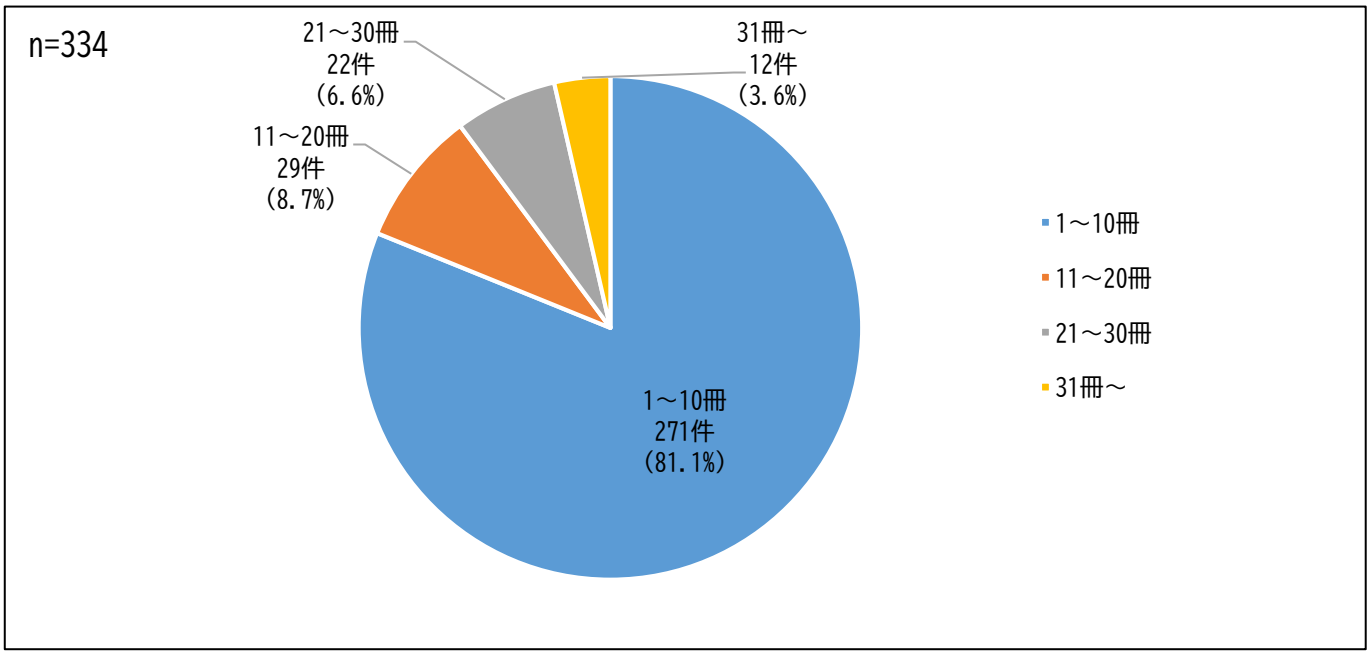
Q1　あなたの学年を選んでください。

中学２年生　702 人（調査対象生徒数　1,431 人）　回答率　49.1%

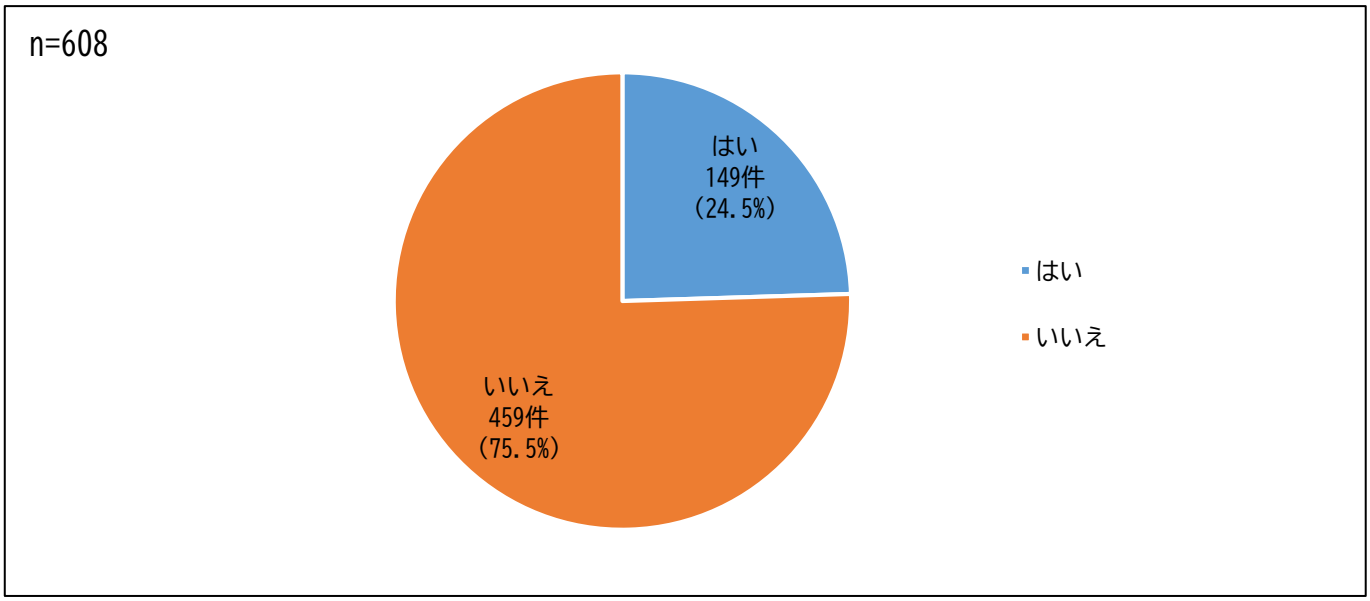
Q2　あなたはこの１か月に本を読みましたか。
※雑誌・新聞・マンガ・電子書籍を含みます。
※授業の中で読んだ本・教科書・参考書は含みません。



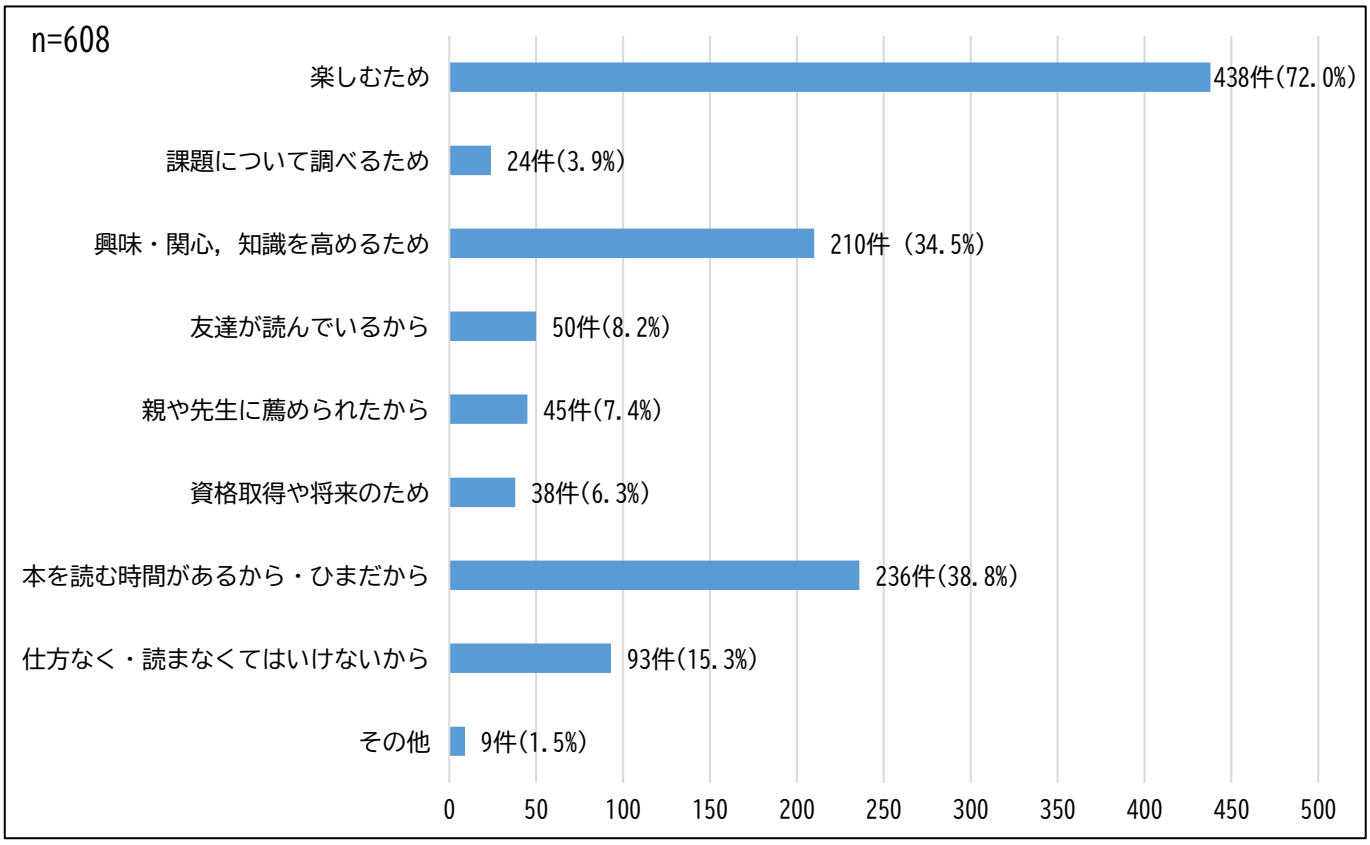
Q3　Q2 で「読み終わった本が１冊以上ある」を選んだ方にお聞きします。
あなたが読み終わった本は、この１か月に何冊ありますか。
※読みかけの本は数えません。



Q4　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はある」を選んだ人にお聞きします。
読んだ本の中に電子書籍はありますか。



Q5　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はある」を選んだ人にお聞きします。
あなたが本を読むのはなぜですか。(いくつでも)

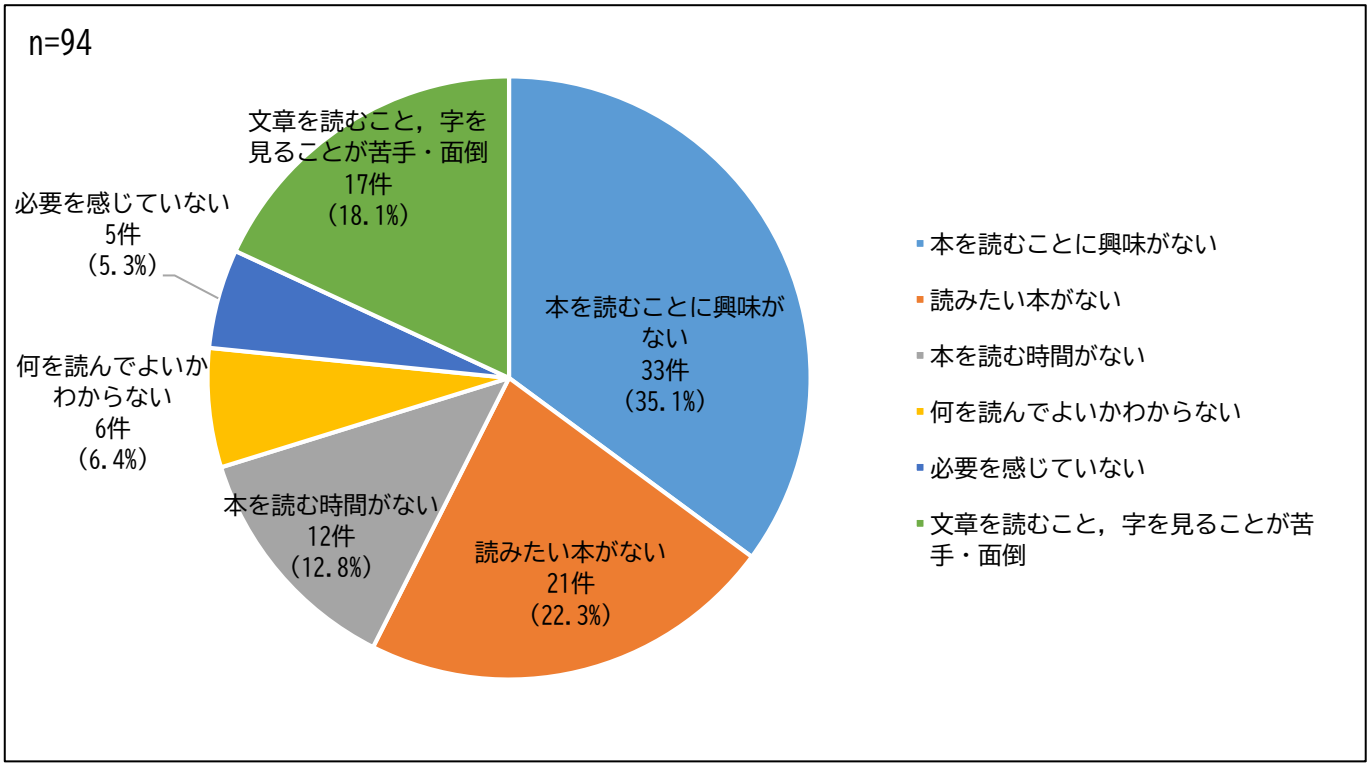


その他（自由記述）

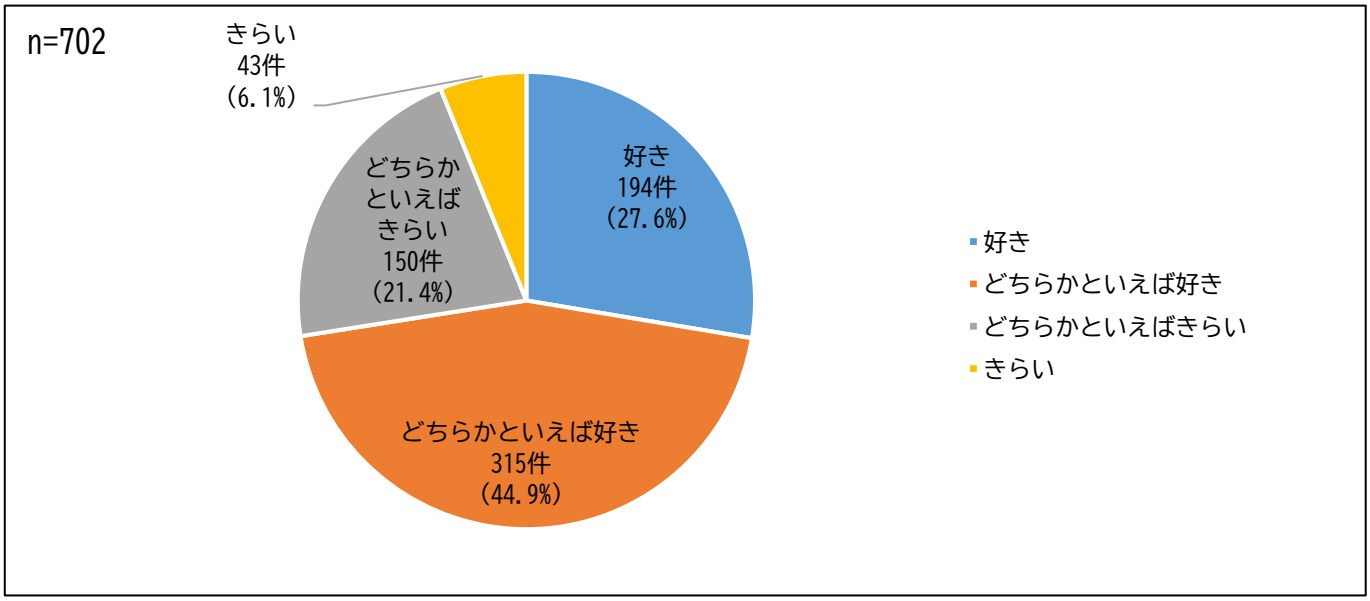
・好きな曲の小説だから　2 件

・好きな本だから
・暇だから
・漫画が面白いから
・好きな映画の原作の本だったから
・朝読書

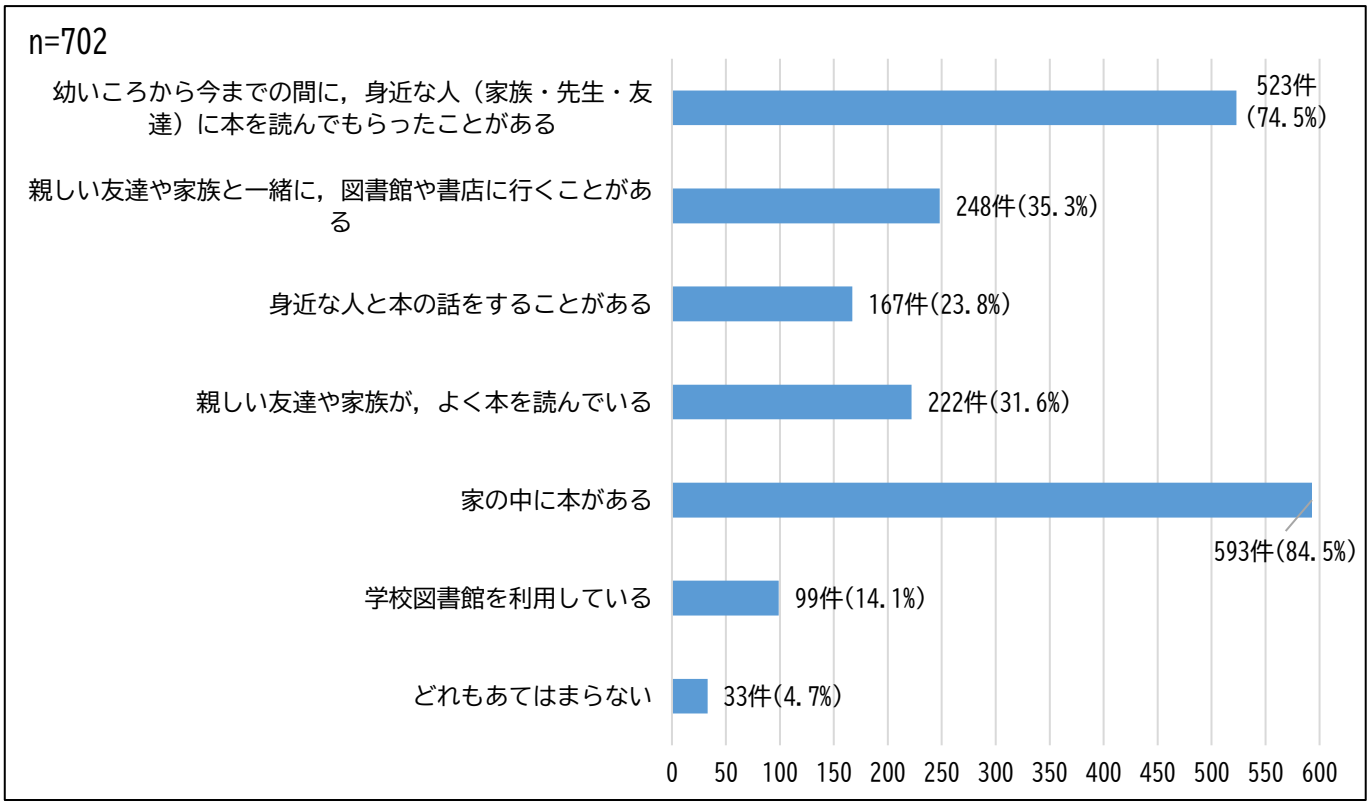
Q6　Q2 で「まったく読んでいない」を選んだ人にお聞きします。
本を読まない理由は何ですか。最も大きい理由を 1 つ選んでください。



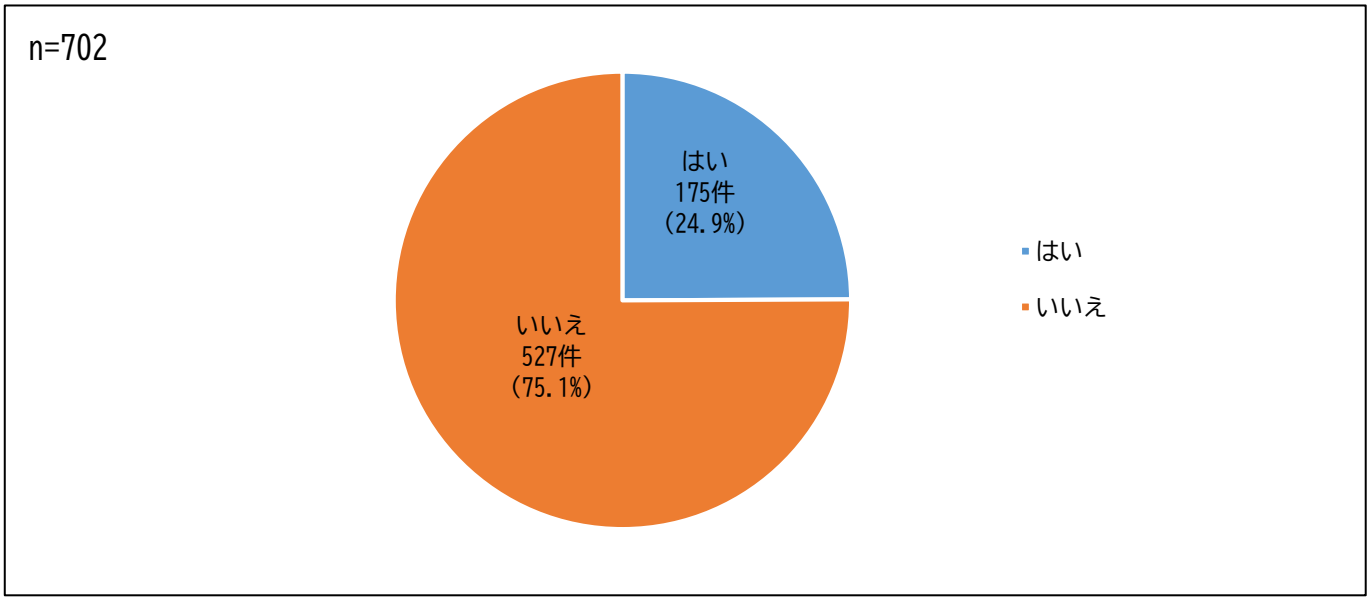
Q7　あなたは本を読むことは好きですか。



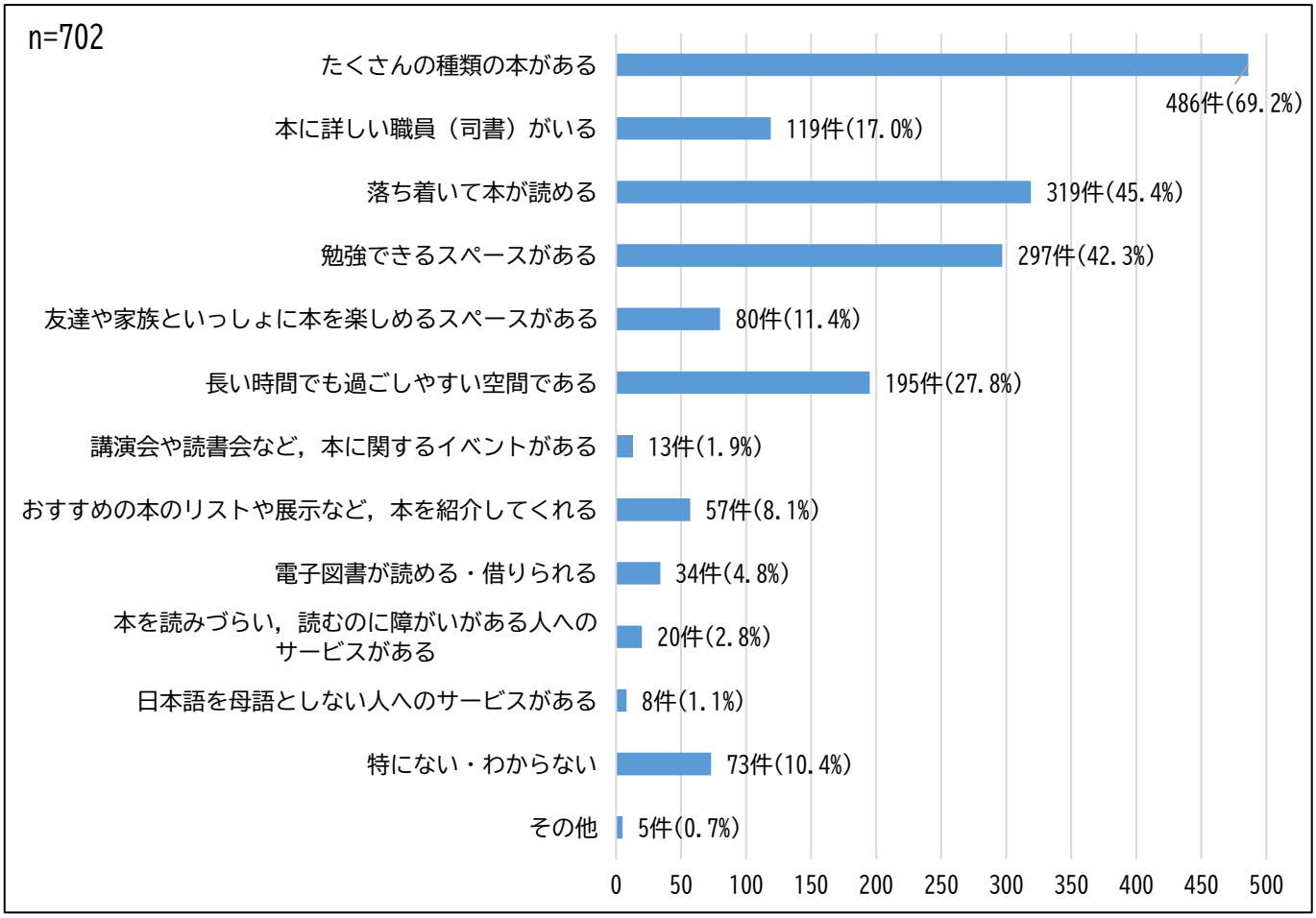
Q8　あてはまるものを選んでください。（いくつでも）



Q9　あなたは、4 月から今までの間に、市立図書館を利用しましたか。



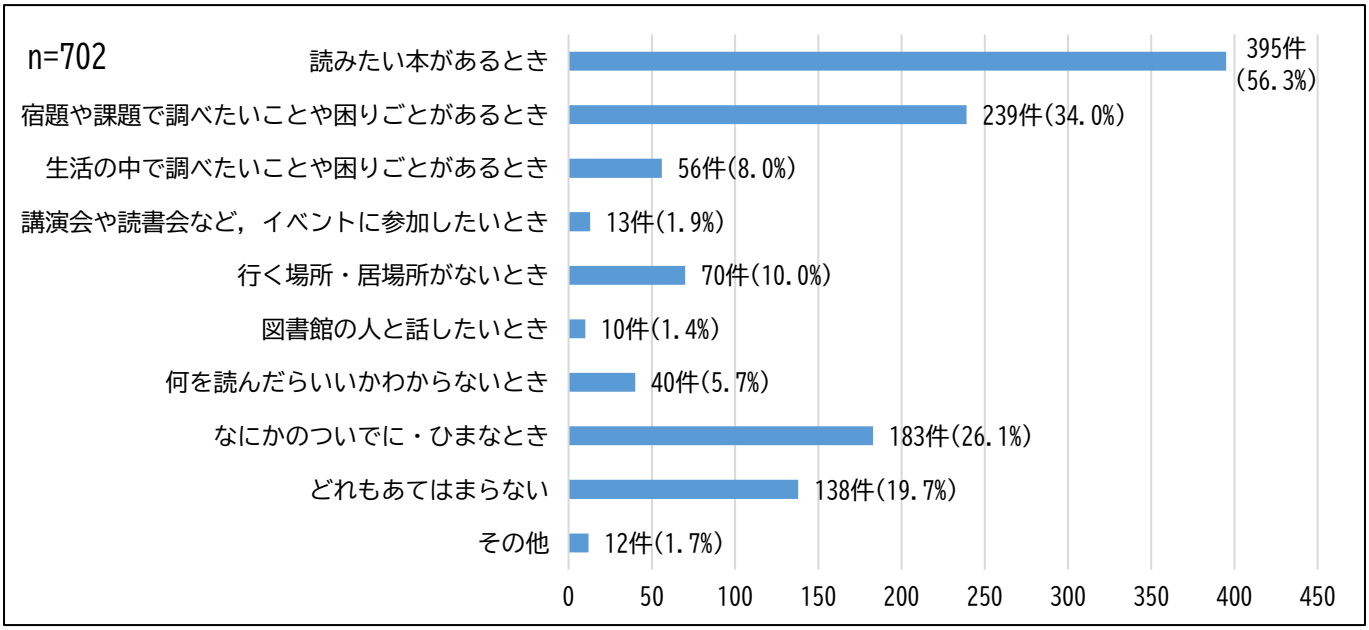
Q10　あなたが、市立図書館に大事だと思うものは何ですか。特に大事だと思うものを、最大 3 つまで選んでください。



その他（自由記述）

・検索用のコンピューターがあるので暇つぶしができる
・勉強で知りたい内容の本が揃っている
・本の並び方が分かりやすい
・本が見つけやすい
・学習まんがだけではなく、娯楽の漫画をもっとおいてほしい

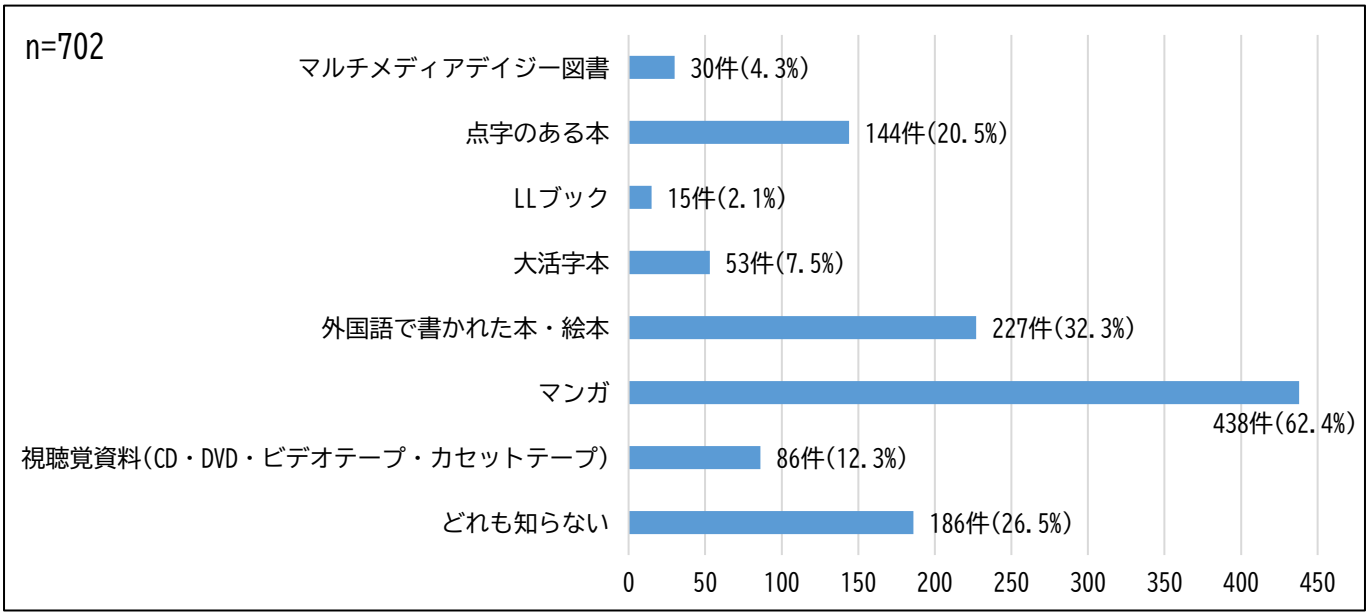
Q11　あなたが、市立図書館を使いたいと思うのはどんな時ですか。（いくつでも）



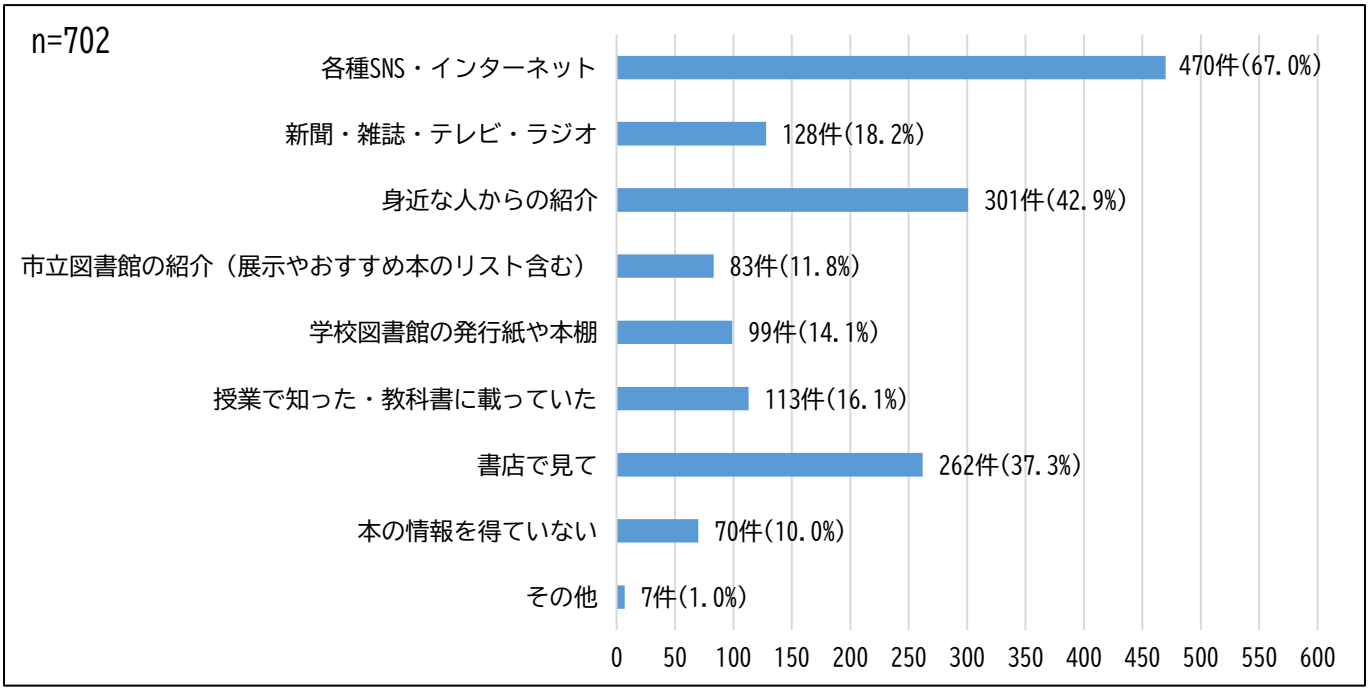
その他（自由記述）

・勉強したいとき　6 件
・予約した本を借りに行くとき
・検索用のコンピューターで検索したいとき
・旅行に行く場所の観光地を調べたいとき
・友達と勉強するとき
・友達が利用すると言っていたとき、付き添いで行く程度
・使ってないからわからない

Q12　市立図書館にあるだれでも利用できる資料の中で、知っているものを選んでください。（いくつでも）



Q13　本の情報をどこから得ていますか。（いくつでも）



その他（自由記述）

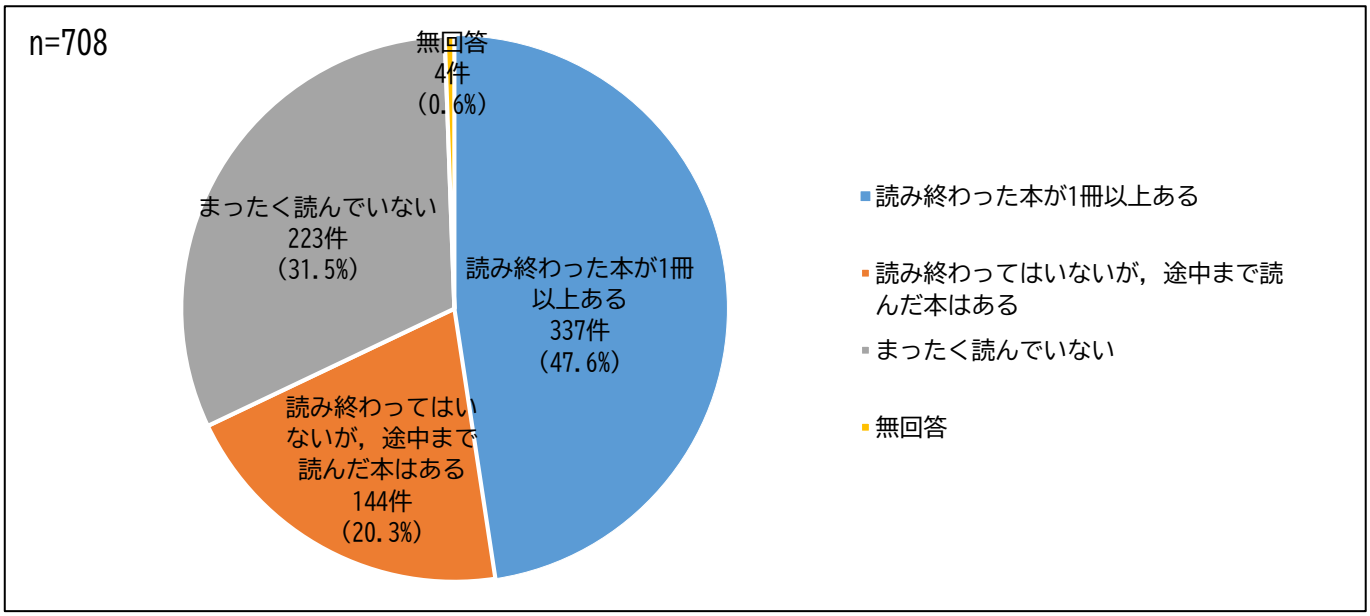
・自身の興味関心
・idk（原文のまま）
・家にある本
・高校の学校公開のとき図書館で面白そうなものを調べて読む
・本に挟まっている栞から情報を得ている
・YouTube や電子書籍アプリ
・古本屋

令和７年度　子どもの読書活動についてのアンケート集計結果（高校２年生）

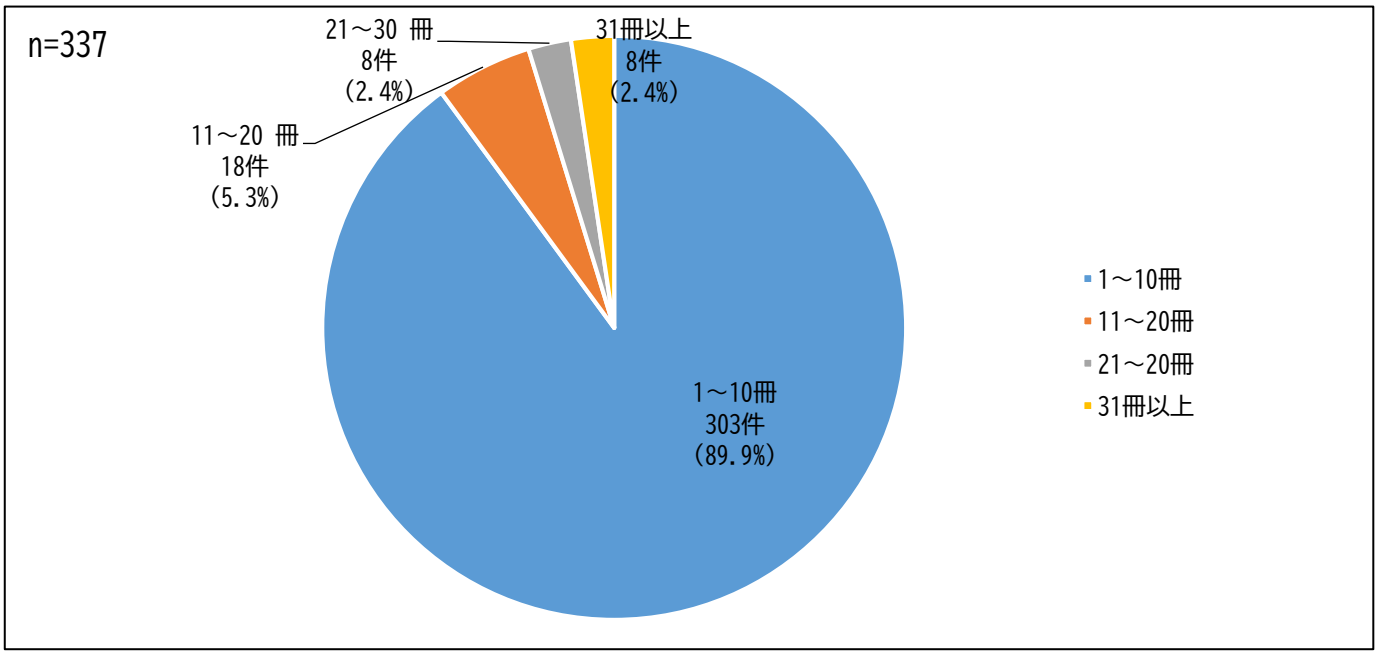
Q1　あなたの学年を選んでください。

高校２年生　708 人（調査対象生徒数　789 人）　回答率　89.7%

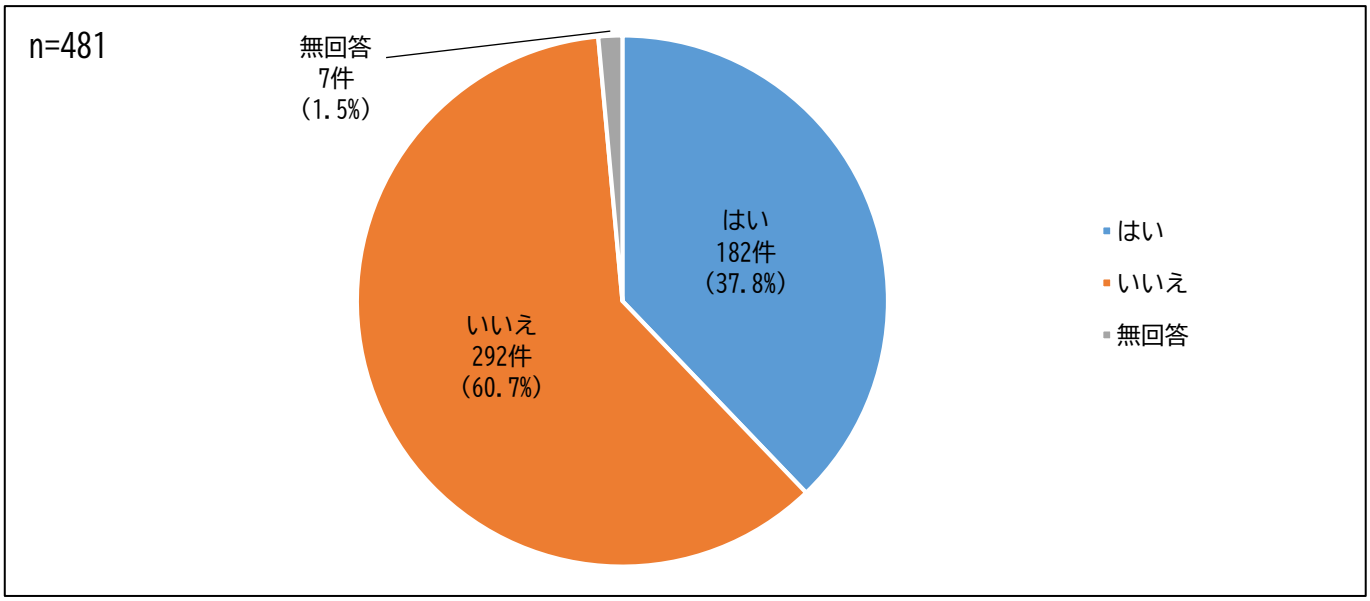
Q2　あなたはこの１か月に本を読みましたか。
※雑誌・新聞・マンガ・電子書籍を含みます。
※授業の中で読んだ本・教科書・参考書は含みません。



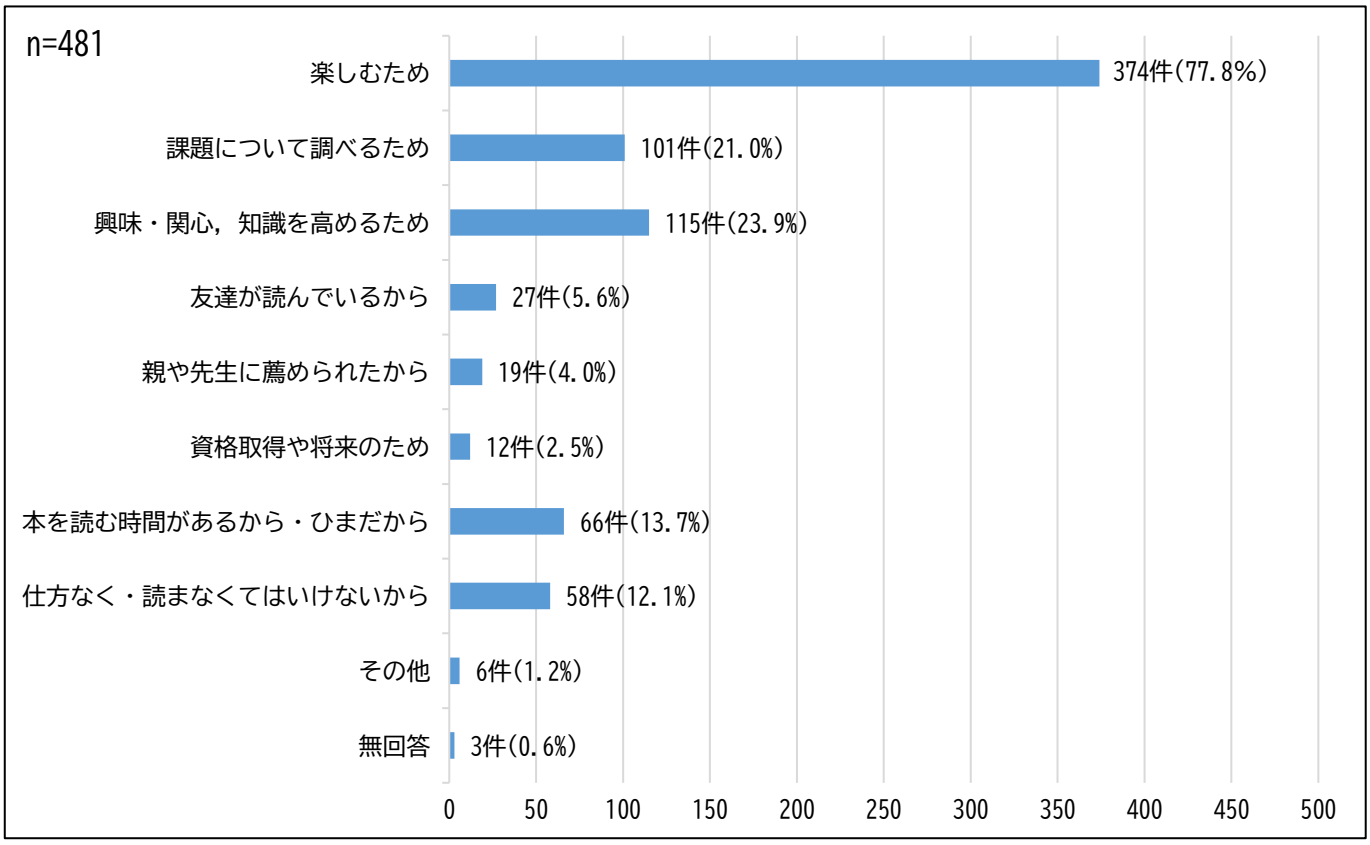
Q3　Q2 で「読み終わった本が１冊以上ある」を選んだ方にお聞きします。
あなたが読み終わった本は、この１か月に何冊ありますか。
※読みかけの本は数えません。



Q4　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はある」を選んだ人にお聞きします。
読んだ本の中に電子書籍はありますか。



Q5　Q2 で「読み終わった本が 1 冊以上ある」「読み終わってはいないが、途中まで読んだ本はある」を選んだ人にお聞きします。
あなたが本を読むのはなぜですか。(いくつでも)

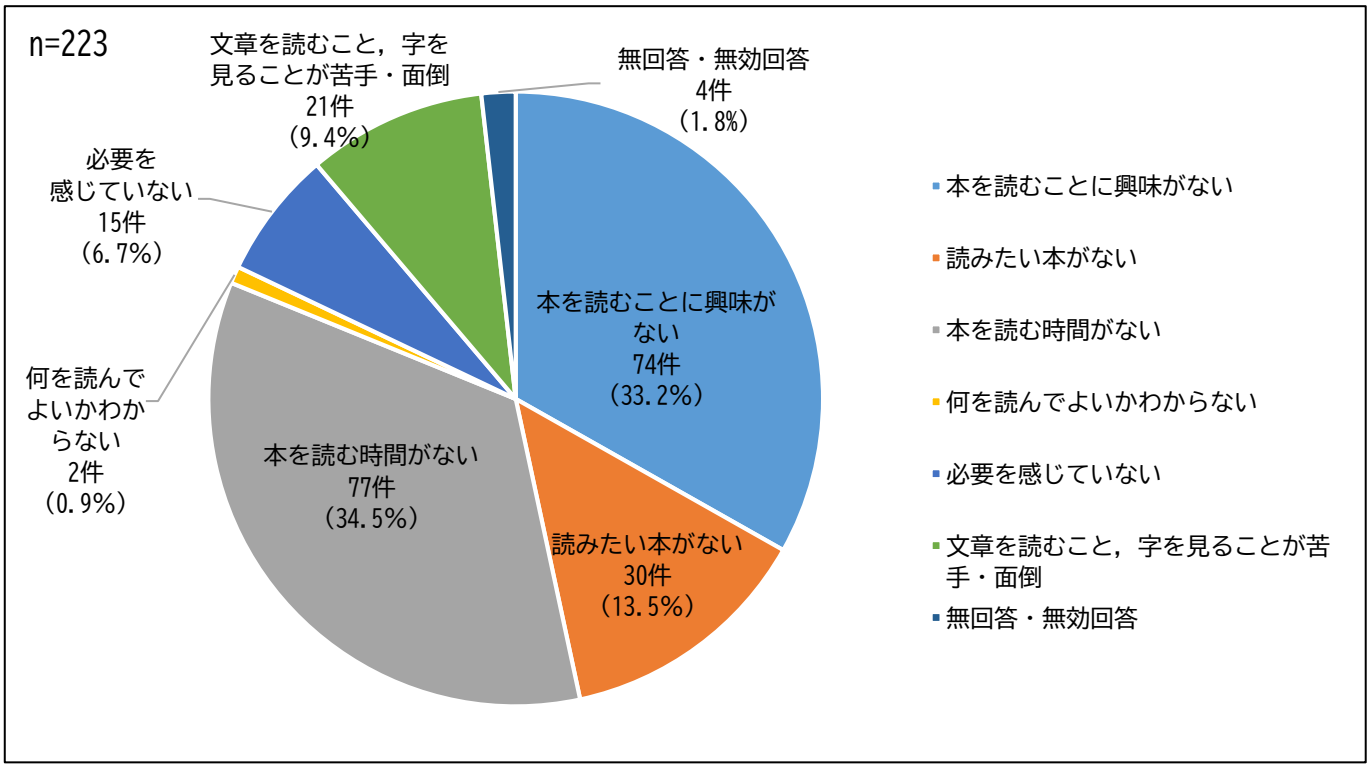


その他（自由記述）

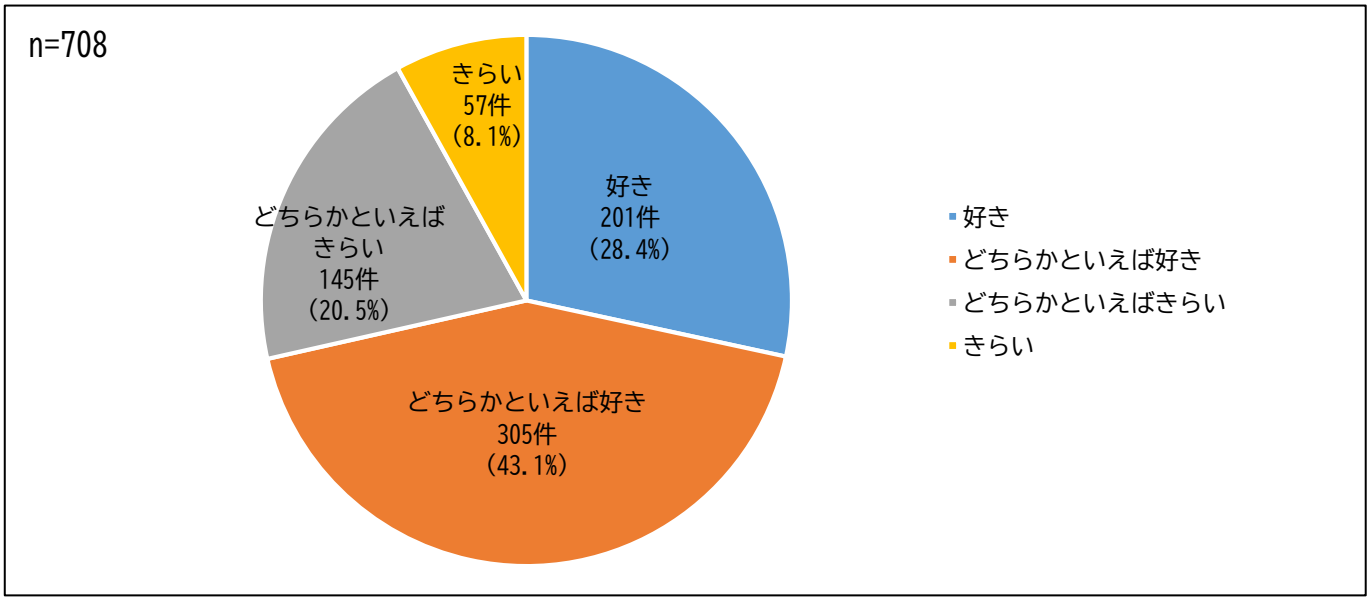
・課題だったから　3 件

・ビブリオバトルのため
・あ（原文のまま）
・たまたま気が向いたから

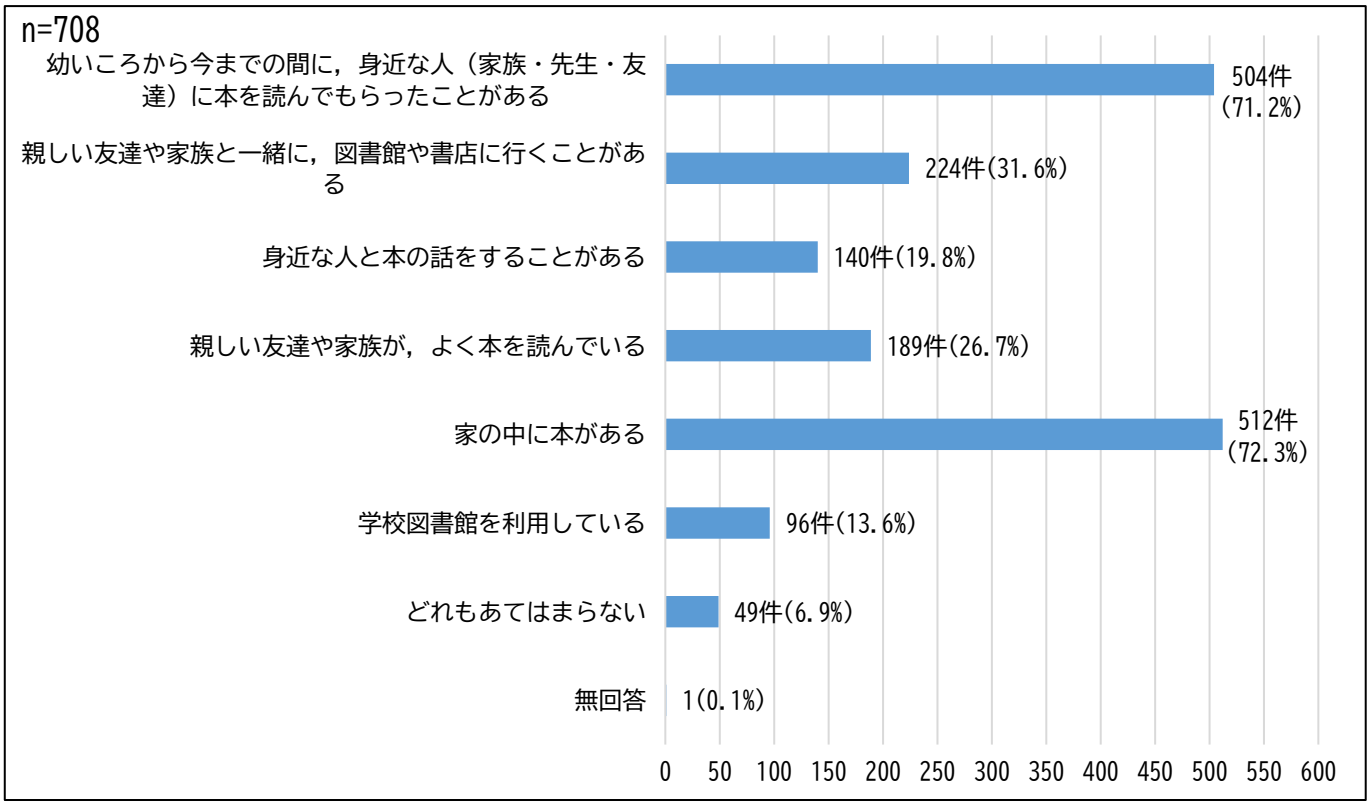
Q6　Q2 で「まったく読んでいない」を選んだ人にお聞きします。
本を読まない理由は何ですか。最も大きい理由を 1 つ選んでください。



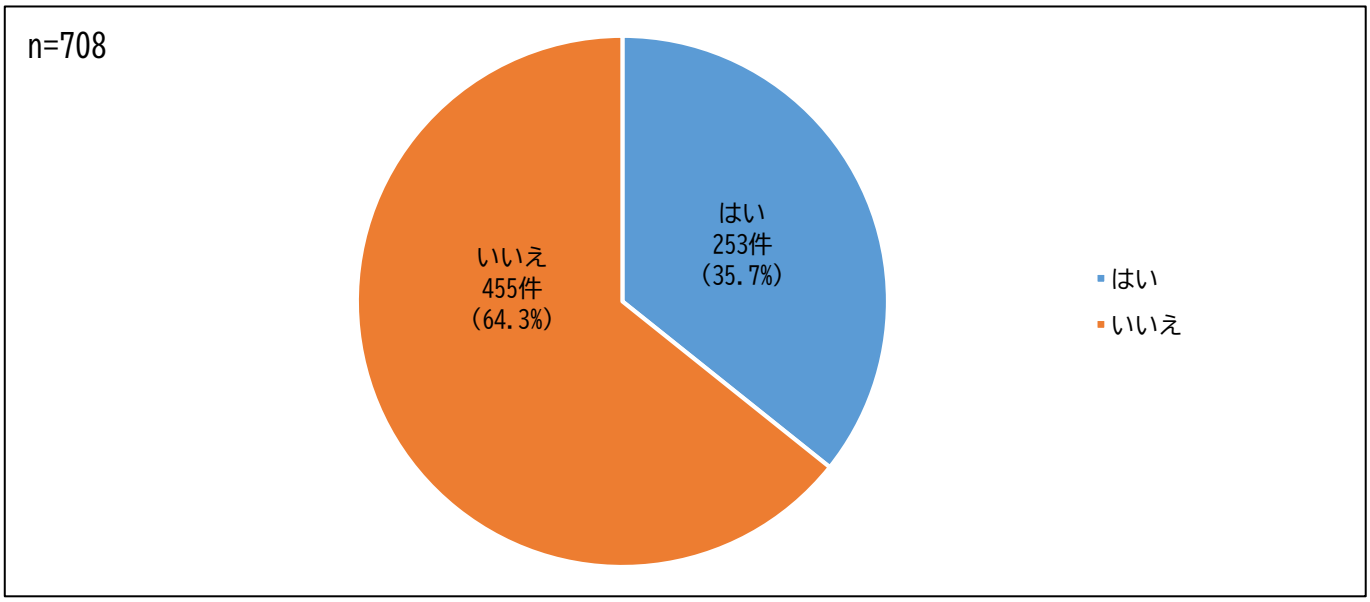
Q7　あなたは本を読むことは好きですか。



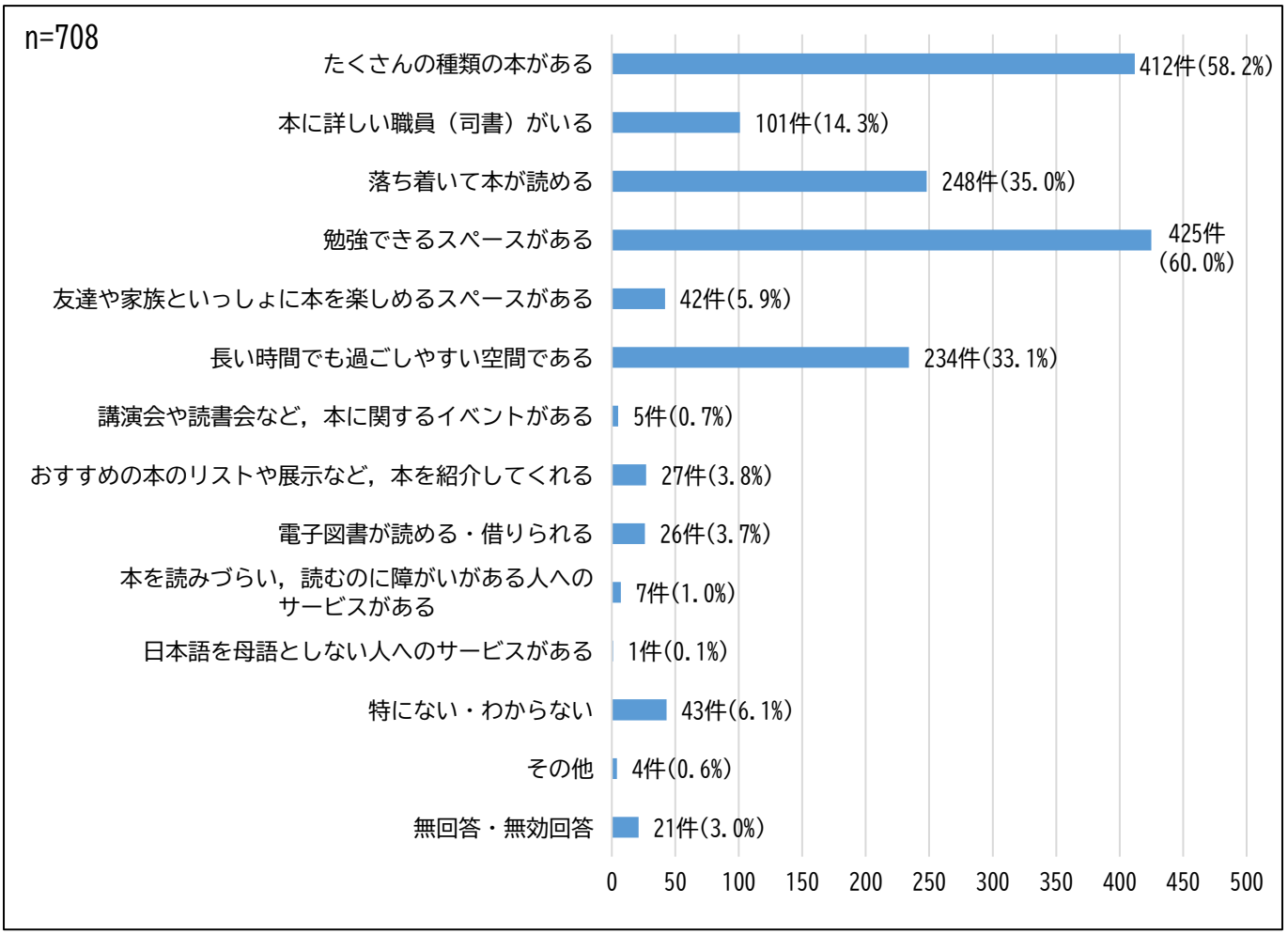
Q8　あてはまるものを選んでください。（いくつでも）



Q9　あなたは、4 月から今までの間に、市立図書館を利用しましたか。



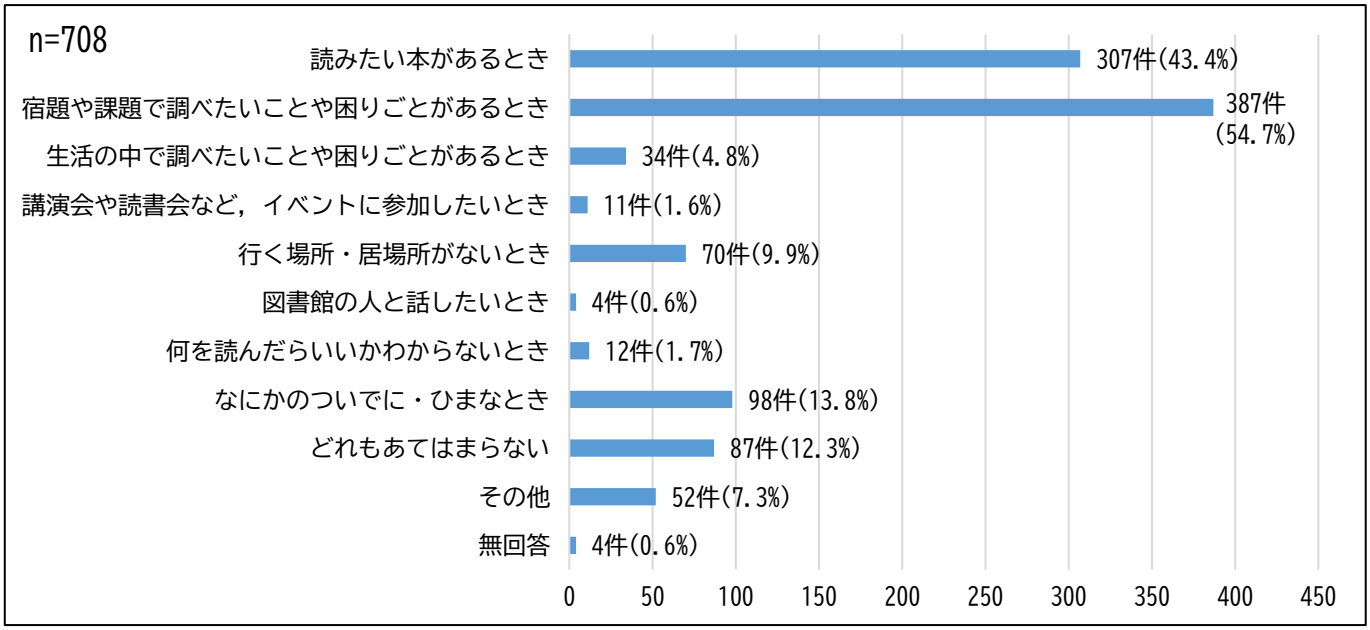
Q10　あなたが、市立図書館に大事だと思うものは何ですか。特に大事だと思うものを、最大 3 つまで選んでください。



その他（自由記述）

・マンガがある
・検索機がある
・アクセスが容易であること
・本を探すのが苦手だから、探してくれる人がほしい

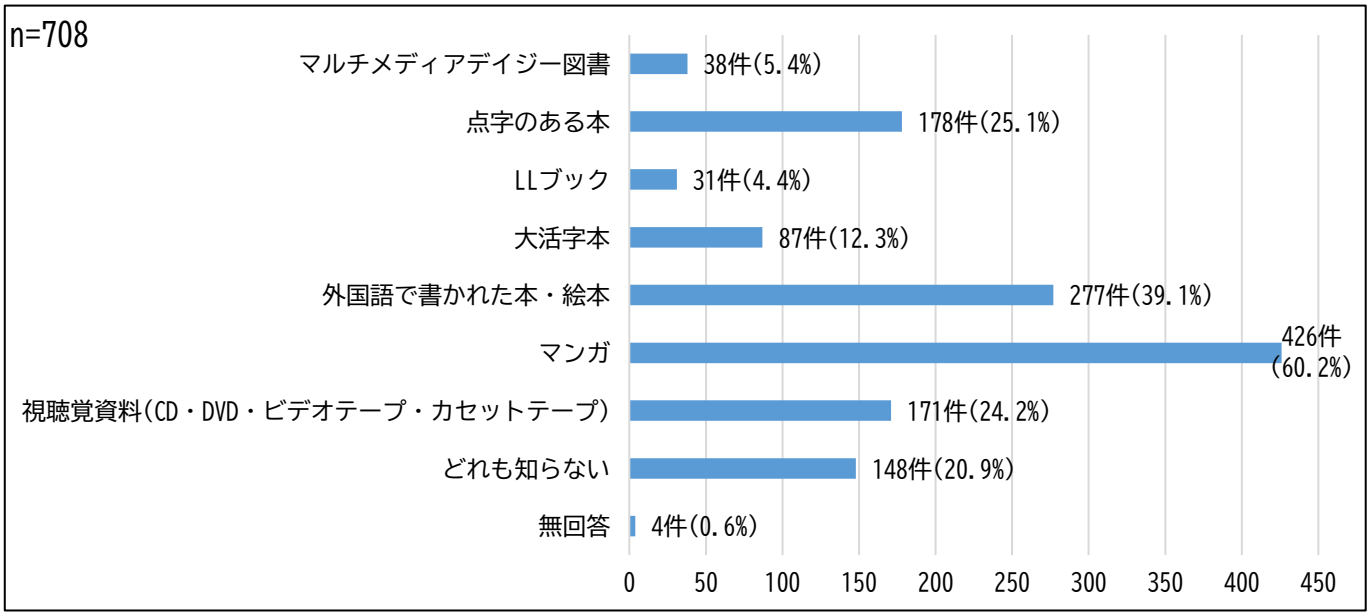
Q11　あなたが、市立図書館を使いたいと思うのはどんな時ですか。（いくつでも）



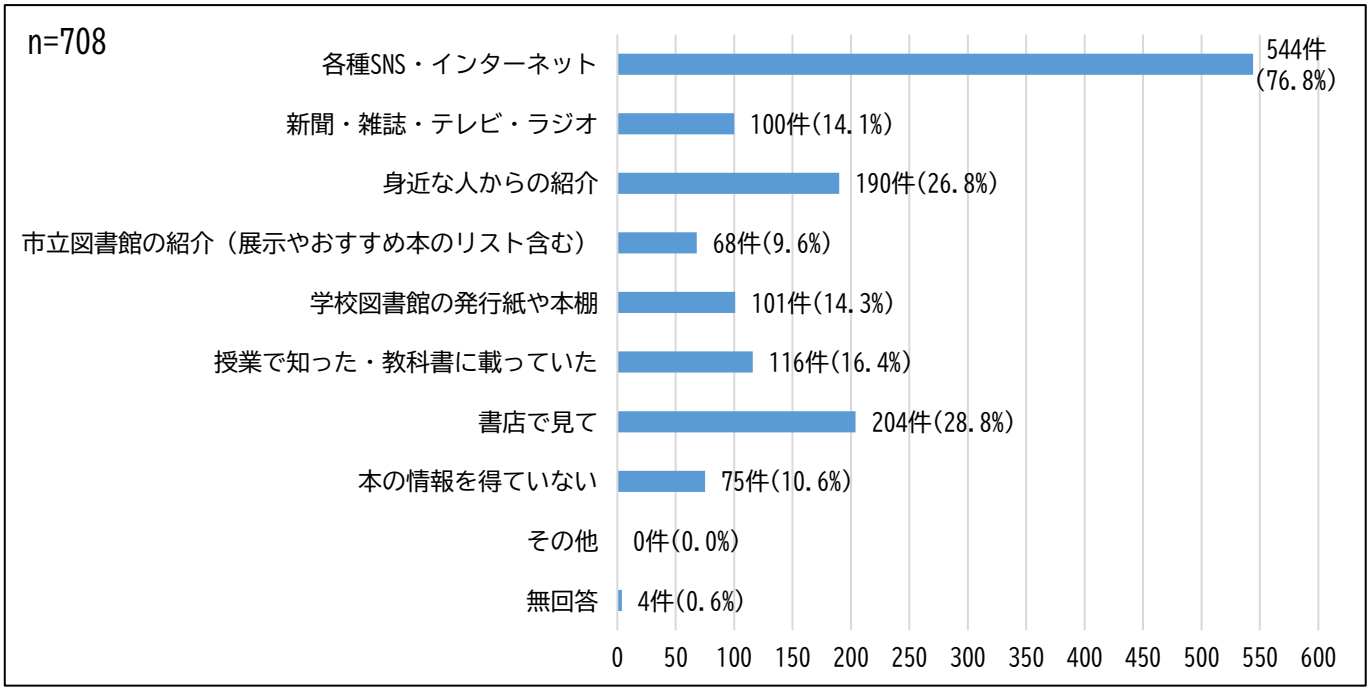
その他（自由記述）

・（集中して）勉強したいとき　35 件
・自習するため　5 件
・テスト勉強するため　4 件
・友達と勉強するため　2 件
・暑いから
・トイレを借りるとき
・定期的に図書館の空気が吸いたくなる。本の匂いとか、あの空気感が好き。
・市立図書館を利用しない

Q12　市立図書館にあるだれでも利用できる資料の中で、知っているものを選んでください。（いくつでも）



Q13　本の情報をどこから得ていますか。（いくつでも）



本を読むことの好ききらいと読書活動の相関性

1　設問

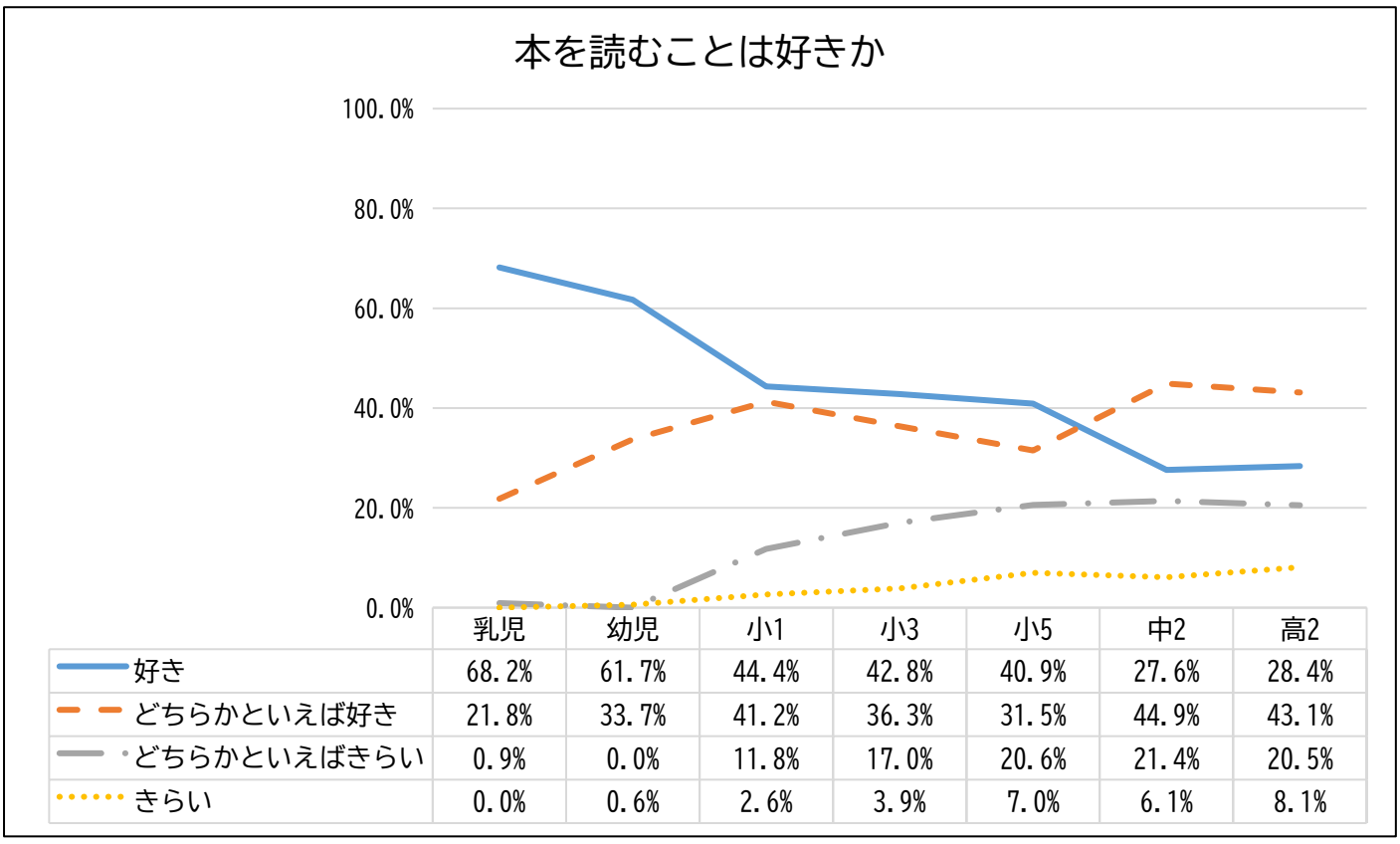
「本を読むことは好きですか。」

2　回答からの傾向

（1）　年齢が上がるにつれ、本を読むことがきらいな人が増えていく。小学校高学年頃から、読書が好きな子ときらいな子とで分かれ、読書へのイメージが固定されていく。

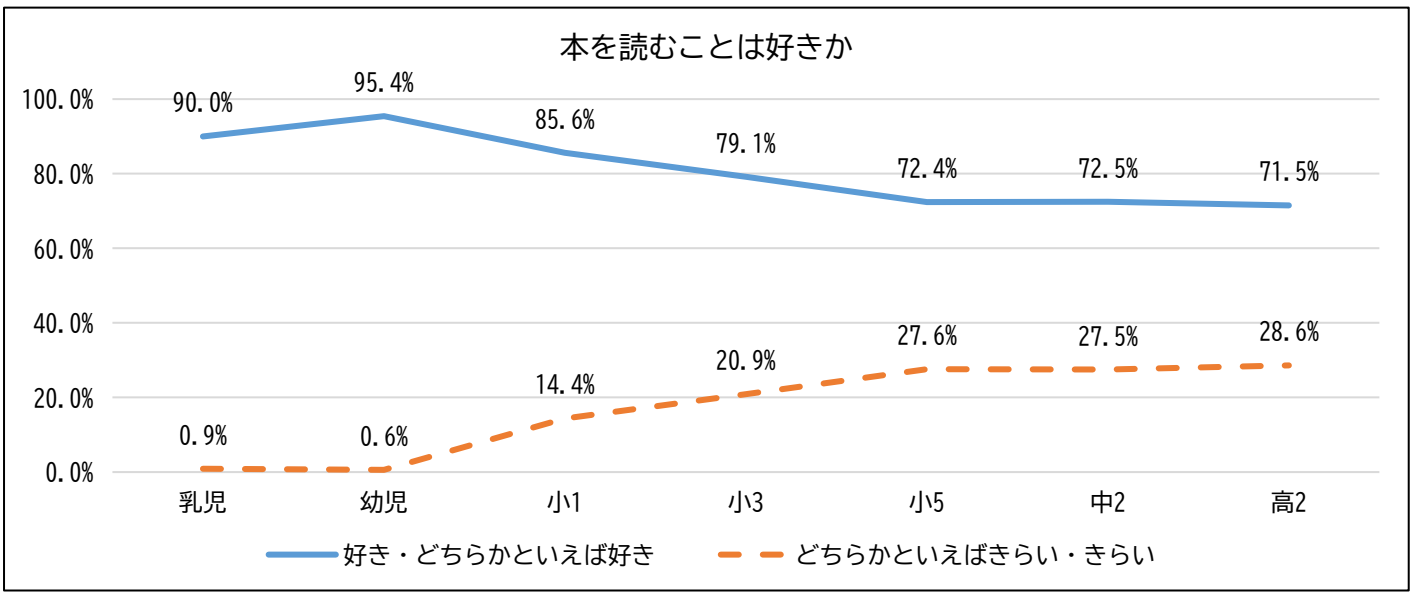
（2）　中学生・高校生になると、本を読むこと自体は好きだが、本を読まない人が増える。

3　集計結果

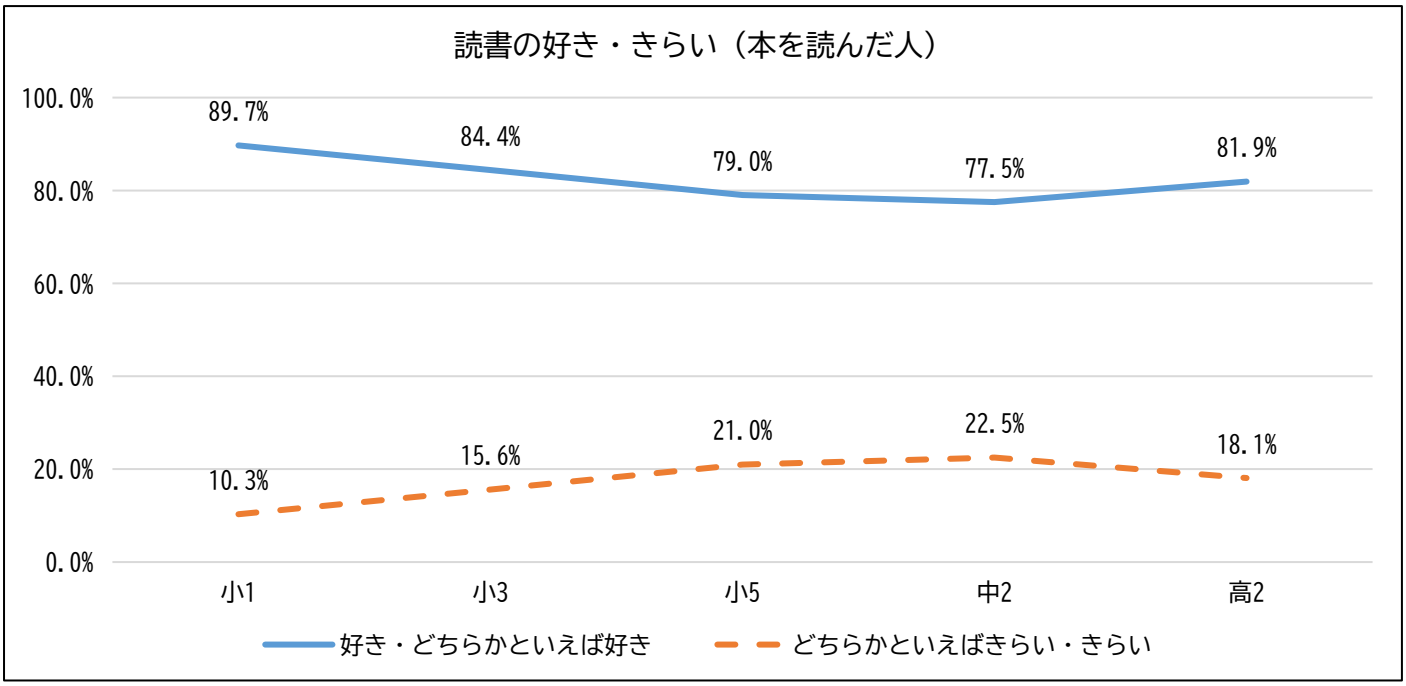


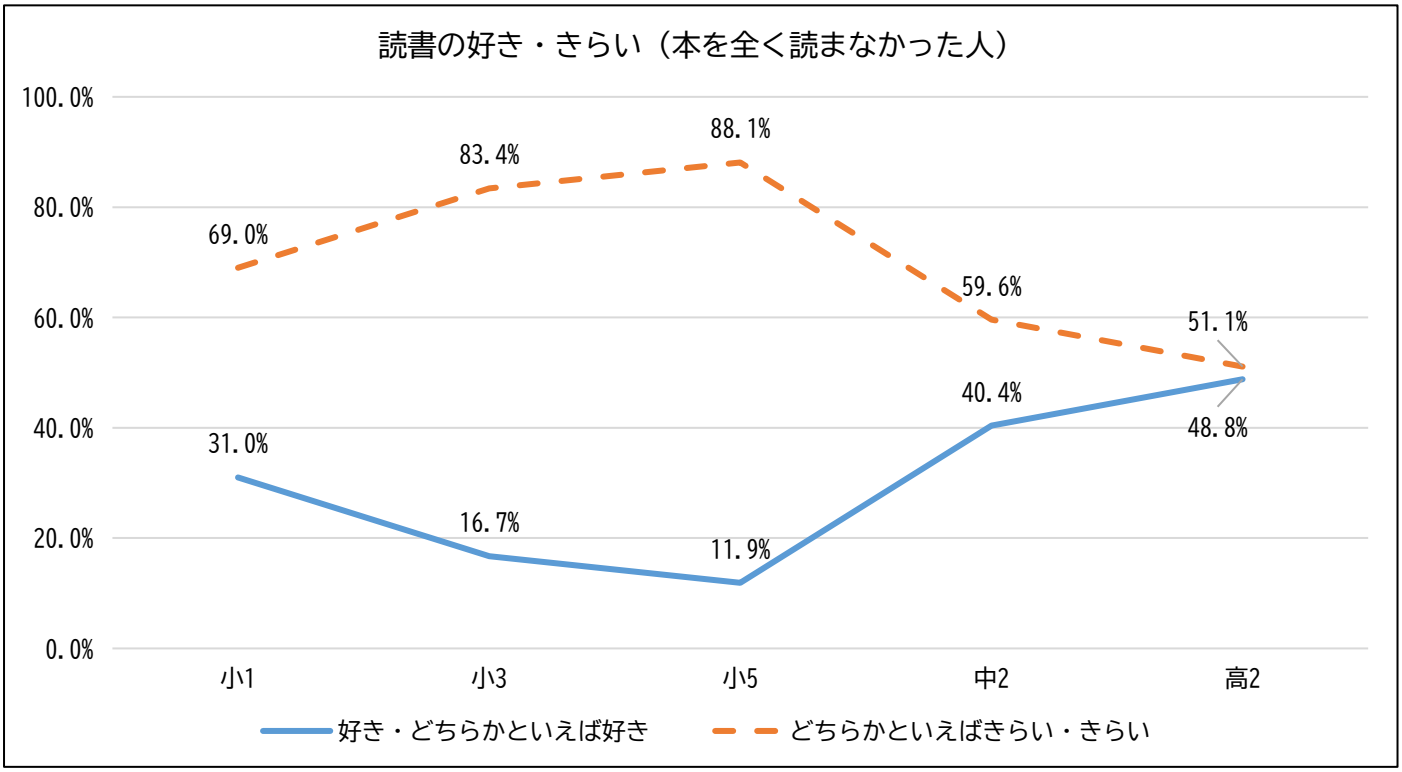
	乳児	幼児	小1	小3	小5	中2	高2
好き	68.2%	61.7%	44.4%	42.8%	40.9%	27.6%	28.4%
どちらかといえば好き	21.8%	33.7%	41.2%	36.3%	31.5%	44.9%	43.1%
どちらかといえばきらい	0.9%	0.0%	11.8%	17.0%	20.6%	21.4%	20.5%
きらい	0.0%	0.6%	2.6%	3.9%	7.0%	6.1%	8.1%

（参考）「好き・どちらかといえば好き」「きらい・どちらかといえばきらい」でまとめたもの



以下、クロス集計（「読書の好き／きらい」と「本を読んだ／読まなかった」）





本を読んだ人の「読書の好き／きらい」の数値は、ほぼ横ばいである一方、本を全く読まなかった人では、回答者の年齢で大きな違いが見られる。

小学校高学年までは、本を全く読まなかった人のうち、本が好きだと回答した人の割合は低いが、中学生・高校生になると、読書は好きだが本を全く読まなかった人が増える。

学校図書館や児童館等の日常的な活動場所における環境整備の重要性

1　設問

（1）「お子さんは、普段どこで本を読んでいますか。（いくつでも）」※小学生のみ

（2）「（お子さん（中高生は回答者本人）について、）あてはまるものを選んでください。（いくつでも）」
→「学校図書館を利用している」の回答者

（3）「本の情報をどこから得ていますか。（いくつでも）」→「学校図書館の発行紙や本棚」の回答者

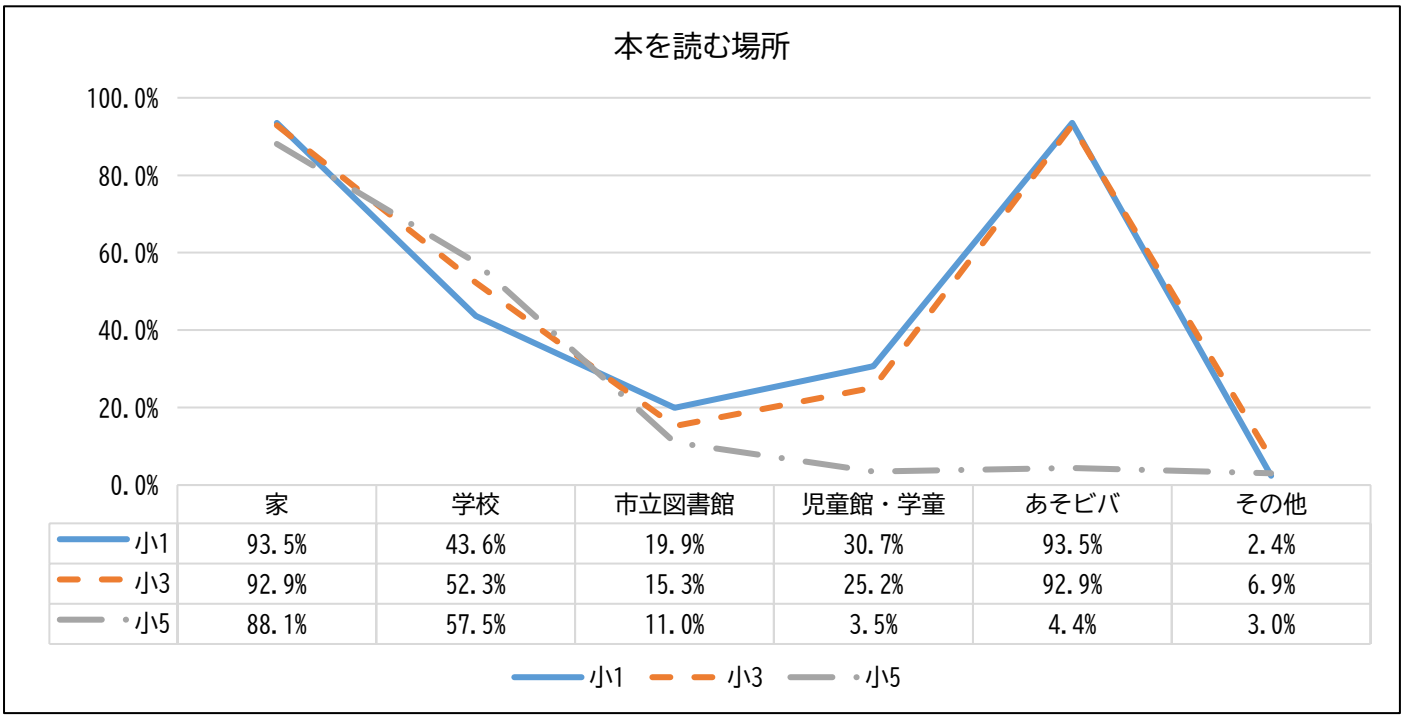
2　回答からの傾向

（1）小学生は学校で本を読むことが多く、6 割以上は学校図書館を利用している。

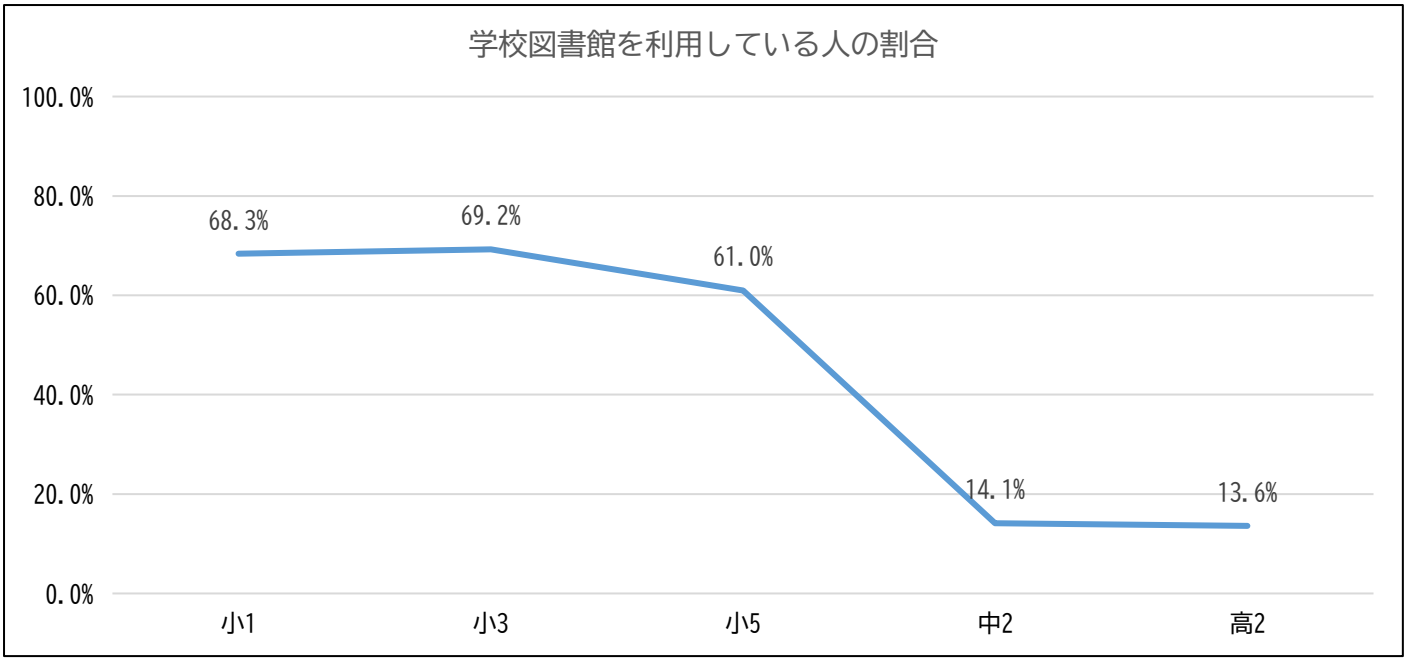
（2）小学校中学年までは、児童館・学童やあそビバで本を読む子どもが多い。施設内に低～中学年向けの本を充実させるなど、読書環境を整備する取組に効果がありそう。

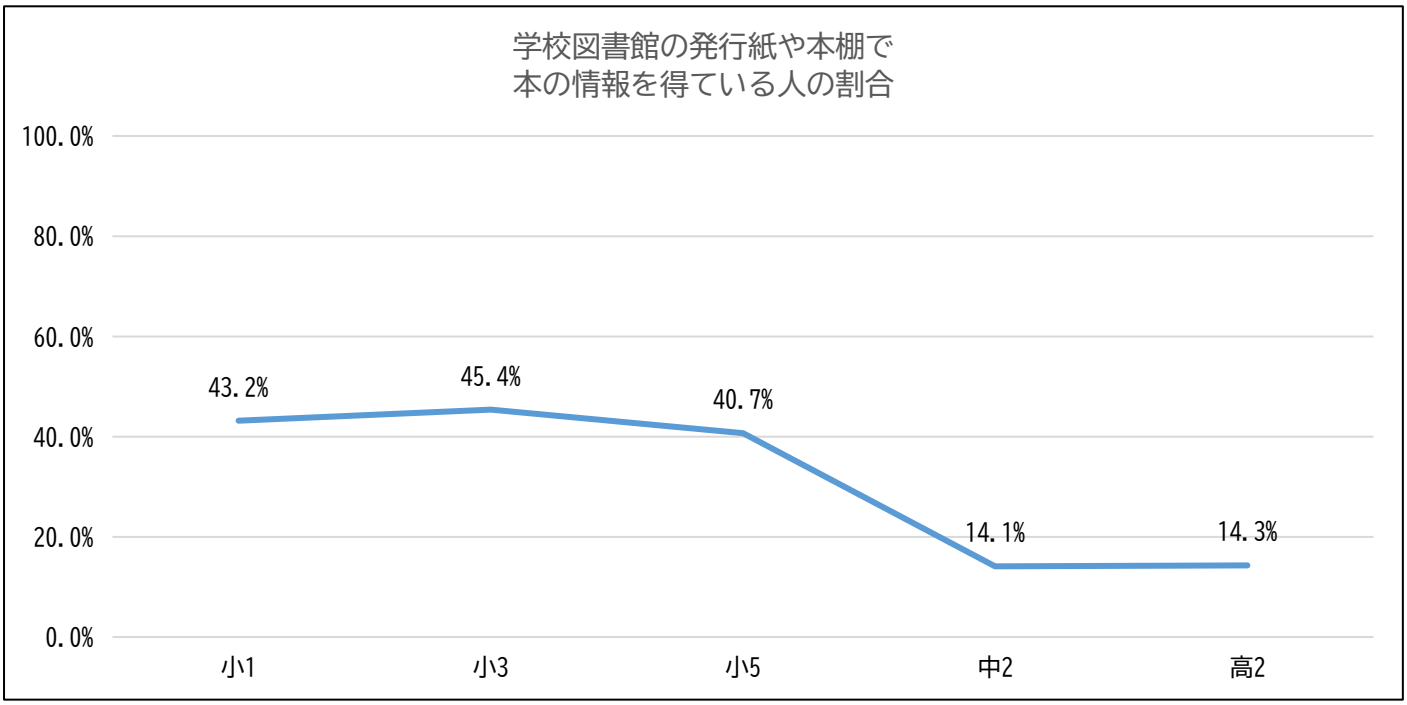
（3）中学生・高校生になると、学校図書室の利用者は少なくなる。

3　集計結果



	家	学校	市立図書館	児童館・学童	あそビバ	その他
小1	93.5%	43.6%	19.9%	30.7%	93.5%	2.4%
小3	92.9%	52.3%	15.3%	25.2%	92.9%	6.9%
小5	88.1%	57.5%	11.0%	3.5%	4.4%	3.0%





（参考）年代別回答上位の比較

	乳児(保護者)	幼児（保護者）	小１	小３	小５	中２	高２
１位	各種 SNS・インターネット	各種 SNS・インターネット	学校図書館の発行紙や本棚	学校図書館の発行紙や本棚	身近な人からの紹介	各種 SNS・インターネット	各種 SNS・インターネット
２位	市立図書館の紹介（展示やおすすめの本のリスト含む）	市立図書館の紹介（展示やおすすめの本のリスト含む）	身近な人からの紹介	書店で見て	学校図書館の発行紙や本棚	身近な人からの紹介	書店で見て
３位	書店で見て	書店で見て	書店で見て	身近な人からの紹介	書店で見て	書店で見て	身近な人からの紹介

対象の年代に応じた広報・ＰＲの重要性

１　設問

「本の情報をどこから得ていますか。（いくつでも）」

２　回答からの傾向

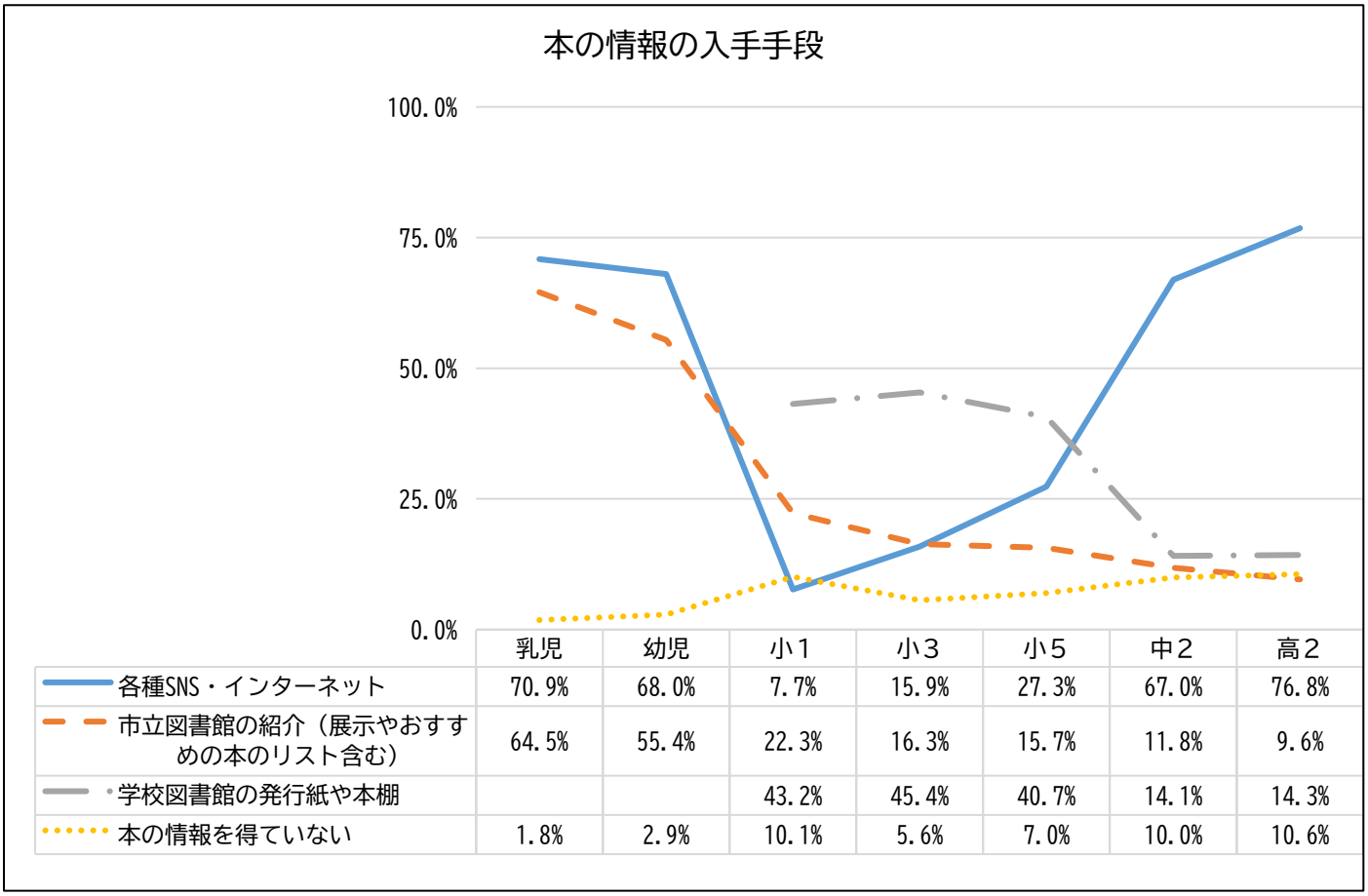
（1）　乳幼児の保護者及び中学生・高校生は、主に各種 SNS・インターネットから本の情報を得ている。

（2）　小学生は、学校図書館や身近な人の存在が大きい。

（3）　乳幼児の保護者の半数以上は、市立図書館の紹介（展示やおすすめの本のリスト含む）により、本の情報を得ている。

（4）　本の情報を得ていない人は、どの年代でも０～１割程度である。

３　集計結果



	乳児	幼児	小１	小３	小５	中２	高２
各種SNS・インターネット	70.9%	68.0%	7.7%	15.9%	27.3%	67.0%	76.8%
市立図書館の紹介（展示やおすすめの本のリスト含む）	64.5%	55.4%	22.3%	16.3%	15.7%	11.8%	9.6%
学校図書館の発行紙や本棚			43.2%	45.4%	40.7%	14.1%	14.3%
本の情報を得ていない	1.8%	2.9%	10.1%	5.6%	7.0%	10.0%	10.6%

（参考）年代別回答上位の比較

	乳児(保護者)	幼児（保護者）	小１	小３	小５	中２	高２
１位	各種 SNS・インターネット	各種 SNS・インターネット	学校図書館の発行紙や本棚	学校図書館の発行紙や本棚	身近な人からの紹介	各種 SNS・インターネット	各種 SNS・インターネット
２位	市立図書館の紹介（展示やおすすめの本のリスト含む）	市立図書館の紹介（展示やおすすめの本のリスト含む）	身近な人からの紹介	書店で見て	学校図書館の発行紙や本棚	身近な人からの紹介	書店で見て
３位	書店で見て	書店で見て	書店で見て	身近な人からの紹介	書店で見て	書店で見て	身近な人からの紹介

読書習慣に対する読み聞かせ経験の影響

1　設問

「(お子さん（中高生は回答者本人）について、）あてはまるものを選んでください。」

2　回答からの傾向

小学校中学年までは、読み聞かせをしてもらった経験が、現在読書をしているかに影響している。

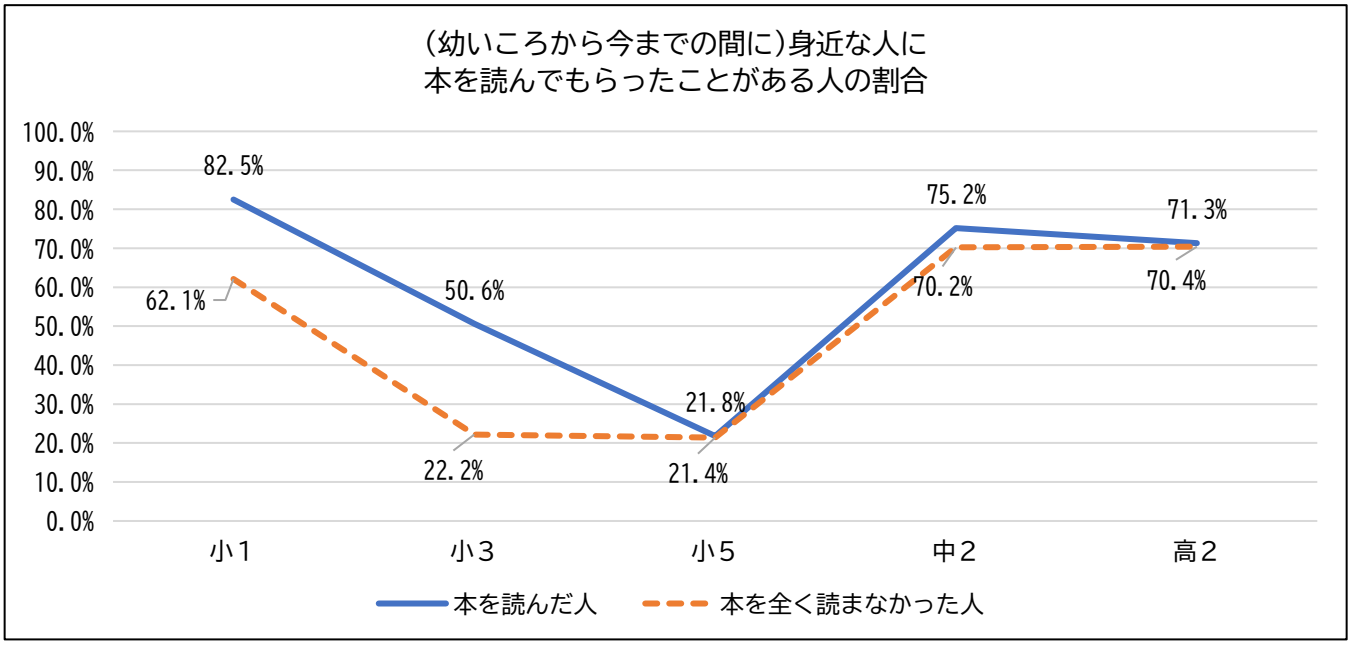
また、どの年代でも、本を読んだ人の方が読み聞かせをしてもらった割合が高く、読み聞かせの経験が読書習慣の形成に影響している。

3　集計結果

(1)　設問「(お子さん（中高生は回答者本人）について、）あてはまるものを選んでください。」

小学生「身近な人（家族・先生・友達）に本を読んでもらったことがある」

中学生・高校生「幼いころから今までの間に，身近な人（家族・先生・友達）に本を読んでもらったことがある」



身近な人に本を読んでもらったことがある人の割合は、小学１年生と３年生では「本を読んだ人」と「本を全く読まなかった人」で大きく差がある。一方で、小学５年生以降はほとんど差がなくなる。読み聞かせをしてもらった経験が、現在読書をしているかに影響するのは、中学年までであるといえる。

（参考）東京都教育委員会「令和６年度　子供読書活動推進に関する調査」

・「身近な人(家族・先生・友達)に本を読んでもらったことがある」と答えた人の割合

	小1	小3	小5	中2	高2
読み終わった本が１冊以上ある	84.7%	51.8%	28.3%	11.2%	9.3%
途中まで読んだ本はある	71.7%	45.1%	24.9%	7.1%	7.7%
本を全く読まなかった人	67.7%	33.3%	17.9%	4.5%	4.2%

身近な人との本を通したコミュニケーションや読書に結びつく活動・環境の重要性

1　設問

「(お子さん（中高生は回答者本人）について、）あてはまるものを選んでください。」

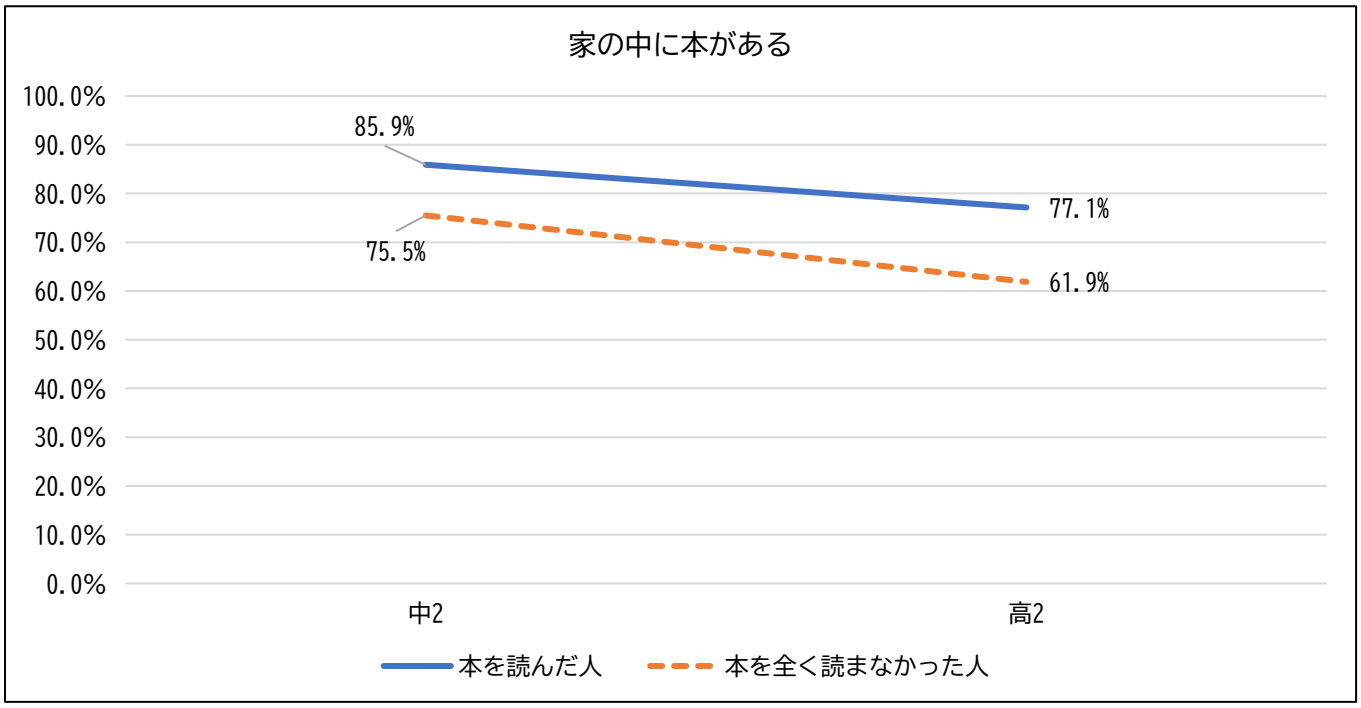
2　回答からの傾向

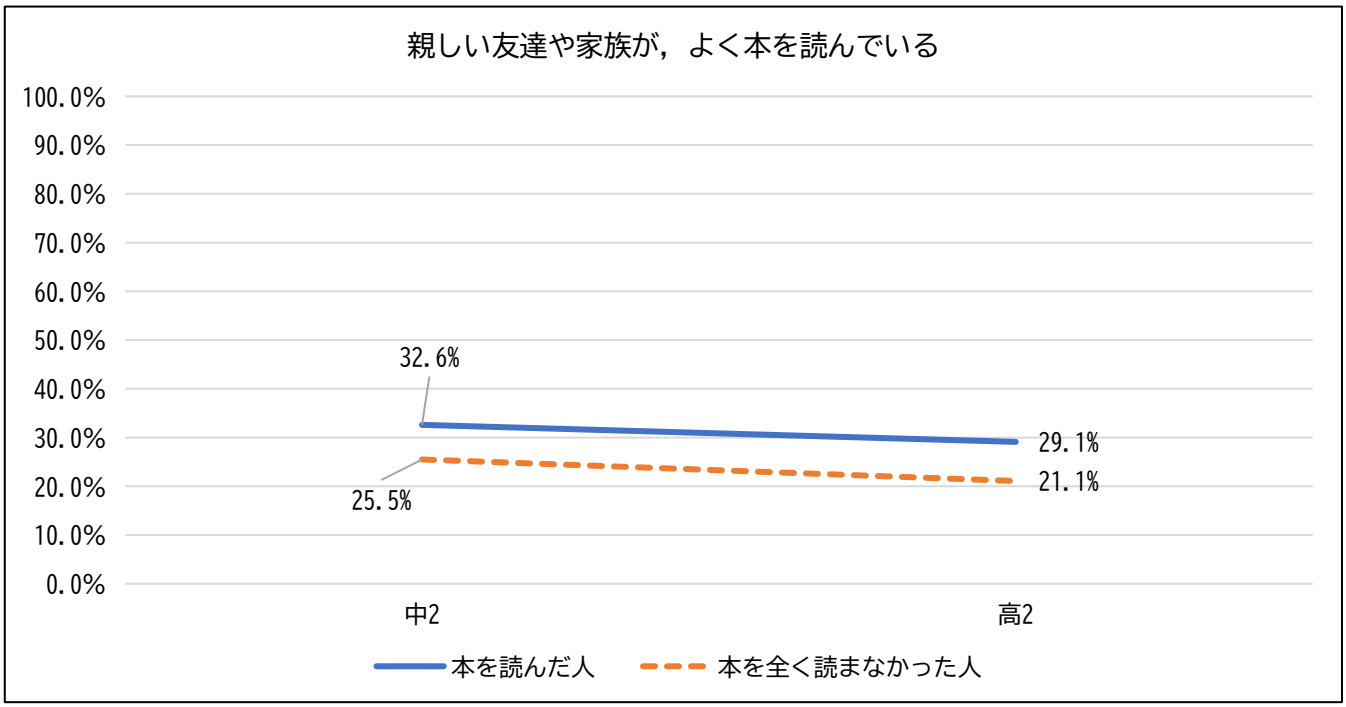
子どもが本を読むには、ただ身近に本があるということだけではなく、本を通したコミュニケーションができる人がいることが重要である。特に小学生にとっては、家庭における読書に結びつく活動や環境が、本を読むことに大きく影響する。

3　集計結果

(1)　設問「(お子さん（中高生は回答者本人）について、）あてはまるものを選んでください。」

中学生・高校生「家の中に本がある」「親しい友達や家族が、よく本を読んでいる」



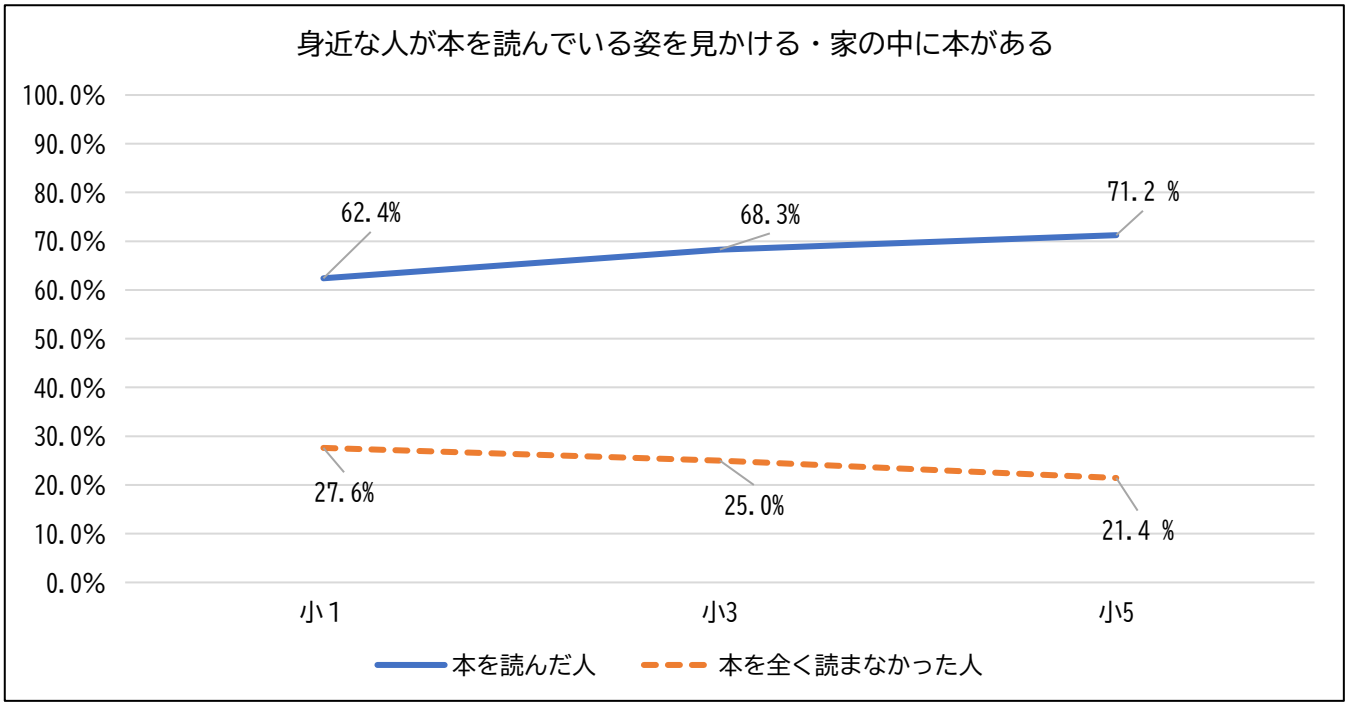


家の中に本があると答えた人の割合は、本を読んだ人と全く読まなかった人のどちらも、60%をこえている。また、その差は 10～15%程度であり、半数以上の人の家には本があることから、本があるだけでは読書につながらないということがわかる。

また、親しい友達や家族が本を読んでいると答えた人の割合も、本を読んだ人と読まなかった人で、大きな差はみられなかった（10%未満）。中高生においては、身近な人が読書をしていることも多少影響するが、本人の趣味・嗜好がある程度固まっているため、読書時間の確保や宿題・課題への本の活用促進など、多方面からのアプローチが必要である。また、本が家の中にあるにもかかわらず、身近な人（家族など）が本を読んでいると答えた人が 35%未満であることから、家庭への読書活動の推進も重要である。

(2) 設問「(お子さん（中高生は回答者本人）について、) あてはまるものを選んでください。」

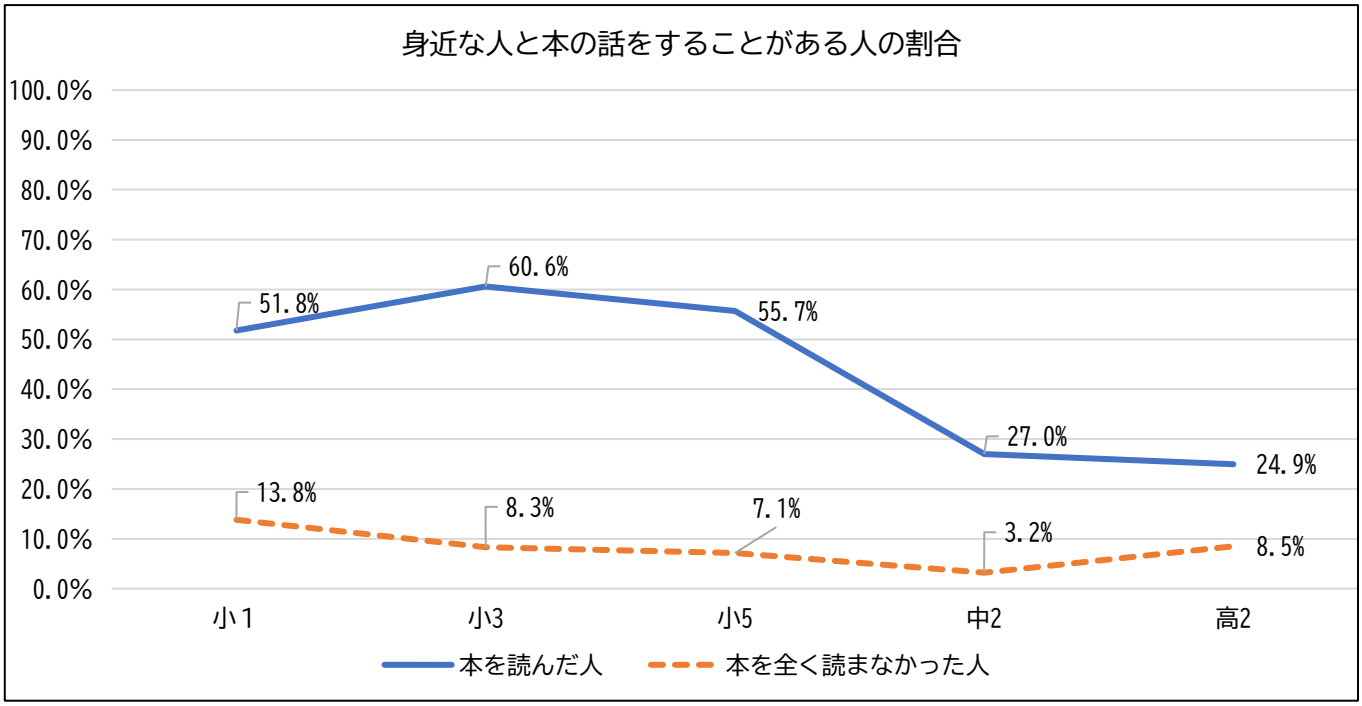
小学生「身近な人が本を読んでいる姿を見かける・家の中に本がある」

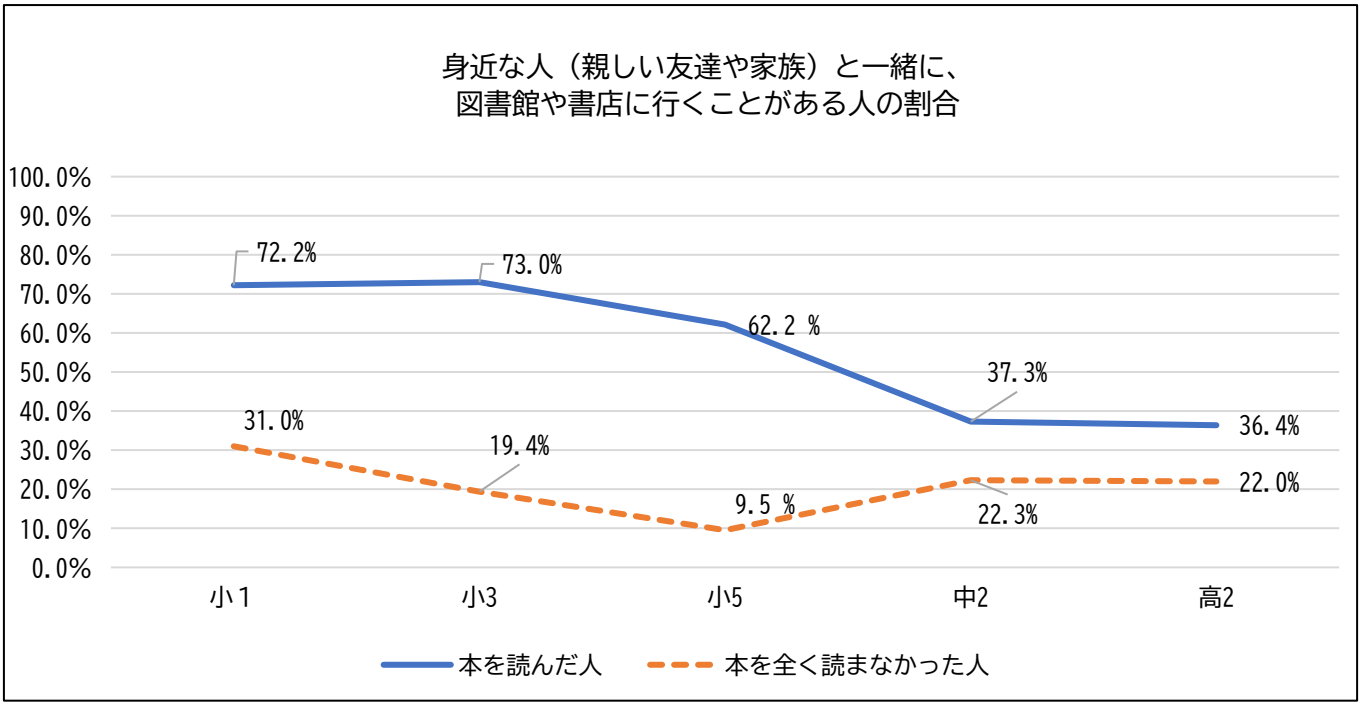


一方で、小学生においては、「身近な人が本を読んでいる姿を見かける」・「家の中に本がある」と答えた人の割合は、本を読む人と読まなかった人で、大きな差がみられる。

(3)　設問「(お子さん（中高生は回答者本人）について、）あてはまるものを選んでください。」

全学年「身近な人と本の話をすることがある」、「身近な人（親しい友達や家族）と一緒に、図書館や書店に行くことがある」





「身近な人と本の話をすることがある」と答えた人の割合についても、すべての年代において、本を読んだ人と読まなかった人で差が出る結果となった。中学生・高校生ではやや差が縮まるが、ほかの選択肢と比べるとその差は大きく、本の話ができる身近な人の存在は重要といえる。

また、「身近な人（親しい友達や家族）と一緒に、図書館や書店に行くことがある」と答えた人の割合も、小学生では、本を読んだ人と読まなかった人で 40%以上の差があった。中学生以上では、差は縮まるものの、およそ 15%の差がでており、この選択肢からも、身近な人と共に本に触れる機会があることが重要だとわかる。

電子図書について

1　設問

（1）　設問「読んだ本の中に電子書籍はありますか」

（2）　設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

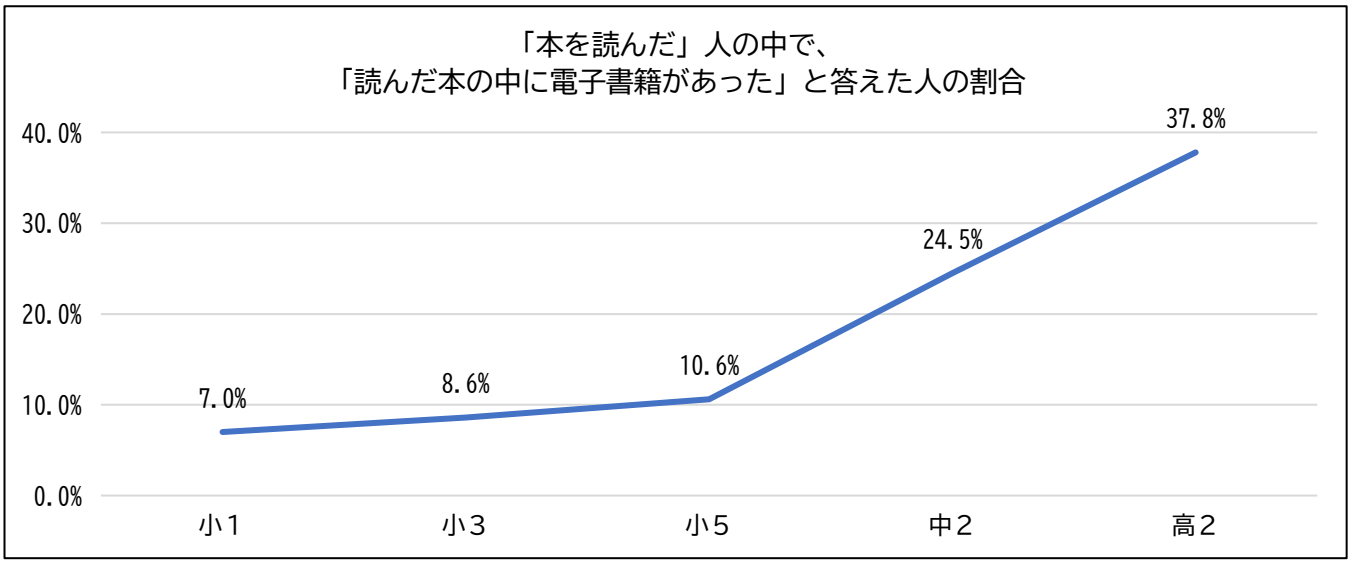
2　回答からの傾向

どの年代においても電子図書を利用している人がいる一方で、図書館へのニーズは低い。

3　集計結果

（1）　設問「読んだ本の中に電子書籍はありますか」

全学年「はい」（読んだ本の中に電子書籍があった）



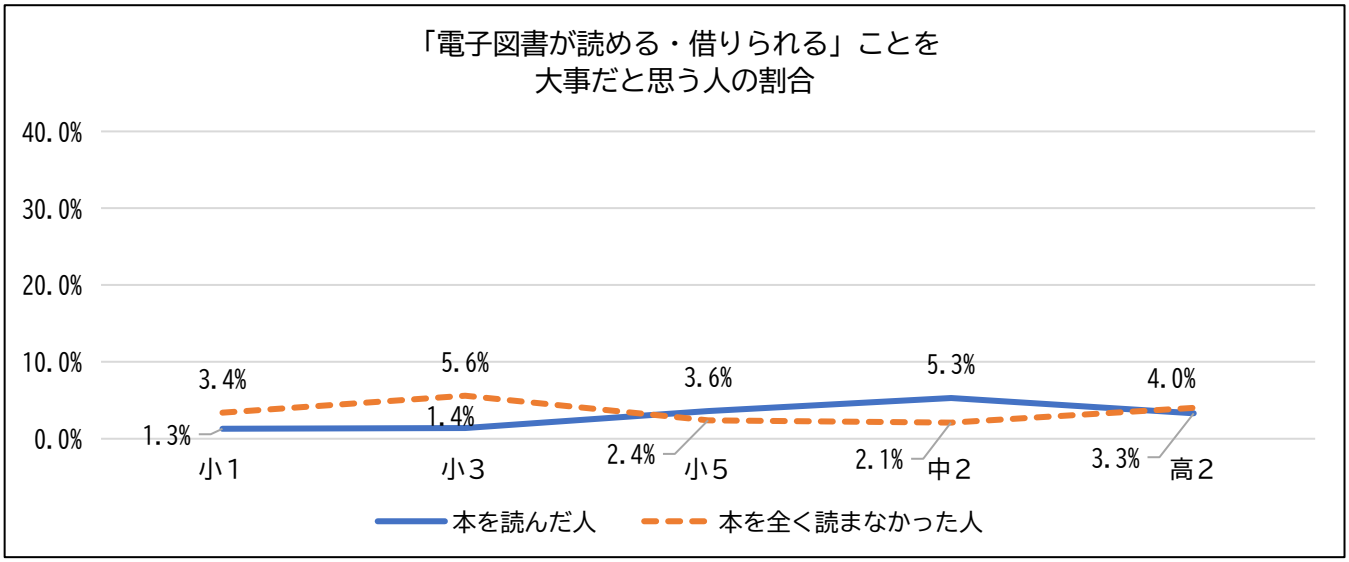
（参考）東京都教育委員会「令和６年度　子供読書活動推進に関する調査」

・「本を読んだ」人のなかで、「読んだ本の中に電子書籍があった」と答えた人の割合

小１	小３	小５	中２	高２
17.7%	18.1%	22.9%	28.2%	33.7%

（2）　設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

全学年「電子図書が読める・借りられる」



年齢が上がるにつれて、電子図書を読む人の割合は増えているが、「電子図書が読める・借りられる」ことが図書館にとって大事だと思う人の割合は、どの年代も 6%未満にとどまっている。

図書館における居場所機能の重要性

1　設問

（1）　設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

（2）　設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

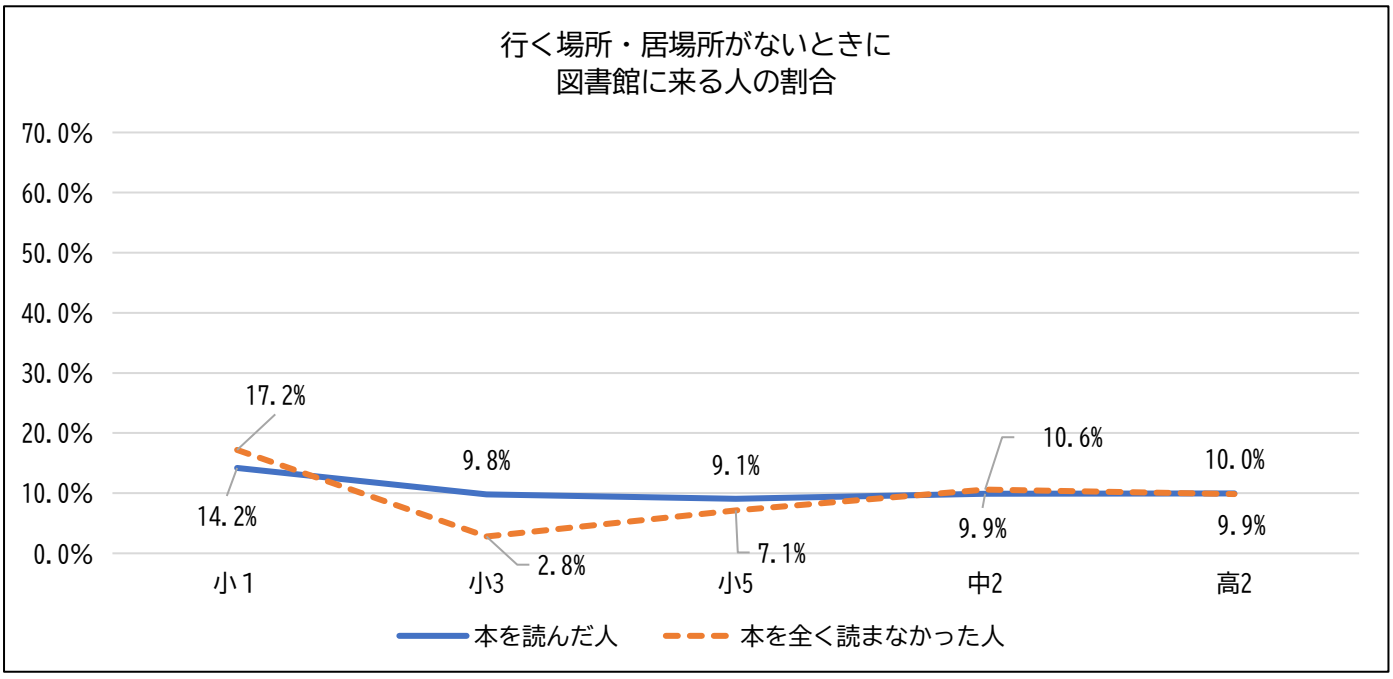
2　回答からの傾向

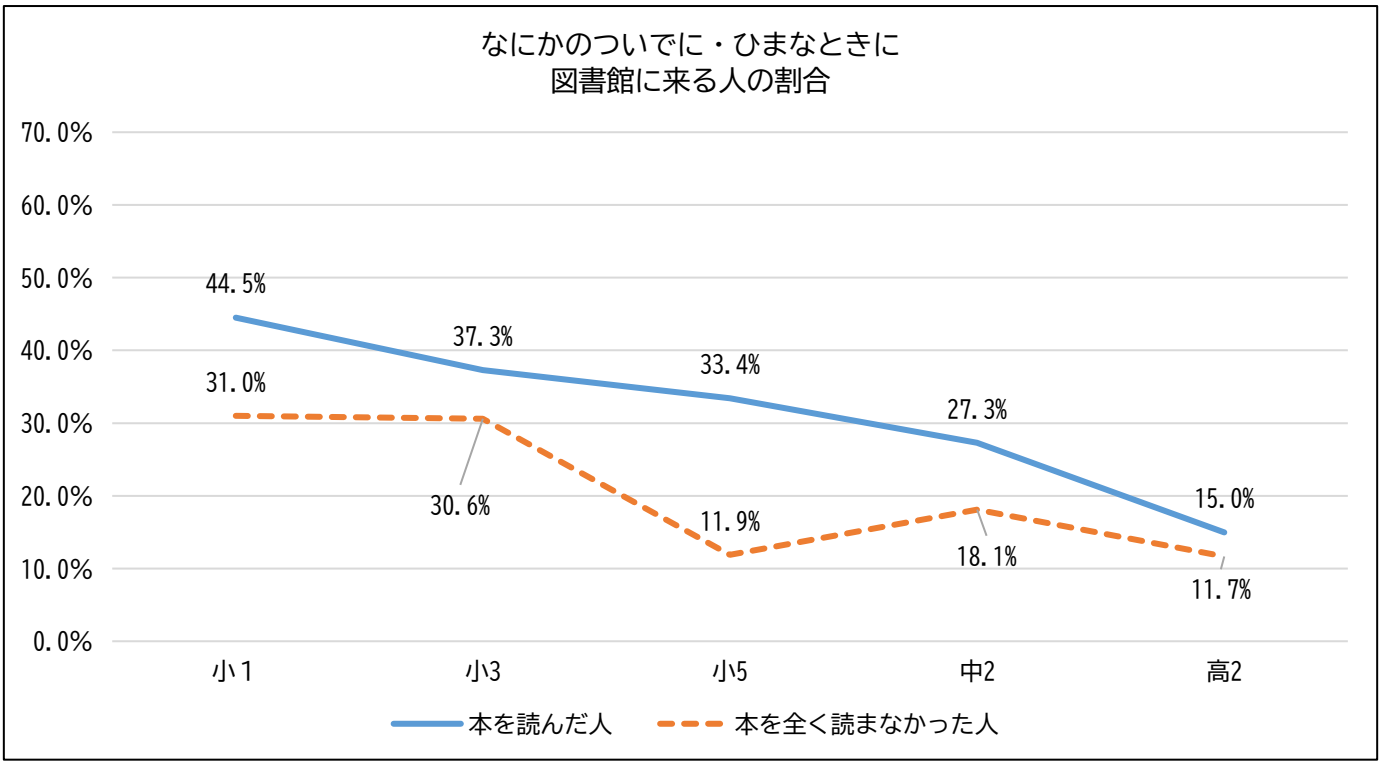
図書館は、子どもたちの居場所として活用されている。また、本を全く読まなかった人にも、読書や勉強ができる居場所として求められており、特に、勉強ができるスペースであることについては、中学生・高校生のニーズが高い。

3　集計結果

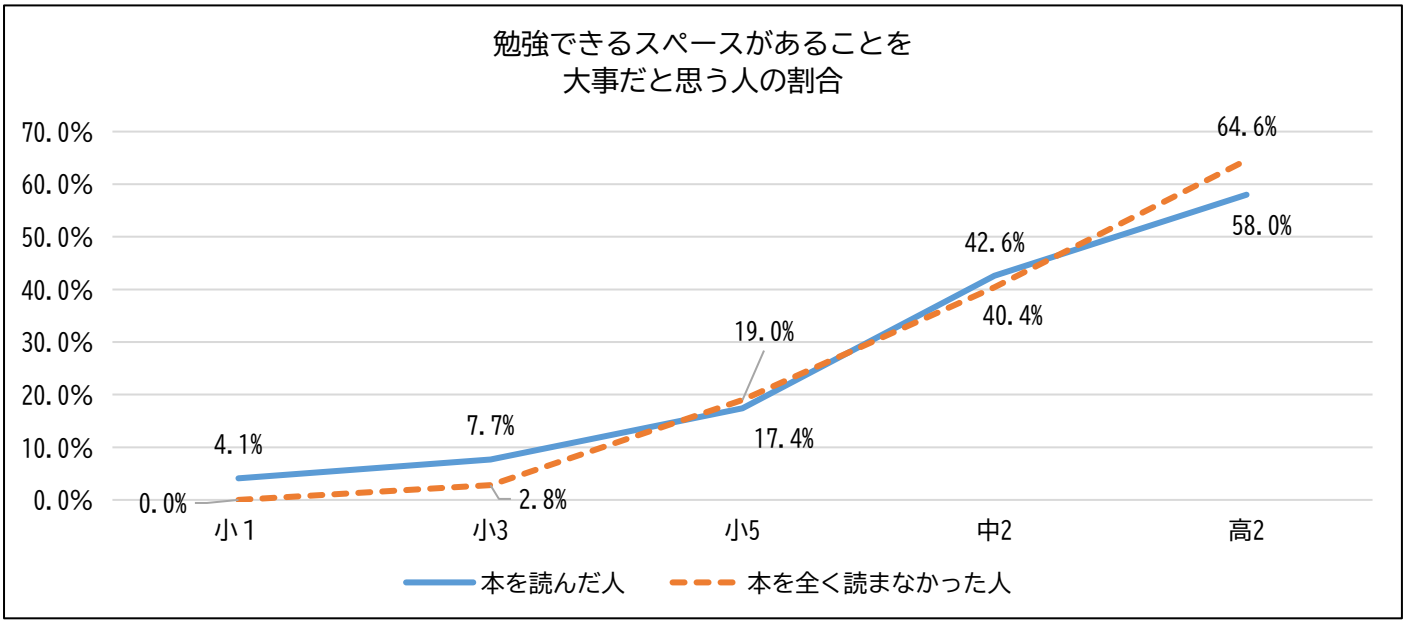
（1）　設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

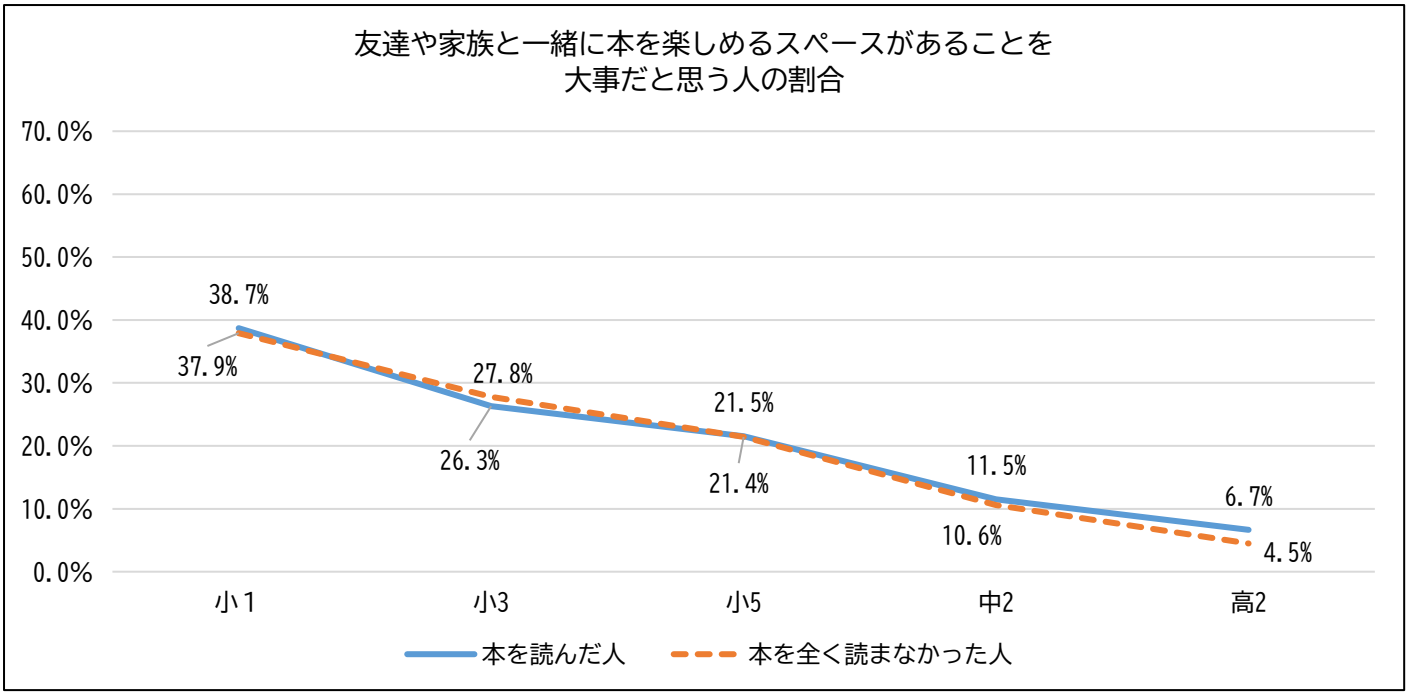
全学年「行く場所・居場所がないとき」「なにかのついでに・ひまなとき」

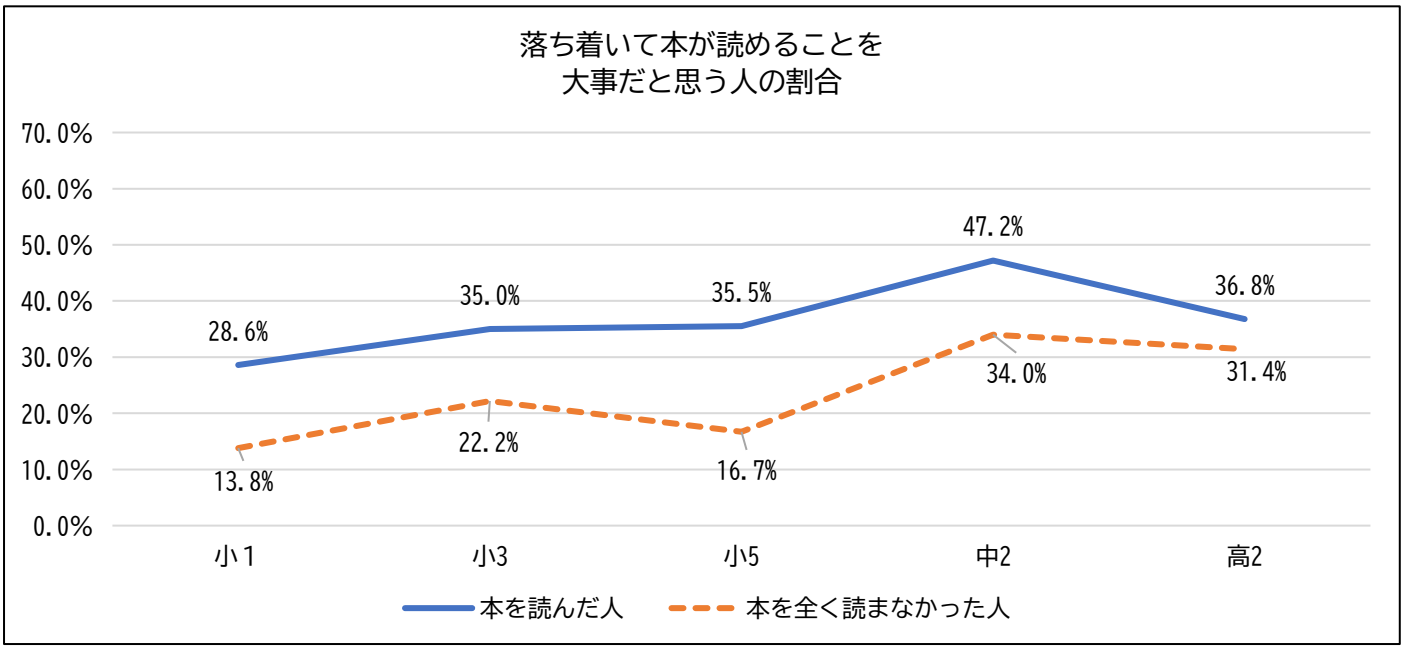




（2） 設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」
全学年「勉強できるスペースがある」、「友達や家族と一緒に本を楽しめるスペースがある」
「落ち着いて本が読める」







年代や本を読んでいるか・いないかに関係なく、「行く場所・居場所がないとき」や「なにかのついでに・ひまなとき」に図書館へ来館している。

また、図書館に大事だと思うものとして、「勉強できるスペースがある」を選択した人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっていく。特に高校生は、本を読んでいるか・いないかに関係なく 50%以上の人が勉強できるスペースを求めており、本を全く読まなかった人の方が、読んだ人よりも数値が高い。一方で、「友達や家族と一緒に本を楽しめるスペースがある」を選択した人の割合は、年齢の低い方が高い。どちらの選択肢も、本を読んだ人と全く読まなかった人では、大きな差はなかった。「落ち着いて本が読める」ことも、年代や本を読んでいるか・いないかに関係なく求められている。

図書館が、居場所として活用されていること・読書や勉強ができる居場所として求められていることがわかる。

図書館が開催するイベントの課題（広報・ニーズ把握）

1　設問

（1）　設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

（2）　設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

2　回答からの傾向

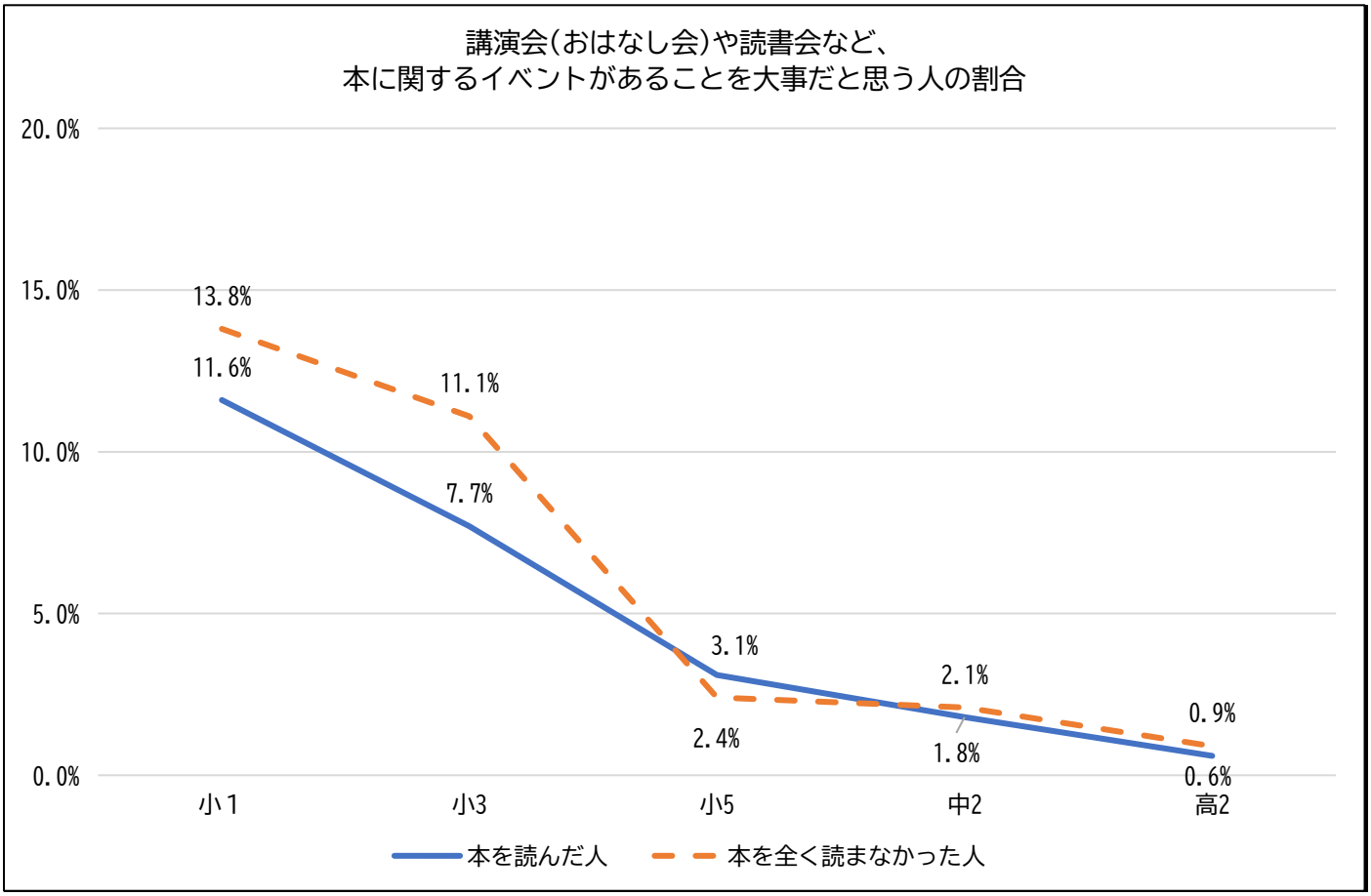
図書館が本に関するイベントを開催することは求められているが、本を読んでいない人が来館する理由にはつながっていない。必要な人へ情報が届いていない可能性や、本を読んでいない人が抱えるニーズを捉えきれていないことが考えられる。

3　集計結果

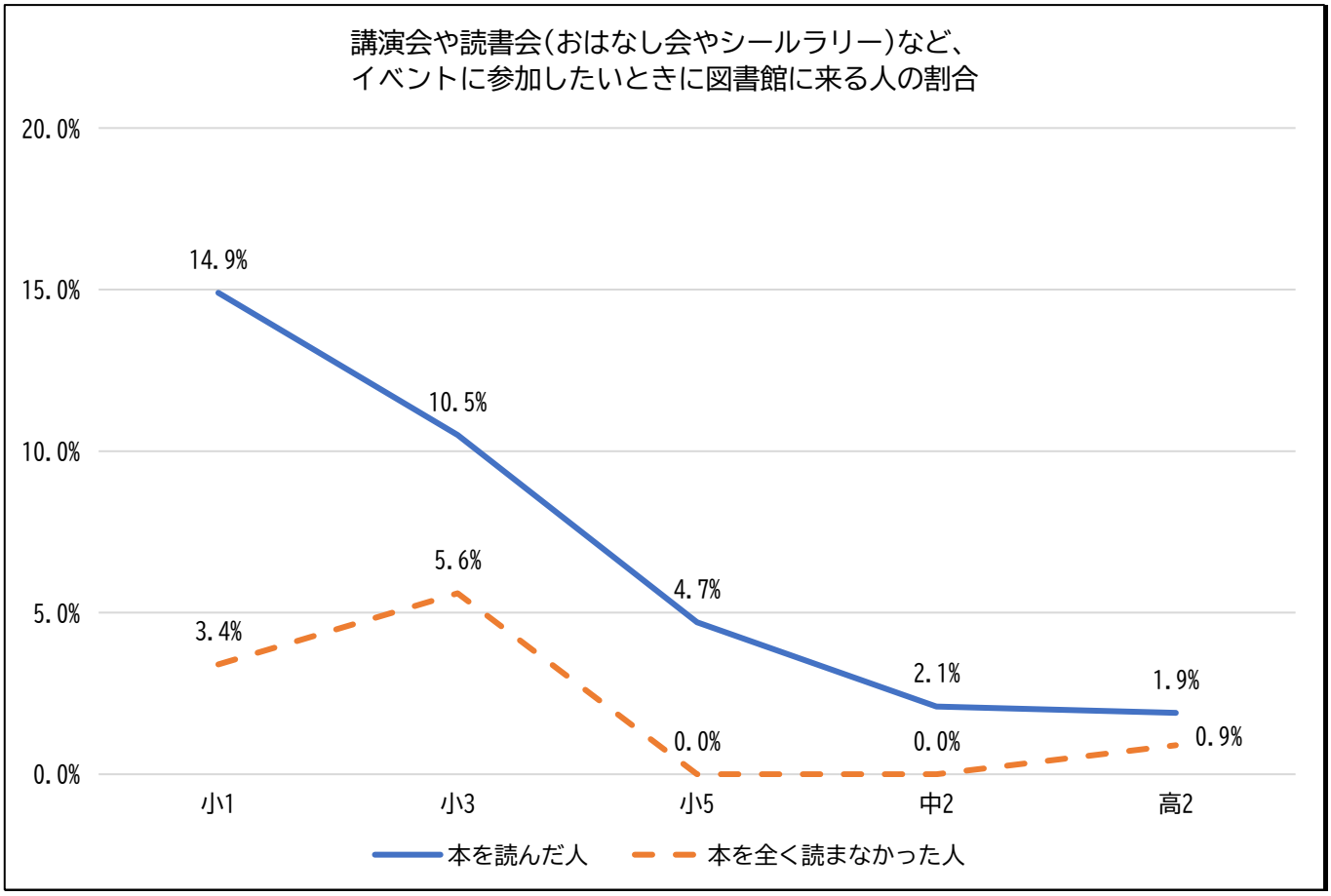
（1）　設問「市立図書館に大事だと思うものは何ですか。」

小学生「おはなし会や読書会など、本に関するイベントがある」

中学生・高校生「講演会や読書会など、本に関するイベントがある」



(2)　設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」
　　小学生「おはなし会やシールラリーなど、イベントに参加したいとき」
　　中学生・高校生「講演会や読書会など、イベントに参加したいとき」



図書館に大事だと思うものとして、「講演会(おはなし会)や読書会など、本に関するイベントがある」を選択した人の数は、本を全く読まなかった人の方が多い。高学年になるにつれ、数値自体が下がる傾向はあるが、本を読んだ人の方が本を全く読まなかった人を上回ったのは小学５年生のみであった。本を全く読まなかった人も、図書館にイベントの開催を求めていることがわかる。

一方、図書館への来館理由として「イベントに参加したいとき」を選択した人は、全学年を通して、本を全く読まなかった人より、本を読んだ人の割合が高い。本を読んだ人は、イベントの参加のために図書館を利用することがあるということがわかる。また、本を全く読んでいない人は、図書館にイベントの実施を求めている割合が読んだ人よりも高い傾向にある一方で、来館する理由にはつながっていないことがわかる。

調べものに対する情報収集手段の使い分け

1　設問

「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

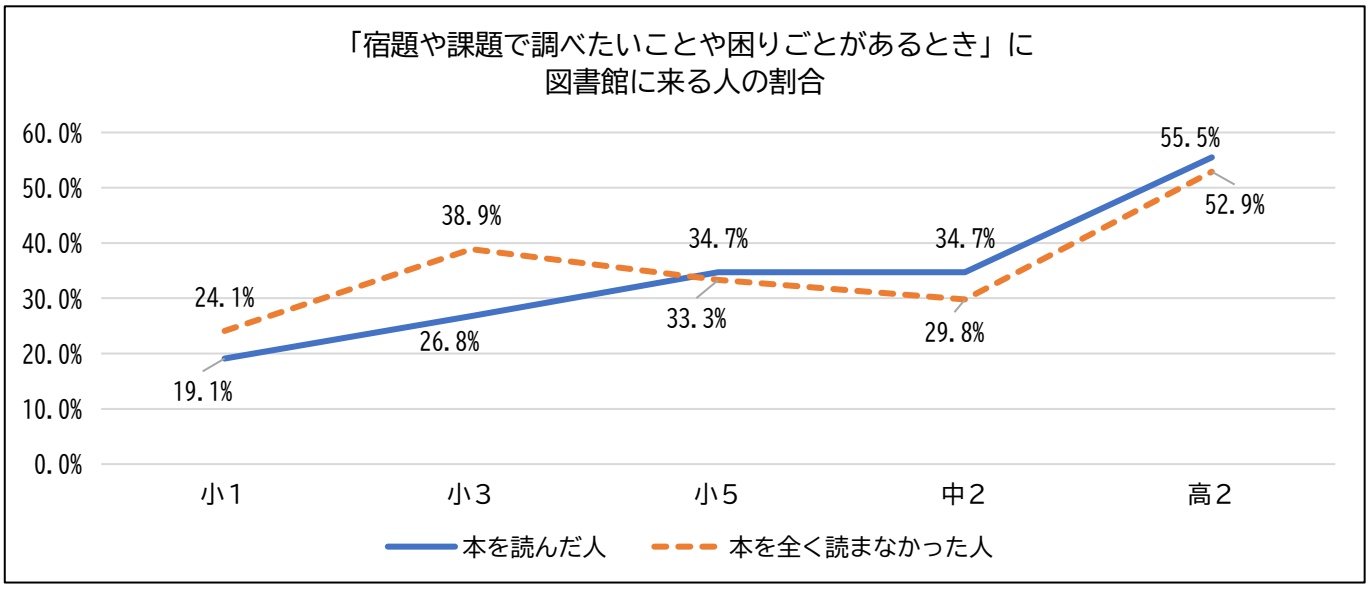
2　回答からの傾向

何を調べるかによって、本とそれ以外の媒体を使い分けている。宿題や課題について調べるときは本を使い、生活の中で生じた知りたいことや困りごとを調べるときは、本以外の媒体（スマートフォン等）を使っている。

3　集計結果

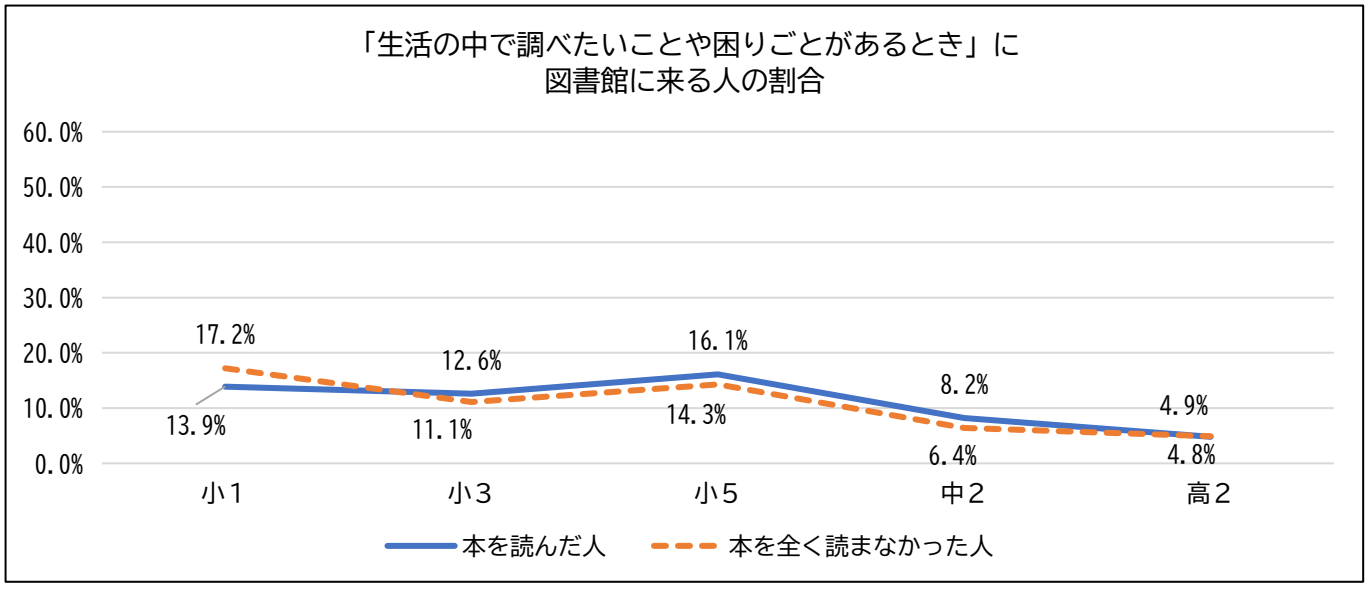
（1）　設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

全学年「宿題や課題で調べたいことや困りごとがあるとき」



（2）　設問「市立図書館を使いたいと思うのはどんなときですか。」

全学年「生活の中で調べたいことや困りごとがあるとき」



年代が上がるにつれて、宿題や課題の調べものでは、本にあたる割合が高くなっていくことがわかる。特に高校生は、本を読んでいるか・いないかに関係なく、半数以上の人が宿題や課題で本にあたっている。

一方で、「生活の中で調べたいことや困りごとがあるとき」は、年代や本を読んでいるか・いないかに関係なく、来館理由としては低い割合になっている。生活の中で調べたいことがあるときは、本以外の媒体（スマートフォン等）を使っていると考えられる。

５　中学生・高校生対象図書館アンケート結果

結果報告

１　調査名

中学生・高校生対象図書館アンケート

２　調査期間

令和５年11月13日（月）から12月15日（金）まで

３　調査対象

調布市内の学校に通う中学生・高校生（市立中学校８校、私立中学校４校、都立高校３校、私立高校４校）および調布市立図書館を利用する中学生・高校生

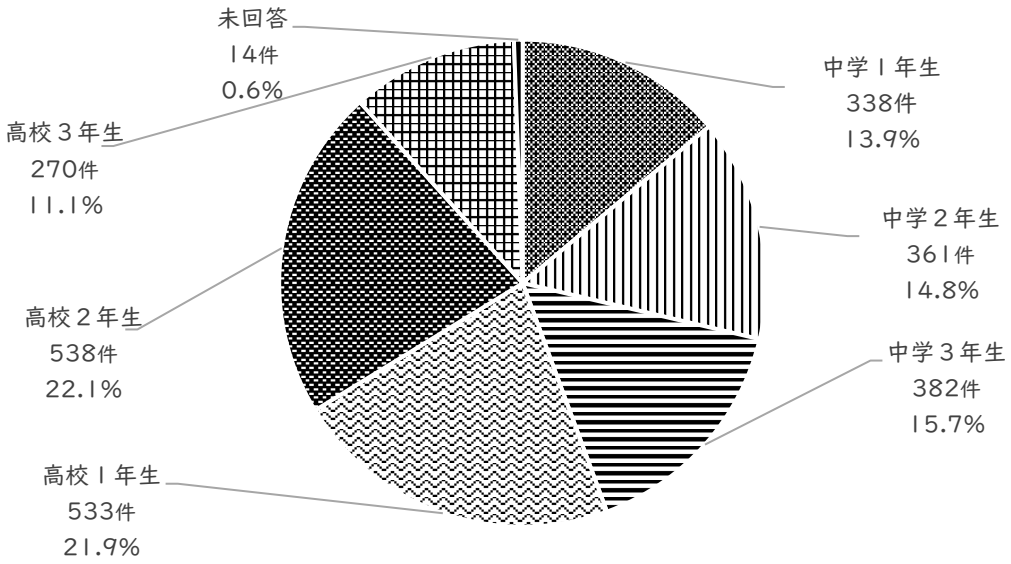
４　調査方法

市内公立中学校及び明治大学付属明治中学校・高等学校については、アンケート用紙を全校配布し、回答を依頼した。ドルトン東京学園については、学校で使用している電子機器を使って生徒へ配信し、回答を依頼した。その他の学校へはインターネット回答用のＱＲコードがついたポスター、しおりを学校宛に配布し回答を依頼した。

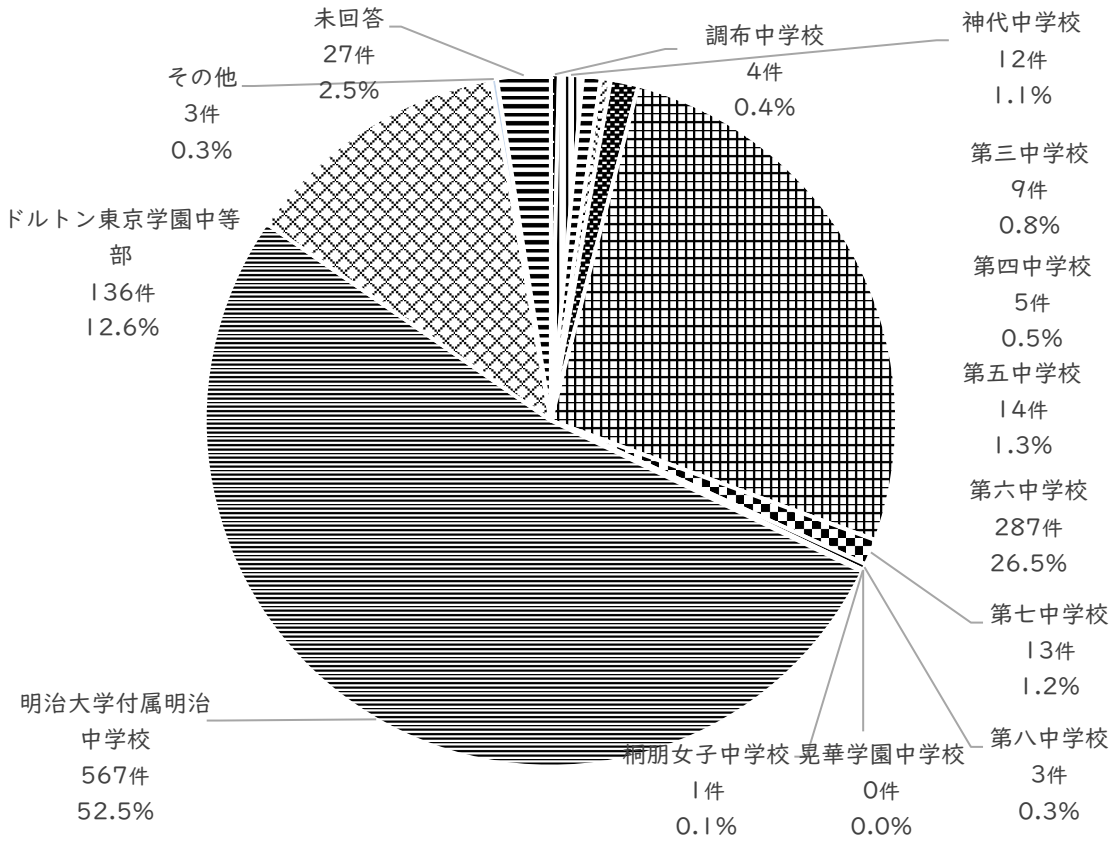
５　回答数

２，４３６件

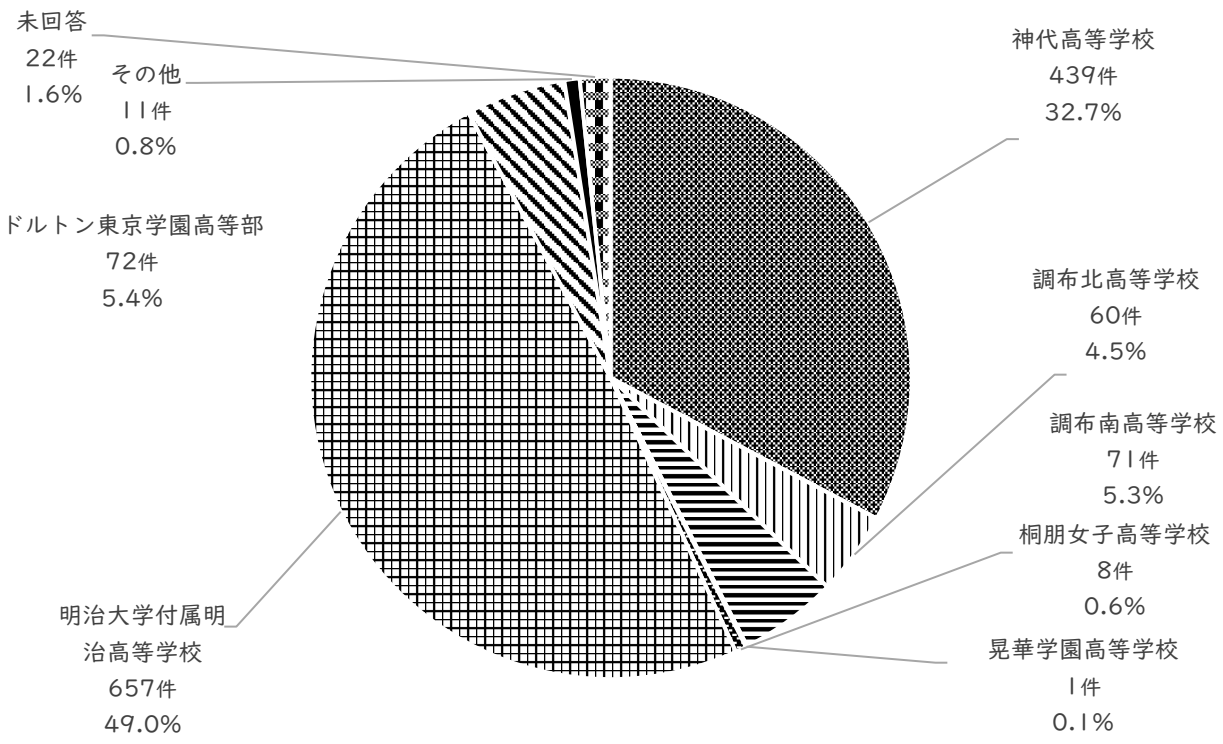
Q1　あなたの学年を教えてください



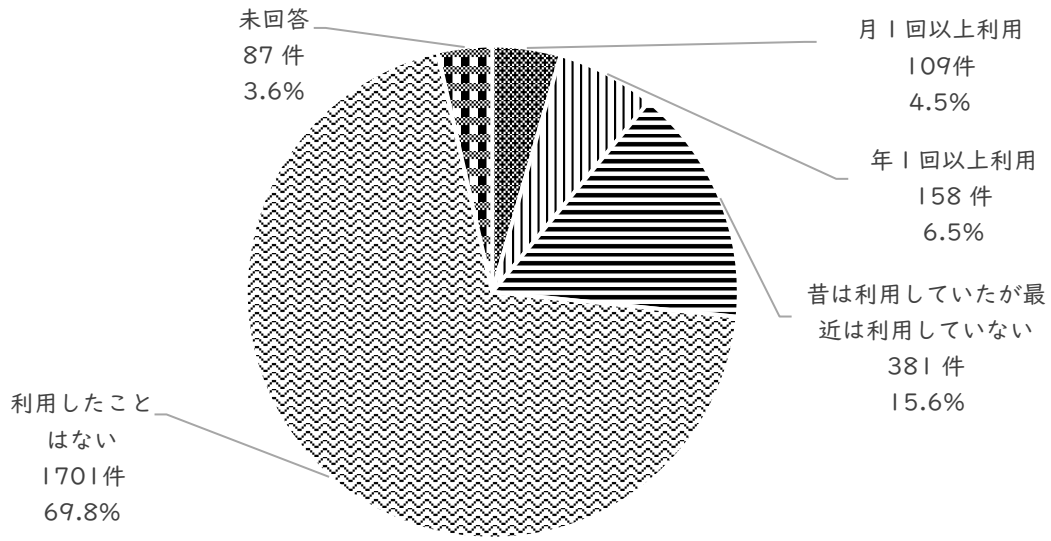
Q2　あなたの通っている中学校名を教えてください



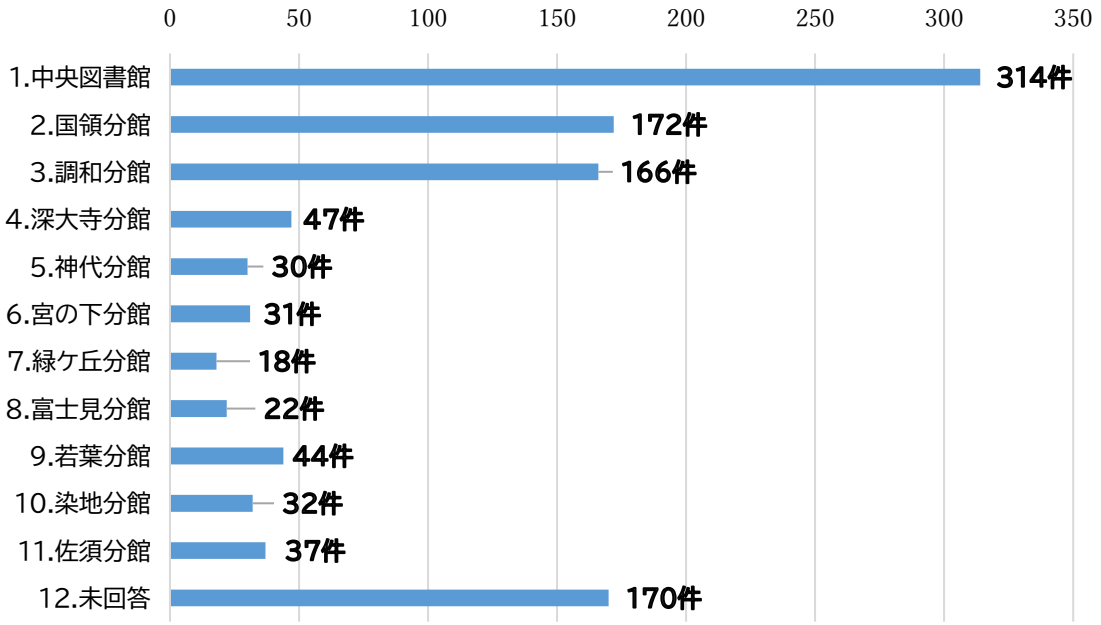
Q3　あなたの通っている高等学校名を教えてください



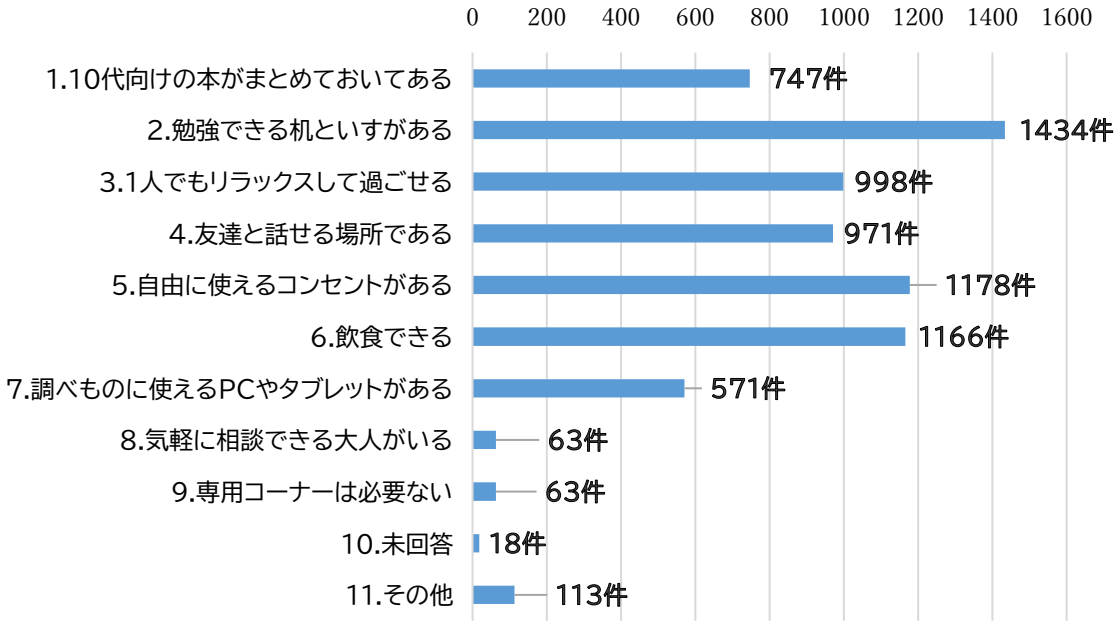
Q4　現在、調布市立図書館をどのくらい利用していますか？



Q５　利用したことのある館を教えてください（いくつでも）



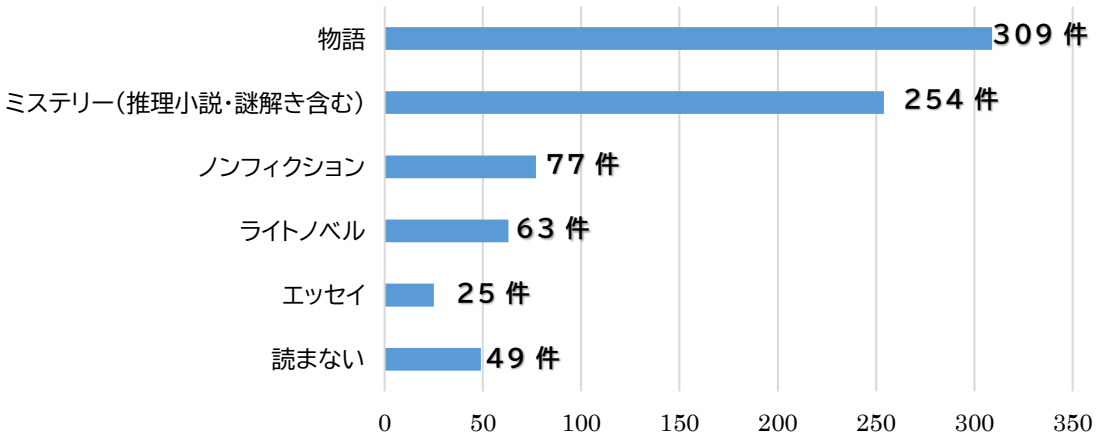
Q６　図書館に１０代のみなさん専用のコーナーがあるとしたら…
そこはどんなところだといいなとおもいますか？（いくつでも）



Q7　普段どんな本を読みますか？（マンガ・雑誌・新聞・電子書籍でもOK！）〈好きな本のタイトルやジャンル、作者名など〉

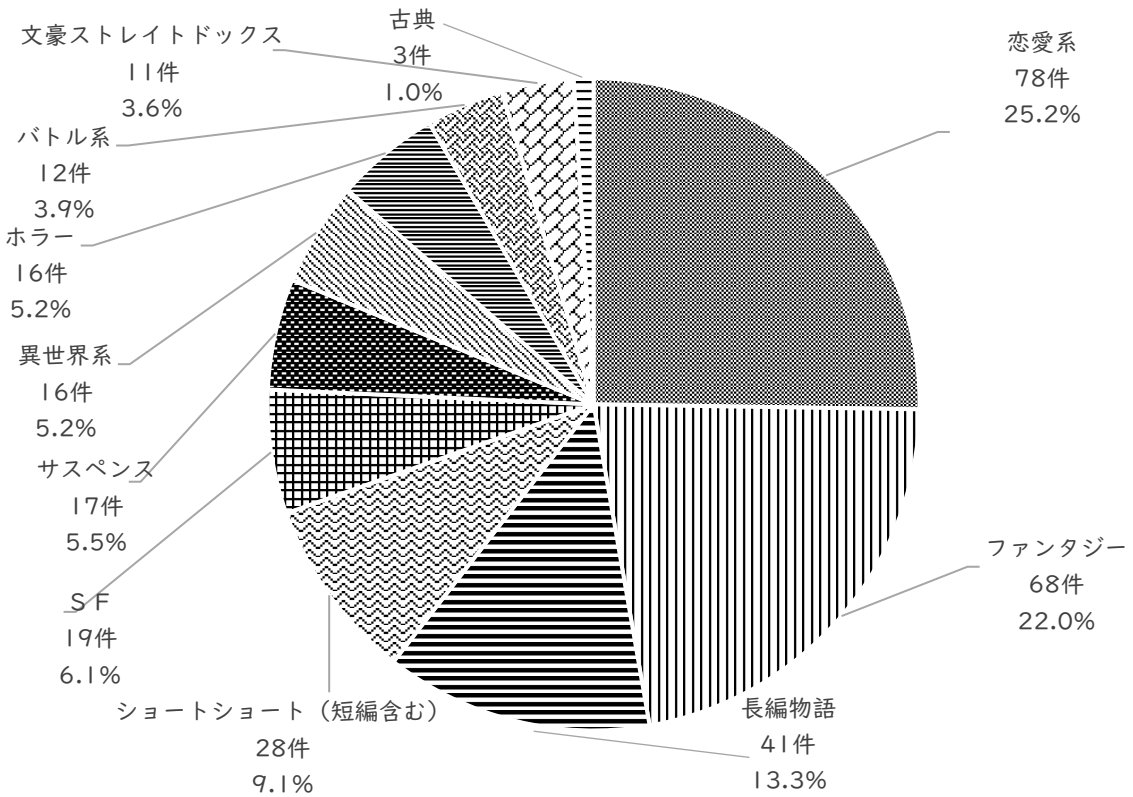
（自由記述）

＜ジャンルによる分類＞



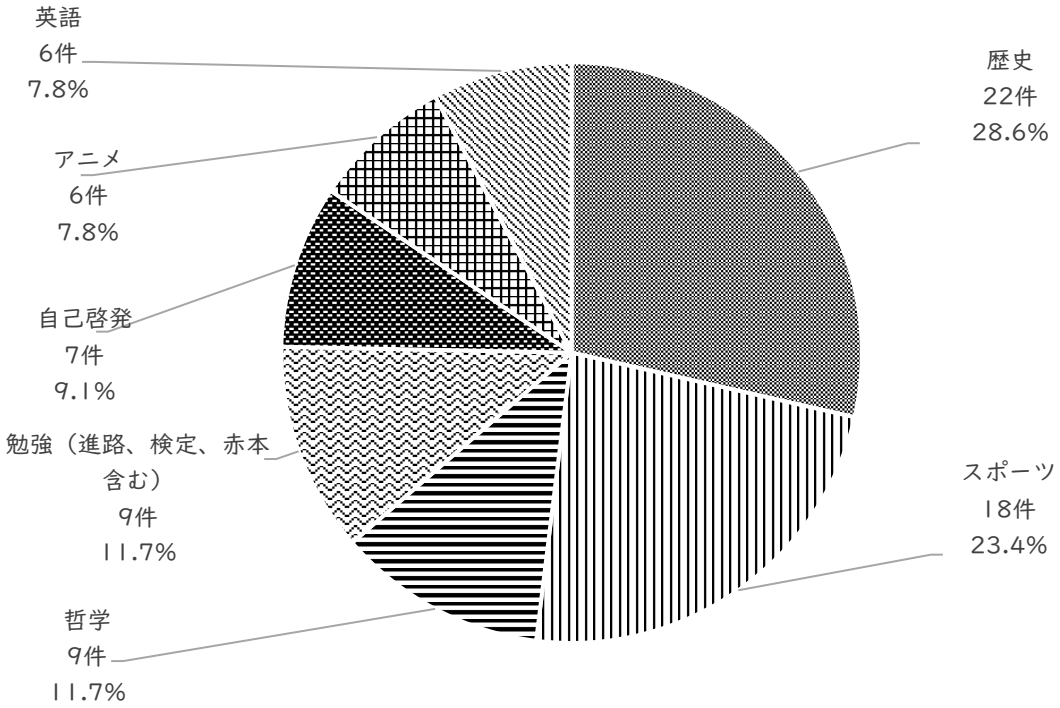
※「ミステリー」は特に件数が多いため、別ジャンルとしてグラフを作成しました。

＜物語内訳（合計 309 件）＞

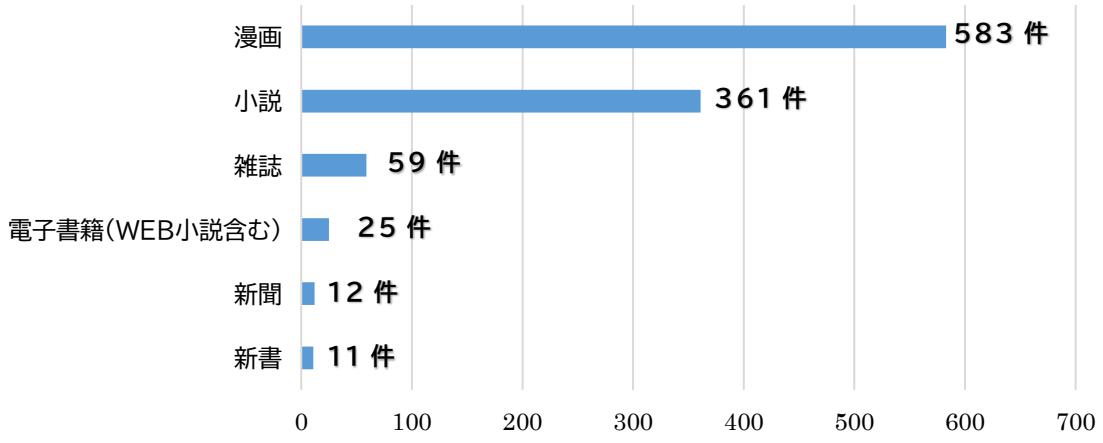


※『文豪ストレイドッグス』は個別タイトルですが、記入者が 10 人以上いたため、項目を分けました。

＜ノンフィクション内訳（合計 77 件）＞



＜形態による分類＞



Q8　図書館においてほしい本のタイトルがあれば教えてください
（自由記述）

【全般】

・漫画全般 97

・参考書・問題集（英検、漢検、TOFLE、TOEIC、基礎英語、赤本等含む） 13

・ライトノベル 9

・なんでもいい（なんでも好きです。ほとんどそろっているから） 6

【個別タイトル】 ※★印のタイトルは図書館に所蔵あり

（漫画）

・『ONE PEACE★』 66

・『キングダム』 23

・『呪術廻戦』 28 ほか

（日本文学）

・『かがみの孤城★』 15

・『5分後・5秒後シリーズ★』 14

・『ツナグ★』 8

・『あの花が咲く丘で君とまた出会えたら★』 5 ほか

（ライトノベル）

・『転生したらスライムだった件★』 12

・『薬屋のひとりごと★』 9 ほか

（海外文学）

・『ハリーポッターシリーズ★』 7

・『アルジャーノンに花束を★』 3 ほか

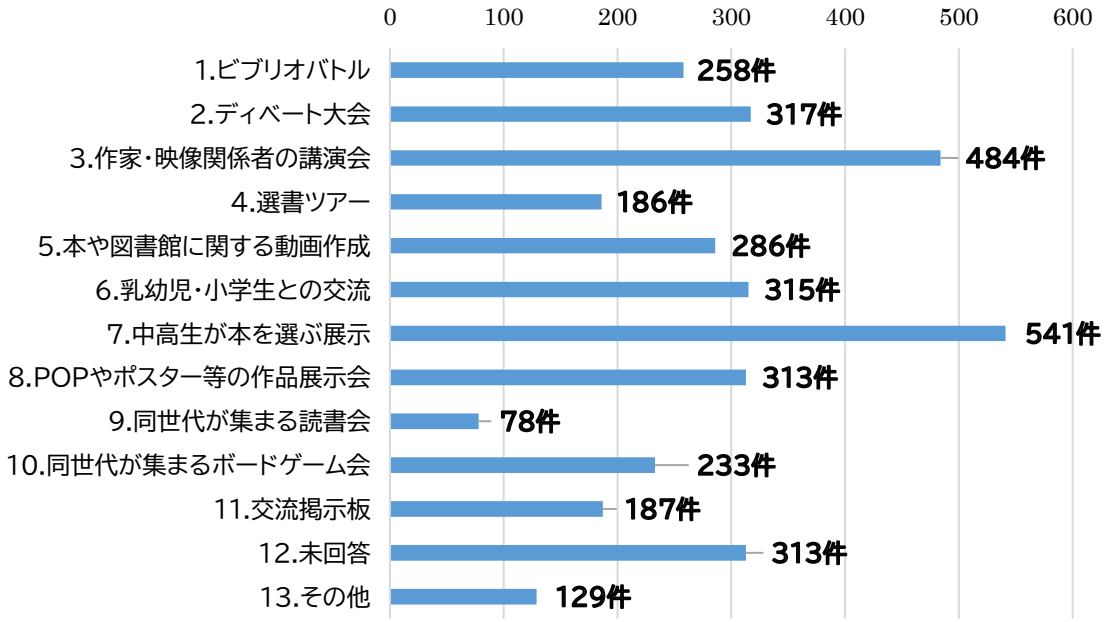
（ノンフィクション）

・『スマホ脳★』 2 ほか

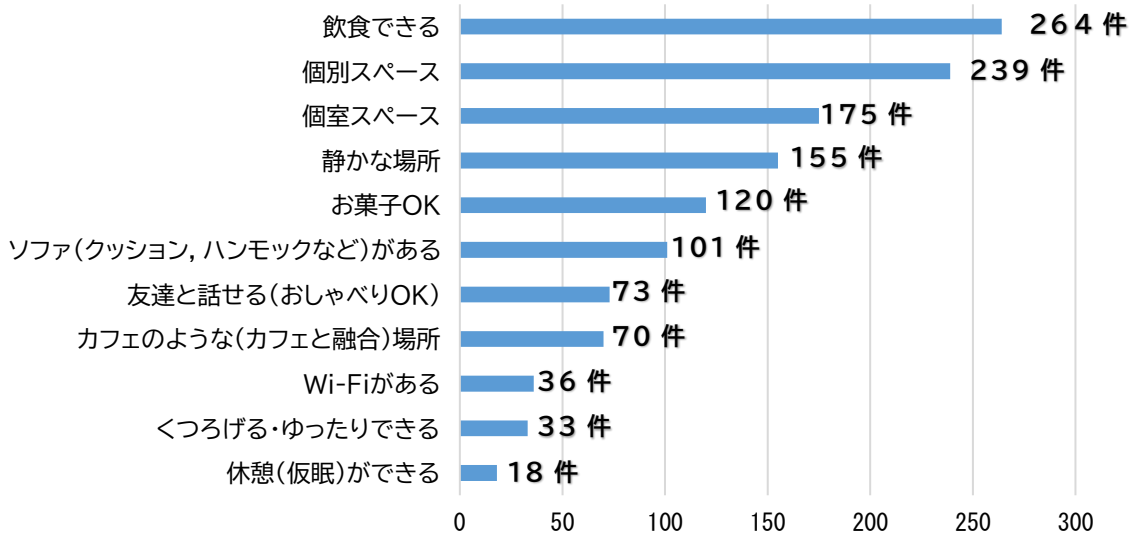
【雑誌】

漫画雑誌、ファッション誌、スポーツ誌に要望があった。

Q９　１０代のみなさんと図書館で一緒にイベントを実施したいです！どんなイベントだったら参加してみたいですか？（いくつでも）



Q10　あなたのえがく理想の図書館像はどんなものですか？
（「お菓子が食べられる」「マンガ喫茶みたいに個室スペースにこもれる」など、“こんなことできたらいいな…“を教えてください）
（自由記述）



※「個別スペース」は、現状の図書館にある一般室・子ども室のように、ＹＡ世代専用の場所を指しています。

※「個室スペース」は、閲覧スペースとは異なり、個人で使用できる扉付きの区切られた部屋を指しています。

【特徴的な回答】

（施設に関すること）

・アットホームな感じで、木のぬくもりを感じるようなスペースがたくさんある、建築的にも雰囲気的にあったかい感じの図書館
・しゃべりながらできるところと静かにできるところの両方がある
・植物がたくさんあってリラックスできるスペース
・冬はこたつに入りながら本を読みたい
・たたみの上で本を読みたい
・太陽光が多く差しこんで空が見える
・街を一望できる超高層図書館
・超高速エレベーター
・駅直結明大明治から歩いて１秒
・小上がりスペース、机といすのスペース、カフェが書架とおなじフロアーにある
・秘密基地のような個室スペースやハンモックがあり自由に利用できる
・筋トレスペースがあり休憩で本を読める
・浮いてる“図書館”
・かくれががある
・映画が見れる、マッサージ機がある
・視覚過敏気味なので照明の色はオレンジ系だと助かります。白っぽいと文字が反射して読みづらいので・・・

（サービスに関すること）

・借りたい本を学校の図書館で受け取ったり、返却できるとうれしい。また、返却に関しては郵便局のポスト投函も便利だと思います
・本の感想を友達と喋ったり壁に貼る系のとかで他の人と共有できたらいいなって少し思いました
・POP が沢山あると嬉しい！！→選びやすいから

（イベントに関すること）

・スタンプラリー的なもの（本を読んだらスタンプ集めると本に関するものがもらえるとか）

・利用者同士で本をオススメし合うコーナーがある
・司書さんだけじゃなくて同世代の子のおすすめする本とかも知りたい
・読めば読むほどポイントがたまる。なにかと交換できる
・学生も働いたりボランティアできる
・ビデオ視聴部屋が複数ある。定期的に映写会が開かれる

（蔵書に関すること）
・絶版になった本が沢山ある
・古今東西のアニメ、時代劇、特撮の本を所蔵している
・映像作品の設定資料集、ムック本、シナリオを置いてほしい
・購入できる本のスペースがある

（その他）
・今のままがいいです。図書館に入ったら司書さんが毎回「こんにちは」と声をかけてくれて心が温かくなります。小学生の子がどらえもんの漫画を読んでいたりおじいさんがスポーツ新聞を読んでいたりおばあさんが雑誌を読む、そんな当たり前の日常に心がほっこりします。学校の図書館では静かにするというルールが守れない人がおり集中して読めないこともありますが図書館は私にとって最高の憩いの場です。

6　用語解説　本文中の※を記載した単語について掲載しています。

あ行

アクセシブルな資料（p.43、45、54）

LLブック・点字資料・大活字本・布の絵本・DAISY（デイジー）図書・マルチメディアDAISY図書等、紙の本のままでは読めない・読みづらい人たちにも読めるよう配慮した資料。

あそビバ（p.11、33、41）

放課後等に小学校内または近隣の施設を活用し、こどもが自由で安全に利用できる遊び場・居場所を提供している事業。「遊び場」と「viva（万歳）」の二つの意味から名付けられた。

アニマシオン（p.40）

本の内容に関してゲームをすること。こどもが潜在的に持つ「読む力」を引き出し、本を理解し、深く考え、自ら進んで読書を楽しむことができるようにするはたらきかけ。

絵本ドライブ（p.34、53）

調布市社会福祉事業団の公益的な取組の一環で、不要になった絵本を集めて、地域のお祭りなどでプレゼントしている。

絵本の読み聞かせ講座（p.24、28、52）

絵本の楽しさや面白さ、集団に向けた読み聞かせの方法を伝えるため、市立図書館が毎年開催している講座。読み聞かせを始めたい方や、すでに行っている方を対象に、読み聞かせの留意点や絵本の選び方等について解説する。

ＬＬブック（p.27、43）

知的障害や発達障害等で読み書きが不自由な人たちが読みやすいように工夫された本。「LL」はスウェーデン語の「やさしく読みやすい」を意味することばの頭文字。

か行

学習支援機能（p.20、38、39）

学校図書館機能のうちの一つ。学習センター及び情報センターとして、児童生徒の主体的な学びを支え、情報活用能力を育てるために、資料・場・人を通して学習を助けること。

学校図書館運営委員会（p.17、47）

学校図書館の目標や運営方針、学校図書館全体計画、読書活動推進計画、図書館活用計画等を協議する校内の組織。多くは校長の下、図書主任を中心に教職員や学校司書などで構成される。

学校図書館運営連絡協議会（p.18）

学校図書館の運営や活用について、関係者が情報共有や連絡調整・研修を行うための会議体。

学校図書館機能（p.39）

学校図書館が果たすべき役割を示す概念。中心は 読書センター・学習センター・情報センター の三つとなる。

学校図書館支援センター機能
（p.18、47、48）

教育部指導室がもつ機能の一つ。学校図書館の運営支援、図書選定購入の支援、授業での図書館活用、学校同士や公共図書館との連携促進、司書や教職員の研修や相談対応を行う。

学校図書館全体計画（p.17、47）

学校教育目標・学校教育計画・学習指導要領を踏まえ、学校図書館の目標、ねらい、指導の重点等を示す学校図書館の活用計画。

学校読書調査（p.7、8）

全国学校図書館協議会で、児童生徒の読書状況について、毎年行っている調査。全国の小学生（４～６年生）、中学生（１～３年生）、高校生（１～３年生）を抽出して実施している。

家庭教育講座（p.32、51）

家庭が円満になる方策や子育ての悩みの解消や軽減など、実際生活に即した学習テーマの講座。また、参加者の仲間づくりや共同学習・相互学習の活性化を支援する。

教育支援センター「太陽の子」（p.25）

市立小学校に在籍する不登校の小学４年生～６年生の児童を対象に、一人一人の状況に応じた学習や体験活動、相談等を行う教育支援センター。安心して過ごせる居場所を提供しながら、学校や家庭と連携し、社会的自立に向けた支援を行う。

国際交流センター（p.27、56）

市民を中心とした草の根の国際交流を進める組織として平成６年１１月に設立された調布市国際交流協会の事業を令和６年４月に調布市文化・コミュニティ振興財団が継承した組織。

子育てひろば事業（p.31）

児童館の施設を利用し、子育て中の親子の交流の場を提供するとともに交流の促進を目的としている。同世代の仲間や地域の方との交流を通じて、利用者が楽しく子育てできるよう支援する事業。幼児ひろば・赤ちゃんひろば（おもちゃで自由に遊ぶ）、ランチルーム、子育ての相談（助産師相談等）、子育て講座、季節の行事、身体計測、利用者の自主サークルの活動の支援などを行っている。

子ども読書の日（p.4、19、38、40）

毎年４月23日。こどもの読書活動についての関心と理解を深め、積極的に読書活動を行う意欲を高めるために、「子どもの読書活動の推進に関する法律」で定められており、国や地方公共団体において、様々な取組が行われている。

子どもの本に親しむ会（p.24、52）

絵本やおはなし、昔話や語りの楽しさを味わいながら、こどもの読書の重要性について市民と共に考えることを目的に、昭和６２年度から毎年、市立図書館が開催している講演会。こどもの本に関わる様々な分野の講師を招いている。

『このほんよんで！　第２版』
（p.22、39）

市立図書館員が読み聞かせの実践を踏まえて選んだ絵本リスト。昭和６０年度に初版発行。平成２２年度に第２版を刊行。令和３年度に第２版追録版を刊行。市内の各図書館で頒布している。

コミュニケーションボード（p.47）
ボードに書かれている文字や絵を指差すことで、自分の気持ちを相手に伝えることができる道具。

コロコロパンダ（p.34、42）
満３か月から１歳の誕生月までの乳児と、その保護者を対象とした事業。親子遊びと保護者の方同士の情報交換、育児相談の場を設けている。

さ行

児童及び生徒の読書の状況に関する調査（p.9）
東京都教育委員会が、隔年で公立学校や図書館における読書活動推進状況、公立学校の児童生徒の読書状況調査を行い、推進状況を把握するために行っている調査。

児童図書館員養成専門講座（p.28、49）
公益社団法人日本図書館協会が主催する講座。公共図書館の児童サービスの現場で中心的役割を果たし、指導者・助言者として活躍できる人を養成している。

小学生読書会（p.23、40）
本の世界の楽しさを知ってもらうため、毎月第１日曜日に、小学４年生から６年生までを対象に開催している読書会。テーマに沿って幅広い分野の本を紹介し、本にまつわるゲームやクイズなども実施している。昭和４４年度から継続して行っている。

『小学生にすすめる本　第２版』（p.22、26、39）
市立図書館員が選んだ小学生向きの推薦図書リスト。平成７年度に初版発行。平成２５年度に第２版を刊行。市内の各図書館で頒布している。

ショートステイ（p.34）
午前８時３０分から午後１０時までのこどもの預かり事業。状況に応じて宿泊も可能。病気、出産、家族の看護、冠婚葬祭等で一時的にこどもの世話ができないときに利用できる。

『数字で見る図書館活動』（p.14、15）
市立図書館の１年間の活動状況や資料の状況、取り組んだ事業をまとめた報告書。毎年１回発行している。

ストーリーテリング（p.20、38）
読み手が昔話や創作の物語を覚えて、本を見ずに語り聞かせること。語りや素話ともいう。

青少年教育講座（p.32）
青少年が安心して楽しく学べる学校以外の学習環境の中で、興味関心を共有できる異年齢の仲間づくりを支援する事業。親子工作教室や子ども科学教室などを行っている。

成人学級（p.32、53）
市民の自主的な企画・運営と自発的な相互学習・共同学習を基盤とした社会教育を推進・支援することを目的とする事業。

選書（p.18、22、44、48、56）
図書館の蔵書の充実度、利用頻度、利用者のニーズを考慮し、個々の資料を図書館で収集するかどうか決定すること。
市立図書館では、「調布市立図書館資料の収集・保存・除籍に関する基本的方針」

及び各分野の収集方針に沿って選書を行っている。

た行

大活字本（p.43、45）
視力の弱い方や、高齢で文字が読みづらくなった方が読みやすいよう、大きい文字を使った本。

だっこらっこくらぶ（p.27、43）
国際交流センターが主催する、外国人の保護者が未就学児と参加できる日本語教室。

調布市立学校図書館状況報告書（p.14）
市立学校図書館の１年間の蔵書数等の基本データや特別支援学級を含めた児童生徒の貸出等の利用状況をまとめた報告書。毎年１回発行している。

調布市立小学校教育研究会学校図書館部（p.20、25、40、56）
市立小学校の教員による任意の教育研究会で、教科や分野ごとの部会の一つとして、学校図書館・読書活動を担当する部。

DAISY 図書（p.45）
DAISY（デイジー）とは、Digital Accessible Information Systemの略で、「アクセシブルな情報システム」と訳される。デジタル録音図書の国際標準規格。視覚障害等により、普通の印刷物を読むことが困難な人々のために、カセットテープに代わるものとして開発された。

ディスレクシア（p.43）
知的能力や知覚能力には異常がないにもかかわらず、文字の読み書きが困難になる障害。

点字資料（p.45）
点字や、絵や図表を点で表した点図を使用した資料。

図書館ガイダンス（p.25、56）
図書館利用の促進と読書への動機づけのため、毎年、市立小学校の３年生全クラスを対象に行っている事業。中央図書館及び分館で、図書館の利用案内や、おすすめの本の紹介、ストーリーテリング等を実施している。

図書館公式キャラクター「じろ」（p.23、53）
平成２８年度の調布市立図書館開館５０周年を記念したキャラクター。その後、調布市立図書館の公式キャラクターになった。市の鳥メジロをモチーフにしている。


図書館公式キャラクター「じろ」

「図書館で調べものをするときに…」（p.20、22、25、38、40、56）
小学校中学年と高学年のこどもたちを対象に、テーマごとに調べ学習に役立つ本や調べ方を紹介したリスト。調布市立小学校教育研究会学校図書館部と市立図書館が協働して発行している。

トワイライトステイ（p.34）
午後５時から午後１０時までのこどもの預かり事業。仕事などで保護者の帰宅が遅いときに利用できる。

な行

布の絵本・布の遊具
（p.27、35、43、45、49、56）

聴覚・触覚・手足の運動・情緒など、様々な障害のあるこどもたちのために、布を使って作られた絵本。ボタンやマジックテープ等でしかけが施され、楽しく遊びながらこどもたちの成長・発達が助けられるよう工夫されている。

は行

パスファインダー（p.7、22、40）

あるテーマについて調べるときに役立つ資料や情報源、その探し方等を紹介した調べ方案内のこと。

ビブリオバトル（p.25、39）

発表者が順番に本の紹介をし、全ての発表終了後、全員が「一番読みたくなった本」に投票をして最多票を集めた本を「チャンプ本」とするゲーム。

ぶちねこ便（p.23、41）

中学生の交流と図書館利用の促進を目的に、毎月市立図書館が発行している、中学生向けの小冊子。中学生の「記者」たちが、日常生活での体験や感想・意見を届ける記事を作成・編集している。昭和５９年度から継続して発行している。

ブックスタート
（p.24、34、35、51）

絵本を通して乳幼児と保護者がゆっくり向き合い、楽しいひとときをもつきっかけをつくる事業。１９９２年イギリスで始まり、日本では平成１２（２０００）年の子ども読書年を契機に、子育て支援・読書推進事業として広まった。

ブックスタートパック（p.24、50）

市立図書館のブックスタート事業の一つ。平成１３年度から、１歳６か月児健康診査時に絵本リスト『このほんよんで！』（ブックスタート版）と図書館利用案内とをセットにしたブックスタートパックを配付。平成１９年度からは、３・４か月児健康診査時にも、リスト『赤ちゃんは絵本がだいすき！』を配付している。

ブックトーク（p.20、25、38、40）

特定のテーマに沿って、数冊の本を順序よく紹介すること。聞き手に本を読んでもらうことを目的としている。

ま行

学びの多様化学校分教室「はしうち教室」（p.25）

平成３０年４月に全国初の分教室型の不登校特例校として、第七中学校に開設した。文部科学大臣の指定を受けて、通常の学校とは異なる特別な教育課程を編成・実施する学校。現在は学びの多様化学校として、不登校生徒一人一人の状況に応じた多様な学びの機会を確保し、社会的自立に向けて支援している。

マルチメディアＤＡＩＳＹ図書
（p.27、43、45、47、49）

読書をサポートするデジタル録音図書。パソコン等で再生すると、画面に文字や挿絵が表示され、文章を読み上げる音声が流れる。音声で読み上げられている部分がハ

イライト（反転表示）され、読んでいる箇所や読み方を目と耳で確認しながら読むことができる。

みまモーニング（p.26）

市立小学校児童への早朝見守り事業。市立小学校の施設を活用し、学校始業まで児童が安心して過ごせる居場所を提供する。

や行

読み聞かせ交流会（p.24、52）

市内の幼稚園・学校・児童館などでこどもたちへの読み聞かせを行っている市民の交流を図るため、また、読み聞かせに興味をもっている人への情報提供の場とするための交流会。読み聞かせで困っていることの相談や、図書館職員による読み聞かせにおすすめの本の紹介をしている。

ＹＡ（ヤングアダルト）（p.22、23、25、28、41、45、48）

Young Adultの略。調布市立図書館では、主に、中高生世代を中心とした13～19歳のティーンエイジャーのことをいう。

刊行物番号
２０２６－●●

第５次調布市こども読書活動推進計画

発行　令和９年●月
調布市教育委員会　教育部　図書館
〒182-0026　調布市小島町 2-33-1
電話　042-441-6181